

琵琶湖博物館 年報

第 26 号

2021 年度（令和 3 年度）

滋賀県立琵琶湖博物館

2022 年（令和 4 年）6 月

ごあいさつ

2021年度は、昨年度から続く感染症蔓延の中での博物館活動となりました。4月の終わりから5月の始めにかけてや、8月の終わりから9月いっぱいにかけて、琵琶湖岸の緑地が閉鎖され、滋賀県にも緊急事態宣言が発令されたりしたことから、当館も臨時休館をいたしました。また、開館している日は、入館の予約制をはじめとする感染症対策も行いつつ、予防に努めて運営をしました。「はしかけ登録講座」や「新琵琶湖学セミナー」などの講座のほか、博物館実習についてもオンラインでの実施になったことは残念でしたが、オンラインになったことでセミナーには、遠方から参加していただいた方もあったようでした。

本年度は、新たな琵琶湖博物館の中長期計画（「琵琶湖博物館第三次中長期計画」）が始まったことも特筆すべきことです。この計画は10年間の期間に渡って行われます。計画の中では、6つの事業目標を掲げ、地域の方々と共に、琵琶湖やその周辺の価値を探り、学び、広く発信していくことを予定しています。

博物館は来館された方々に展示を見ていただくことだけが役割ではなく、積極的に地域社会を変革し、地域に貢献する場となる施設です。このために、その資源としての資料や情報を蓄積し、誰でもが使えるように整理し、資料や情報が持つ価値を研究していかなくてはなりません。こうしたことのためには、十分な時間と予算が必要となりますが、琵琶湖博物館では以前から制度的には存在していた研究専念日を本年度からしっかりと実施し、また、外部資金も確保しながら、皆様に使っていただく博物館の資源を充実させていく活動を強化しました。

7月～11月にかけては、第29回企画展示「湖国の食事（くいじ）」が滋賀の食事文化研究会と共同で開催されました。この企画展示は、滋賀に受け継がれてきた食事をめぐる文化を紹介し、観覧した人がそれを知り、受け継いでいく主体となっていくことを目指すものでした。展示期間中には企画展示に関連したシンポジウム「未来を醸す～湖国の食事文化」が開催されましたが、ここには、食事や食材に関連して県内で活動されている方々にパネリストとしてお越しいただき、お話をお聞きしました。話していただいたお話の内容は大変興味深いもので、琵琶湖地域には地域の持つ価値に注目して活動されている方々がたくさんおられることに改めて気づかされました。シンポジウムを聞き終えて、中長期計画を進める中で、こうした方々が、これまで以上に琵琶湖博物館に集い、発信し、さまざまな交流が生まれるような博物館になりたいと思った次第です。

新たな中長期計画は始まったばかりです。行ったり来たりとさまよいながら進むこともあるかもしれませんが、これからも地域の方々と共に、一步一步、目標に向かって進んでいきたいと思っています。

2022年5月20日

滋賀県立琵琶湖博物館
館長 高橋啓一

目 次

ごあいさつ	1
I 博物館機能の強化	
1 資料が活用できる博物館	
資料整備活動	
(1) 収蔵資料	4
(2) 資料の活用	10
(3) 資料の保管	14
2 研究を進めて活かせる博物館	
研究推進	
(1) 総合研究	15
(2) 共同研究	15
(3) 専門研究	16
(4) 研究審査委員会	17
(5) 研究助成を受けた研究	17
(6) 研究員の受け入れ	20
研究発信	
(1) 公表された主な研究業績	22
(2) 研究調査報告の J-STAGE 掲載とアクセス数	25
(3) 研究セミナー・特別研究セミナー	26
(4) 新琵琶湖学セミナー	27
(5) 琵琶湖博物館ブックレット	27
研究交流	
(1) 協力協定に基づく連携	28
(2) 研究機関との連絡活動	29
(3) 海外活動	29
研究部活動	
(1) 研修	29
(2) 薬品類の管理	30
(3) 研究備品の管理	30
(4) 研究環境の整備	30
(5) 研究・事業専念時間設定	30
3 新たな参加と発見ができる博物館	
展示活動	
(1) 常設展示の主な更新と期間限定の展示	31
(2) 企画展示	41
(3) ギャラリー展示・トピック展示等	48
展示室における新型コロナ対策	52
展示交流	
(1) コロナ禍における展示交流の構築	53
(2) 展示交流員のコロナ対策	53
(3) デジタルサイネージ	54
博物館連携	
(1) 滋賀県博物館協議会	54
(2) 烏丸半島活性化連携事業	54

4 体験と交流を促す博物館	
一般利用者へのサービス	
(1) 観察会・見学会等	56
(2) 講座・セミナー	57
(3) 体験教室	57
(4) 体験学習	59
学校連携	
(1) 学校団体	59
(2) 教育指導者等研修	61
企業連携	62
研修・実習	
(1) 国際交流	62
(2) 視察対応（国内）	62
(3) 博物館実習	62
(4) その他共催事業	63
5 対話と応援ができる博物館	
利用者主体の事業	
(1) フィールドレポーター	64
(2) はしかけ制度	65
地域交流活動への支援	
(1) 博物館内での支援活動	87
(2) 地域での支援活動	87
(3) 質問対応	88
(4) びわ博フェス 2021	90
琵琶湖博物館環境学習センター	
(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供	90
(2) 環境学習の交流の場づくり	90
情報発信活動	
(1) 地域発見！参加型移動博物館	91
(2) インターネットを利用した館外への情報提供	91
(3) 印刷物	93
(4) コンテンツの Web 発信	93
開館 25 周年記念シンポジウム	94
II 環境の整備	
1 拠点としての施設整備	
(1) 利用者用施設の整備	95
(2) 情報システムの整備	95
(3) 来館者アンケート調査	95
2 柔軟な運営組織	
(1) 組織	100
(2) 職員	101
3 社会的支援と新しい経営	
(1) 利用状況（2021 年度入館者数）	106
(2) 広報 PR 活動	108
(3) 予算	123
(4) 寄付など	123
4 存在基盤の確立	
(1) 琵琶湖博物館協議会	124
(2) 企画・計画	125
III 2021 年度をふり返って	
1 研究部	129
2 事業部	129
3 総務部	131

I 博物館機能の強化

1 資料が活用できる博物館

資料整備活動

琵琶湖博物館では、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」を中心として、その全体評価に関わるもの、博物館のテーマである「湖と人間」に関係する日本やアジア、世界の湖沼とその周辺地域における自然・人文・社会科学等に関する過去から現在までの資料を収集し、それらの整理、保管を行い、活用することで博物館活動の充実に努めている。

それらの資料は、実物資料のほか、生魚などの生体資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料があり、博物館職員や参加型調査による収集、受贈、受託、提供、交換、購入、製作などの方法によって受け入れられる。また、それらは必要な時に利用できるよう、各資料の体系に従って整理し、次世代へ引き継ぐために、長期間にわたって安全に良好な状態で保管する活動を行っている。保管や利用にあたっては、各資料に関する専門の学芸職員のほか、図書資料については、司書資格をもった職員が対応にあたっている。以下に、2021年度の資料整備および利活用の状況を示す。

(1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微小生物標本、水族資料（生体資料）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの収蔵品データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2021年度末現在で、博物館登録資料は687,834で、収蔵概数は1,460,723となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

1) 収蔵資料数

2022年3月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2021年度登録数	2021年度受入総数
地学	96,704	118,470	1,339	1,594
動物	192,464	368,013	1,015	615
植物	90,609	202,702	800	24
微生物	13,132	74,660	78	78
水族（生体）	22,059	26,102	19,957	22,375
考古	1,004	1,473箱と875	0	0
歴史	292	239	0	0
民俗	6,795	6,930	0	5
環境	0	1,515	0	0
図書	150,962と 7,178タイトル	156,000	2,288	4,002
映像	113,813	505,217	0	19
合計	687,834と 7,178タイトル	1,460,723と 1,473箱	25,477	28,712

【各分野別の詳細】

地学標本	2021年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	44	0	1,419	0	0	1,419	データベースの各アイテムへの入力作業中	43,400	51,690
岩石・鉱物	1,217	0	160	0	0	160		13,810	23,900
堆積物	78	0	15	0	0	15		38,237	40,220
プレパラート	0	0	0	0	0	0		1,257	2,660
小 計	1,339	0	1,594	0	0	1,594		96,704	118,470

動物標本	2021年度							累 積		
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数	
脊椎動物（魚類除く）	79	39	0	0	40	79		3,778	4,127	
内 訳	哺乳類骨格標本	5	0	0	0	5	新規登録5件	916	916	
	哺乳類乾燥標本	8	0	0	0	8	新規登録8件	162	162	
	哺乳類(その他)	17	0	0	0	17	新規登録17件	835	836	
	鳥類骨格標本	3	2	0	0	1	3	248	248	
	鳥類乾燥標本 (単、卵、レプリカ等含む)	46	37	0	0	9	46	本剥製標本4点 仮剥製標本40点 部分剥製標本1点 単標本1点	1,094	1,110
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0	0		43	43
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0	0		10	10
	爬虫類液浸標本	0	0	0	0	0	0		47	47
	爬虫類(その他)	0	0	0	0	0	0		44	91
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0	0		7	7
	両生類剥製標本	0	0	0	0	0	0		0	0
	両生類液浸標本	0	0	0	0	0	0		355	355
	両生類(その他)	0	0	0	0	0	0		17	302
魚類(淡水魚類)	781	21	420	0	10	451		59,193	87,868	
内 訳	乾燥骨格および アクリル包埋標本	0	0	0	0	0		2,678	2,678	
	DNA分析用標本	0	0	0	0	0		3,723	3,723	
	その他の液浸標本	781	21	420	0	10	451	新規採集、寄贈標本および 未登録標本の整理など、新規 登録781件	52,792	81,467
昆虫	26	0	26	0	53	79		102,506	242,925	
内 訳	昆虫液浸標本	26	0	26	0	0	26	新規受入標本の登録、収蔵 標本の薬液補充とパッキン	12,538	31,100
	昆虫乾燥標本	0	0	0	0	53	53	滋賀県産標本の整理、布藤 コレクションの登録作業	89,968	211,825
貝類	129	0	6	0	0	6	未登録標本の整理、新規登 録129件	14,626	18,036	
昆虫と貝類以外の無脊 椎動物（甲殻類、寄生 虫など）	0	0	0	0	0	0		12,361	15,057	
小 計	1,015	60	452	0	103	615		192,464	368,013	

植物標本	2021年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	800	0	0	0	23	23	同定・登録・ラベル貼付・収蔵・管理・低温処理・燻蒸庫燻蒸	90,608	190,324
コケ植物標本	0	0	1	0	0	1		0	11,037
植物液浸標本	0	0	0	0	0	0		1	1
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		1	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
プレパラート標本	0	0	0	0	0	0		0	1,162
小 計	800	0	1	0	23	24		90,609	202,702

微生物標本	2021年度							累 積	
	登録数	作成・撮影	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	24	0	0	0	24	24		7,721	7,721
微小生物プレパラート	32	0	0	0	32	32		3,997	4,027
珪藻プレパラート	22	0	0	0	22	22		1,414	1,419
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	25,324
珪藻顕微鏡写真デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	25,251
微小生物顕微鏡写真デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	10,052
微小生物動画ファイル	0	0	0	0	0	0		0	866
小 計	78	0	0	0	78	78		13,132	74,660

水族資料 (生体)	2021年度							累 積		
	登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数	
脊椎動物	18,605	1,020	454	14,650	2,235	18,359		21,357	22,690	
内 訳	哺乳類	12	0	18	0	0	18		14	17
	魚類	18,584	1,012	434	14,650	2,235	18,331		21,281	22,599
	両生類	6	5	0	0	0	5		38	50
	爬虫類	2	1	1	0	0	2		16	16
	鳥類	1	2	1	0	0	3		8	8
無脊椎動物	1,352	3,542	0	474	0	4,016		702	3,412	
内 訳	昆虫類	3	4	0	0	0	4		0	0
	貝類	658	76	0	264	0	340		361	361
	甲殻類	691	3,451	0	210	0	3,661		339	3,029
	扁形動物	0	11	0	0	0	11		2	22
小 計	19,957	4,562	454	15,124	2,235	22,375		22,059	26,102	

考古資料	2021年度			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)	0	0	資料写真のデジタル化 考古データベース公開準備	0	1,394(箱)
松原内湖遺跡木器等 (コンテナ数及び点数)	0	0		1,004	44(箱)と847
礎石・大型木製品等(床置き数)	0	0		0	19
展示用保管資料等(コンテナ数)	0	0		0	14(箱)
展示用大型資料	0	0		0	6
瓦・金属製品	0	0		0	21(箱)と3
小 計	0	0			1,004

歴史資料	2021年度						累 積	
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	0	0	0	0	0	館内で移管した資料と、収蔵庫にあつてこれまで管理台帳になかった資料を記録した 安土城考古博物館に「近江名所図」を貸出し、企画展では「日吉山王祭礼図」を展示した。また、学芸員のこだわり展示を5回開催した	292点	174件
二次資料 (レプリカ、模写、模)	0	0	0	0	0		0	46件
その他	0	0	0	0	0		0	19件
小 計	0	0	0	0	0		292点	239件

民俗資料	2021年度				累 積	
	登録数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	0	3	3		4,156	4,167
漁撈用具(船関係用具を含む)	0	2	2		2,639	2,655
二次資料	0	0	0		0	108
小 計	0	5	5		6,795	6,930

環境資料	2021年度				累 積		
	登録数	提供数	寄贈数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
民具・生活用具類	0	0	0	0		0	1,072
二次資料(食品等レプリカ)	0	0	0	0		0	436
その他	0	0	0	0		0	7
小 計	0	0	0	0		0	1,515

*収蔵資料の整理を行い、分類方法・件数記載方法を見直した。

図書資料	2021年度					累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
書籍	760	44	984	1,028	書籍レファレンス、コピーサービス(有料)、 フィッシュ管理・資料整理として 蔵書点検 23,295点、図書装備約 1,000冊。その他、文献複写依頼 126 件、相互貸借借受 1件、デジタル化 資料送信サービスの利用は 14件	94,051	97,000
文献	930	0	930	930		56,911	59,000
雑誌	598	182	1,862	2,044		7,178(タイトル) (※)	
小 計	2,288	226	3,776	4,002		150,962と 7,178(タイトル)	156,000

※ 雑誌は総タイトル数を表示(雑誌の総冊数は算出不可)。ニュースレターを含まない。博物館関係の雑誌を含む。

Nacsis-Cat 目録所在情報サービス	2021年度 登録数	累 積 登録資料数
図書	127	20,991
雑誌	428	452
小 計	555	21,443

映像資料	2021年度						累 積		
	登録数	撮影	移管数	寄贈・寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	0	0	0	0	大橋コレクションの公開と追加 登録準備、画像データベース 資料データの修正など	113,813	495,359
動画資料	0	0	0	0	19	19	展示関係資料提供	0	9,858
小 計	0	0	0	0	19	19		113,813	505,217

2) 寄贈者および提供者 敬称略 (点数)

【地学資料】

化石：田村幹夫 (367) 長 朔男 (500) 馬越仁志 (552)
岩石・鉱物：初田昌明 (149) 増森由美子 (3) 湖東第三小学校 (8)
堆積物：京都市立科学館 (15)

【微生物標本】

カイミジンコプレパラート：Robin James Smith (8)
ビワコツボカムリプレパラート：一瀬 諭 (24)
ビワコツボカムリ液浸標本：一瀬 諭 (24)
Achnanthydium catenatum プレパラート：小倉謙一 (2)
Achnanthydium catenatum 液浸標本：小倉謙一 (2)
Achnanthydium catenatum 液浸標本：西坂一成 (4)
Cymbella liyangensis 液浸標本：西坂一成 (2) 洲澤多美枝 (2) 泉野央樹 (2)

【多種混合標本】

ノリ液浸標本：有明水産・古賀哲也 (2)
温泉藻類液浸標本：守山市役所・今村考次・奥村真紀 (2)
アオミドロ珪藻など：大塚泰介 (1)
多種混合：井上晴絵 (1)

【その他無脊椎動物標本】

モクズガニ：川瀬成吾 (1)

【動物標本】

哺乳類 (その他)：植村美由起 (30)
鳥類骨格標本：上田栄一 (1)
鳥類乾燥標本：井上 茂 (1) 上田栄一 (1) 宇野啓明 (1) 柿木理志 (1) 滋賀県琵琶湖環境部自然
環境保全課 (1) 高島市役所 (1) 幅野陽介 (1) UNEP (ILRC) 職員 (1)
魚類液浸標本：森 剛史 (長浜バイオ大学) (1) 片山優太 (19) 伊藤 玄 (龍谷大学先端理工学部) (2)
渡辺勝敏 (京都大学大学院理学研究科) (400) ぼてじゃこトラスト (1)
玉津小津漁業協同組合 (1) 竹野誠人 (2) 小山直人 (1) 野口亮太 (1)
昆虫液浸標本：中峰 空 (箕面公園昆虫館館長) (2)
昆虫乾燥標本：はしかけ「虫架け」(30) 桐村信行・中川 優・武田 滋 (22) 天守 証 (1)
貝類液浸標本：三田村学歩 (滋賀県立大学大学) (6)

【植物標本】

さく葉標本：森小夜子 (1) 大槻達郎 (4) 村田 章 (1) 栗林 実 (2) 中井克樹 (5) 芦谷美奈子 (9)
村上大介 (1)
コケ植物標本：山下 悟 (1)

【民俗資料】

生活生業用具：比良岡七郎 (2) 滝岡義雄 (1)
漁撈用具：滝岡義雄 (2)

【図書資料】 合計 (343)

蓮沼 修 (258) 柏谷健二 (50) 矢野宏二 (6) 中野聰志 (6) 萩生田憲昭 (2) 高橋啓一 (2)
用田政晴 (2) 高石清治 (2) 岡村喜明 (1) いけだけい (1) 北村美香 (1) 中西美智子 (1)
浅川満彦 (1) 樋口善一郎 (1) 田中隆文 (1) 三田村緒佐武 (1) 藤岡康弘 (1)
虎御前山古墳と中世城郭保全顕彰会 (3) 大津市歴史博物館 (2) 伊吹山ネイチャーネットワーク (1)

3) 移管資料

なし

4) 購入資料

なし

5) 水族繁殖生物

種名	学名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	81
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	110
アカヒレタビラ	<i>Acheliognathus tabira erythropterus</i>	93
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	76
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus smithii smithii</i>	19
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	30
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus atremius suigensis</i>	48
ミヤコタナゴ	<i>Tnokia tanago</i>	53
ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>	73
アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i>	15
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>	200
タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	190
シナイモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila</i>	130
ビワヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus microoculus</i>	6
ヨドゼゼラ	<i>Biwia yodoensis</i>	43
ズナガニゴイ	<i>Hemibarbus longirostris</i>	180
ドジョウ科		
ナガレホトケドジョウ	<i>Lefua torrentis</i>	70
ビワコガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis minamorii oumiensis</i>	157
アジメドジョウ	<i>Niwaella delicata</i>	13
メダカ科		
ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	15
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus</i> subsp. 2	300
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	75
外国産魚類		
カワスズメ科		
シュードトロフェウス・デマソニー	<i>Pseudotropheus demasoni</i>	64
クセノティラピア・フラビピンニス	<i>Xenotilapia flavipinnis</i>	9
スキアエノクロミス・フライエリー	<i>Sciaenochromis fryeri</i>	25
ジュリドクロミス・マルリエリ	<i>Julidochromis marlieri</i>	95
コイ科		
ヒメハヤ	<i>Phoxinus phoxinus</i>	46
ブリーム	<i>Abramis brama</i>	19

(2) 資料の活用 (＊月日は許可日)

1) 資料の貸出 (研究依頼を含む) 計 13 件 457 点

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	7	大東市立歴史民俗資料館	アカネズミ剥製 1 点	企画展での展示
6	8	大津市歴史博物館	古琵琶湖層群動物化石 9 点	企画展での展示
6	8	岐阜市歴史博物館	唐橋遺跡出土資料 1 式	借用期間延長
7	3	倉敷芸術科学大学	Rhodeus notatus 16 個体	学術研究
7	13	水族寄生虫研究室	エラオ類標本 24 点	学術研究
8	18	米原市伊吹山文化資料館	唐橋遺跡出土資料 2 点	企画展での展示
9	30	安土城考古博物館	唐橋遺跡出土資料 1 点 松原内湖遺跡出土遺跡 1 点	特別展での展示
10	22	栄寿会	大橋コレクション 6 点	作品展での展示
11	4	京都大学動物生態学研究室	シマドジョウ属標本 22 個体	学術研究
12	1	石川弘樹	カイツブリの冷凍試料 4 点	博士論文執筆
12	10	東京大学遠藤一佳研究室	カイツブリ死体 4 個体	学術研究
1	27	京都大学動物生態学研究室	アブラハヤ・タカハヤ類標本 45 点	学術研究
3	18	倉敷芸術科学大学	大教大コレクション 約 300 点	学術研究
3	25	京都大学動物生態学研究室	ムギツク・イトモロコ標本 25 点	学術研究

2) 資料の譲与 計 10 件 167 点

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
8	5	京都市動物園	スッポン 1 個体	展示および繁殖
9	9	富山大学大学院	アカギツネ標本 2 点	学術研究
10	10	世界淡水魚園水族館	カヤネズミ 2 個体	展示
3	4	さいたま水族館	ニッポンバラタナゴ 30 個体	展示および繁殖
3	5	京都市動物園	イチモンジタナゴ 30 個体	展示および繁殖
3	5	龍谷大学丸山研究室	冷凍ハス 10 個体 冷凍アカムシ 5 ブロック 冷凍スジエビ 25 個体	学術研究
3	10	平安神宮	イチモンジタナゴ 40 個体	生息域外保全
3	18	龍谷大学先端理工学部	ネコギギ飼育水 10	学術研究
3	18	大阪府立高津高等学校	タイリクバラタナゴ飼育水 10	学術研究
3	23	宮津エネルギー研究所水族館	ドブガイ 20 個体	イチモンジタナゴ生息域外保全

3) 特別観覧

<映像資料・静止画> 計 35 件 205 点

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
6	1	NHK 大津放送局	多羅尾豪雨写真 2 点	報道番組での使用
6	1	誠分堂新光社	タニガワナマズ写真 2 点	「日本の淡水魚図鑑」への掲載
6	11	滋賀県立美術館	オオクチバス写真 1 点	展示およびカタログへの掲載
7	3	国立科学博物館	化石林写真 2 点	特別展での使用
7	3	近江八幡商工会議所 はちまん青年経営者会	魚類写真 25 点	地引網体験事業での使用
7	21	滋賀県環境保全協会	ニゴロブナ写真 1 点	記念誌への掲載
7	21	近江八幡市教育委員会	災害写真 1 点	教科書副読本への掲載

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
8	20	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	魚類写真 23点 水草写真 10点 貝類写真 8点	学習のしおりへの掲載
8	26	第一学習社	魚類写真 2点	教科書副教材への掲載
10	2	滋賀県琵琶湖環境部 環境政策課	魚類写真 51点	オンライン配信講座での使用
10	5	田原本町教育委員会	魚類写真 1点 貝類写真 1点	企画展印刷物への掲載
10	21	湖の国のかたち 市田 恭子氏	前野隆資氏撮影写真 1点	会員誌への掲載
11	9	田原本町教育委員会	魚類写真 5点	企画展印刷物への掲載
11	10	日本文教出版株式会社	C展示室写真 1点	教科書および関連商品等への掲載
11	24	守山市はたるの森資料館	貝類写真 4点	展示での使用
11	25	滋賀県漁業協同組合連合会	魚類写真 2点	配布資料への掲載
12	2	新興出版社啓林館	博物館外観写真 1点	教科書およびデジタル教材への掲載
12	10	振興出版社啓林館	ビワコオオナマズ写真 1点 C展示室写真 1点 博物館外観写真 1点	教科書および関連教材への掲載
12	15	NHK 大津放送局	姉川自身写真 3点	報道番組での使用
1	4	平凡社	大橋宇三郎コレクション写真 1点	「歴史と民俗」38号への掲載
1	10	サンライズ出版	イルカ類化石写真 1点 民具写真 14点 民俗写真 2点 オオクチバス写真 1点	「12歳から学ぶ滋賀県の歴史 新版」への掲載
1	11	湖南市教育委員会	C展示室資料 10点	副読本への掲載
1	19	滋賀県立大学地域共生センター	大橋宇三郎コレクション写真 9点	インタビュー記事への掲載
1	30	近江八幡市立岡山小学校	水族展示室写真 1点	副読本への掲載
1	31	フォルテ森林技術経営研究所	愛知川化石林写真 1点	普及啓発資料への掲載
2	8	湖南市立岩根小学校	伊勢湾台風資料 1点	副読本への掲載
2	28	東京書籍株式会社	がけ剥ぎ取り標本写真 1点	教科書および関連教材への掲載
2	28	光村図書出版株式会社	水族展示室写真 1点	教科書および関連教材への掲載
2	28	サンシャインエンタプライズ	ニゴロブナ写真 1点	展示での使用
3	3	石黒 健一氏 (京都府京都市)	オオクチバス写真 1点	インスタレーション作品への使用
3	3	童夢	昭和の家電写真 1点	「マンガと図解で身につく よく わかる電気」への掲載
3	13	広島大学教育学部	ヨコエビ類写真 2点	出版物への掲載
3	18	滋賀県琵琶湖環境部 森林政策課	山の神行事の映像資料 1点 鏡山写真 1点	動画作品での使用
3	23	淡路市教育委員会	魚類写真 2点	特別展での使用
3	24	栄寿会 草野 治男氏	大橋宇三郎コレクション写真 3点	総会資料への掲載

<映像資料以外・館内熟覧・撮影> 計 20 件 363 点

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
5	18	滋賀県立大学	湖成鉄 1点	「金属」への掲載
6	3	大津市歴史博物館	近江水産図譜 4点	企画展での展示
6	4	京都先端科学大学	石材加工整形・家事用具 1点	学術研究
6	15	テイケイトレード株式会社	沈子写真 4点	発掘報告書への掲載
7	19	北九州市立自然史・歴史博物館	ナマズ属魚類 約 100点	学術研究
7	29	京都先端科学大学	豎瓶 2点	論文への掲載
7	29	京都先端科学大学	民具挿し絵 3点	論文への掲載
8	12	滋賀県文化スポーツ部 文化財保護課	踏車等揚水関係資料 1式	有形民俗文化財調査
8	13	滋賀県立安土城考古博物館	松原内湖遺跡出土資料 2点 唐橋遺跡出土資料 1点	特別展に係る資料調査
8	27	滋賀県立大学	高師小僧 1点	「金属」への掲載
8	31	集英社インターナショナル	国立歴史民俗博物館所蔵画像 データ 3点	「新書版 性差の日本史」への掲載
10	13	神野 善治氏	民具資料 5点	共同研究に係る民俗資料調査
10	15	青木 繁氏	さく葉標本 150点	出版物作成のための資料
11	5	金田 章裕氏	近江名所図屏風 1点	出版物への掲載
11	27	龍谷大学	魚類標本 77点	学術研究
1	13	滋賀県森林政策課 林業普及センター	琵琶湖真景図 1点	ギャラリー展示での使用
1	21	フォルテ森林技術経営研究所	丸子舟資料 2点	普及啓発資料への掲載
1	24	近畿地域づくり研究所	瀬田川筋絵図 1点	出版物への掲載
2	28	文化庁文化財第二課	粟津湖底遺跡模型 2点	「水中遺跡ハンドブック」およびホームページへの掲載
3	3	東京大学史料編纂所	東寺文書 26号 1点	「大日本史料」への掲載

4) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用されるが、そのことによって多岐にわたる成果があがる。また、資料が利用されてから実際に成果が論文などの形にまとまるまでに要する時間もさまざまである。2021年度には以下の論文・書籍が公表された。また記載漏れがあった成果も合わせて記載した。

<書籍>

島本多敬 (2022) 瀬田川筋絵図. 鈴木康久 編. 淀川水系 河川絵図集成 ～近世絵図から河川の利用と管理を学ぶ～, 一般財団法人近畿地域づくり研究所, 35, [歴史資料]

<論文>

R. Kakehashi et al. (2022) Amplification and Sequencing of the Complete mtDNA of the Endangered Bitterling, *Acheilognathus longipinnis* (Cyprinidae), using Environmental DNA from Aquarium Water. *Journal of Ichthyology*, Online first, [水族資料]

尾崎友輔ほか (2021) 滋賀県琵琶湖水系から初記録のシマヒレヨシノボリ. *Ichthy*, 5-9, [魚類液浸標本]

Yoshihito Yabuuchi, et al. (2021) Overview of the collection of aquatic macrophyte specimens from Mongolia collected by Dr. Etsuji Hamabata. *Bulletin of the Osaka Museum of Natural History*, 75: 79-106, [植物さく葉標本]

渡部圭一 (2021) 近代琵琶湖の堅釜 前編. *民具マンスリー*, 第54巻9号:17-22, [民俗資料]

Kokita et al. (2021) Gudgeon fish with and without genetically determined countershading coexist in heterogeneous littoral environments of an ancient lake. *ecology and Evolution*, Volume11, Issue19, 13283-13294, [水族生体資料]

上野雄規 (2016) 日本固有種フサタヌキモ(タヌキモ科)の分布と現在の生育地. *植物研究雑誌*, 91: 314-325, [植物さく葉標本]

5) 水族飼育員による生体資料の利用による成果

当館では、水族資料として生き物の生体を飼育しており、その飼育管理技術の向上に水族飼育員が取り組んでいる。今年度は、その成果を下記の通り発表した。また、当館で系統保存を行っている1種の魚類(ツチフキ)について日本動物園水族館協会より初繁殖認定を受けたほか、飼育技師資格認定試験に3名が合格した。

安川浩史・南條花菜子・御薬袋 聡・金尾滋史 (2021年6月18日) 産卵環境を整備した水槽内におけるズナガニゴイの自然産卵と卵の特徴. 日本動物園水族館協会第87回近畿ブロック水族館飼育係研修会, ウェブ開催, [口頭発表].

武富鷹矢・吉川真一郎・松田征也・金尾滋史 (2021年6月18日) 生息域外保全を目指したツチフキの自然繁殖の取り組み. 日本動物園水族館協会第87回近畿ブロック水族館飼育係研修会, ウェブ開催, [口頭発表].

松岡由子・南條花菜子 (2021年7月7日) カルガモの非感染性関節炎の一例. 日本動物園水族館協会令和3年度近畿ブロック動物園水族館臨床研究会, ウェブ開催, [口頭発表].

金尾滋史・安川浩史・南條花菜子・御薬袋 聡 (2021年9月18日) 飼育環境下で観察されたズナガニゴイの配偶行動と卵の特徴. 2021年度日本魚類学会年会, ウェブ開催, [ポスター発表].

武富鷹矢 (2022年3月4日) ツチフキ *Abbottina rivularis*. 初繁殖認定, 日本動物園水族館協会, [書類審査].

近藤玲央 (2022年3月10日) 飼育技師資格認定 (水族飼育), 日本動物園水族館協会.

寺島伊武樹 (2022年3月10日) 飼育技師資格認定 (水族飼育), 日本動物園水族館協会.

南條花菜子 (2022年3月10日) 飼育技師資格認定 (動物飼育), 日本動物園水族館協会.

初繁殖認定書



6) 資料の利用 (その他)

図書資料については、資料所蔵情報を館外に広く発信するため、2018年度よりデータベースを新システムに移行し、目録所在情報サービス (NACSIS-CAT) への所蔵登録を推進している。2021年度には、閲覧冊数が1,163冊、相互貸借による資料の貸出が1冊、文献複写サービスの受託が19件であった。

(3) 資料の保管

資料を保管するには、ガス燻蒸（エキヒューム燻蒸、二酸化炭素燻蒸）および冷凍処理など、防虫・防霉対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理、生物環境調査（昆虫トラップ調査）、定期的な清掃などの総合的有害生物防除管理（IPM）を行っている。

収蔵庫内の温湿度を管理するため、2019年度からクラウドサーバー上でリアルタイムに監視するためのシステムを導入しており、2021年度は動物収蔵庫に新設、湿度が不安定だった地学収蔵庫にデータロガーを追加した。また、湿度不安定と関係しているかもしれない収蔵庫地下ピットの調査を行い、水が溜まっていることを確認した。また、収蔵庫空間トイレの排水槽での大量のチョウバエ発生への対策として、外部への逸出防止策を施した上で、業者清掃を行い、乳剤散布を4回行った。

2021年度も新型コロナウイルス感染症の流行があった。万一感染者が出た場合の収蔵庫空間での過剰な消毒作業などを避けるため、休館期間中は資料の閲覧を制限し、各収蔵庫への入庫に際しては手洗いの徹底、扉に設置した入退室記録簿の記入を徹底するようにした。

1) 収蔵空間の管理

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 ・時間ごとに計測し、全データを保存。ほとんどの収蔵庫で、データロガーを使用し、クラウドサーバー上でリアルタイム監視を実施。 ・温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	・収蔵庫の清掃：月1回原則として第1金曜日に実施 ・収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週1回実施
特別清掃等	生物環境調査の結果から、特別清掃の実施(害虫の増加場所を対象とした一部展示室内)
生物環境調査	年3回の生物環境調査 ・2021年6月11日～6月25日 昆虫トラップ調査 252カ所(設置・回収・分析) ・2021年10月29日～11月12日 昆虫トラップ調査 252カ所(設置・回収・分析) ・2022年2月4日～2月18日 昆虫トラップ調査 252ヶ所(設置・回収・分析) *当館のIPM基準値 ・虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種（チャタテムシ）の個体数（捕獲指数）が 1

2) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ調査などといった、総合的有害生物防除管理（IPM）と合わせ、必要に応じた燻蒸処理を行っている。また、昆虫トラップの結果を踏まえて、害虫の発生源となりやすい箇所等について、今後の対策の検討を行っている。

新たに収集した資料や、収蔵庫外で活用後の資料は、収蔵庫への搬入前に燻蒸処理を行っている。大型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸を5回、エキヒューム燻蒸を2回実施した。また、密閉テント方式のエキヒューム燻蒸を1回、包み込み方式のエキヒューム燻蒸を1回実施した。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

2 研究を進めて活かせる博物館

研究推進

琵琶湖博物館では、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という5つの事業を総合的に行なっている。その中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果やその発信として、展示、資料、交流活動が行なわれ、研究が魅力的であれば、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

研究部では2021年3月に策定された琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に従い、特に事業目標1に掲げる「琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介」することを目指して、以下の3つの重点事業を推進している。

- 重点事業
- 1-1 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進
 - 1-2 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える
 - 1-3 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、学際的な総合研究やテーマをしぼった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。2017年度に整備した当館の研究評価実施要綱に従い、総合研究と共同研究については、研究計画調書ならびに説明によって、研究審査委員会の審査を受け、その結果を踏まえて、当館で行う研究課題を定めた。また、専門研究については、内部評価委員会を設置し、研究課題を検討し、助言を行いながら、研究を推進した。2021年度は、次の研究課題が実施された。

(1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、次の総合研究1件を行った。

- ・過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明
代表者：亀田佳代子，研究期間：2019～2023年度

(2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の11件であった。

- ・フナズシの歴史的な位置付けについての研究－「古フナズシ」の復元実験－
代表者：橋本道範，研究期間：2019～2021年度
- ・希少種の健全性評価に基づく保全に関する研究：生物多様性モニタリングと域外保全によるリスク分散－
代表者：大槻達郎，研究機関：2020～2022年度
- ・地域の自然史情報の価値づけと集約の場としての博物館の機能
代表者：金尾滋史，研究機関：2020～2022年度
- ・琵琶湖博物館所蔵魚類液浸標本の新しい活用研究と管理手法の構築
代表者：田畑諒一，研究機関：2020～2022年度
- ・侵略的外来種対策を推進するための対策検証と現状把握に関する研究
代表者：中井克樹，研究機関：2020～2021年度
- ・古琵琶湖層群および関東平野西縁地域における鮮新－更新世の湿地林の植生復元
代表者：山川千代美，研究機関：2020～2022年度
- ・琵琶湖のプランクトン電子図鑑の構築
代表者：大塚泰介，研究機関：2020～2024年度

- ・歴史景観生態学からみた森と人の関係
代表者：妹尾裕介，研究機関：2020～2023 年度
- ・西の湖周辺のヨシの品質と用途の関係、その成立要因に関する研究
代表者：芦谷美奈子，研究機関：2020～2023 年度
- ・水資源の利活用と地域再生
代表者：楊 平，研究機関：2020～2023 年度
- ・琵琶湖南湖堆積物中のアルカンによる水生植物生産量と陸上植物流入量の推定に関する基礎研究
代表者：里口保文，研究機関：2020～2023 年度

(3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。

環境史研究領域

- ・甲賀・湖南市の野洲川における古琵琶湖層群の堆積環境変化の解析（里口保文）
- ・針葉樹トウヒ属の葉化石の形態による分類（山川千代美）
- ・地域環境史の理論的構築（橋本道範）
- ・溜池の利用と保全（楊 平）
- ・植生－日本海環境変動の関係性解明に向けた因果推論とモデルシミュレーションの古生態学的応用（林竜馬）
- ・現代における伝統的知識・技能の継承（大久保実香）
- ・琵琶湖周辺地域の縄文土器の製作技術の検証（妹尾裕介）
- ・分布境界域・近縁種共存域である滋賀県産魚類の遺伝的集団構造（田畑諒一）
- ・明治初期滋賀県の普請所調査絵図に描かれた山地・河川・湖岸景観（島本多敬）
- ・湖沼に関する民俗知の基礎的研究（加藤秀雄）

生態系研究領域

- ・鳥の視点から見た鳥類と人との関係：鶺鴒に使われるウミウの行動と生態（亀田佳代子）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究（榎永一宏）
- ・南湖の沈水植物の種別平面分布特性（芳賀裕樹）
- ・深層学習およびMT法による珪藻自動同定システムの研究（大塚泰介）
- ・生物多様性の保全に関する基礎的研究（中井克樹）
- ・東アジアのカイミジンコデータベースの拡大（ロビン ジェームス スミス）
- ・農業体験や農業用水路を活用した環境学習が児童の意識に与える影響について（中川信次）
- ・土砂管理手法に関する河川モニタリング調査手法の検討（山中大輔）
- ・水田のイタチムシ類は琵琶湖に到達しているのか（鈴木隆仁）
- ・琵琶湖湖岸に生育する海浜植物における訪花昆虫相の解明（大槻達郎）
- ・琵琶湖固有種ホンモロコの放流に対する外的要因の影響評価（米田一紀）
- ・少花粉スギミニチュア採種園のDNA鑑定（美濃部諭子）
- ・コイ科カマツカ亜科魚類の比較解剖学的研究（川瀬成吾）

博物館学研究領域

- ・滋賀県多賀町の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石（八尋克郎）
- ・地球物理学からの博物館学の展開～「科学館」の在り方からのアプローチ（戸田 孝）
- ・イバラモ群落の成立環境とフェノロジーに関する研究（芦谷美奈子）
- ・滋賀県における水田利用魚類のリスト化と地形パターンとの関わり（金尾滋史）
- ・飼育下バイカルアザラシの摂取カロリーに関する研究4（松岡由子）

- ・特別支援学校における博物館の有効な利用法について（由良嘉基）
- ・子ども主体の視点から見た博物館の利用（安達克紀）

(4) 研究審査委員会

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏名	現職
足立 重和	追手門学院大学社会学部 教授
浦部美佐子	滋賀県立大学環境科学部 教授
齊藤 純	天理大学文学部 教授
高橋 美貴	東京農工大学農学研究院 教授
林田 明	同志社大学理工学部 教授
深町加津枝	京都大学農学部 准教授
細谷 和海	近畿大学 名誉教授
三木 崇史	滋賀県総合教育センター 科学教育係長
高橋 啓一	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
西村 武	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(5) 研究助成を受けた研究

琵琶湖博物館では、研究費用として外部資金を獲得することを推進している。その代表的なものは文部科学省科学研究費助成事業で、今年度は新規6件の採用と継続8件を合わせ計14件が採択された。学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものは以下のとおりである。

高橋啓一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究代表者（2018～2022年度）
- ・株式会社日立製作所との共同研究「コーンビーム CT 撮影法を用いた化石の非破壊分析手法の開発」共同研究者（2020年11月～2021年3月）

山川千代美

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022年度）

亀田佳代子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「時間情報解析による在来生物カワウと人との軌跡軽減のための「温故知新」研究代表者（2020～2022年度）
- ・岐阜市長良川鵜飼習俗総合調査委員会・関市小瀬鵜飼習俗総合調査委員会「全国鵜飼習俗基礎調査」調査者（2019～2024年度）
- ・国立民族学博物館共同研究会「日本列島の鵜飼文化に関するT字型学際共同アプローチ—野生性と権力をめぐって」共同研究員（2020～2022年度）

里口保文

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「湖環境への人為的影響をはかるための歴史時代における湖内植物生産量変動」研究代表者（2021～2023年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「テフラ粒子の数値化による新たな広域テフラの検出：500万年間の破局噴火の発生頻度」研究分担者（2021年度～2023年度）

橋本道範

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 A）「「菅浦文書」の総合調査及び村落の持続と変容の通時代的研究」研究分担者（2016年～2021年度）
- ・三菱財団法人人文科学研究助成「日本中世淡水魚消費の研究」研究代表者（2019年10月～2022年3月）
- ・京都大学人文科学研究所研究班「環境問題の社会史的研究」班員（2020～2022年度）

山中大輔

- ・琵琶湖環境研究推進機構「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究」流域環境研究「在来魚保全のための水系のつながり再生に向けた研究」研究分担者（2021年度）
- ・東京大学空間情報科学研究センターにおける研究用空間データ基盤の利用を伴う共同研究「高頻度・高精度地形情報を用いた河床における地形変化解析方法および地域住民への空間情報発信方法についての研究」共同研究員（2018年度～2021年度）

林 竜馬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「東シナ海の花粉分析からみる40万年間の植生の温暖化応答と海流・モンスーンとの因果」研究代表者（2019～2021年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「現植生分布の基となる最終氷期最盛期における植生の定量的復元」研究分担者（2019～2022年度）

大久保実香

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手 B）「他出者・他出二世による山村集落継承の可能性」研究代表者（2019～2022年度）

妹尾祐介

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「和食の成立過程の解明」研究分担者（2018～2021年度）

田畑諒一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「淡水魚類の保全ゲノミクス：自然史と危機診断を結ぶ枠組みの構築」研究分担者（2020～2022年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（国際共同研究強化 B）「カタツムリにおける左右二型現象の起源と進化動態」研究分担者（2020～2024年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「ゲノム情報で解き明かすジュズカケハゼ種群の多様性と進化プロセス」研究分担者（2019～2021年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「ゲノミクス系統地理情報を基にした淡水魚類の保全戦略マップの作成」研究代表者（2021～2023年度）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団盤 国内研究助成「改良版 MIG-Seq 法を用いた琵琶湖生態系に属する希少種の遺伝的診断と保全」分担者（2020年度～2022年度）
- ・タカラ・ハーモニストファンド 研究助成「琵琶湖固有ビワマスを新種として記載する保全学的研究」分担者（2021年6月～2022年6月）

島本多敬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「日本近世の河川管理システムにおける絵図の機能の解明」研究代表者（2021～2025年度）

- ・人間文化研究機構総合地球環境学研究所実践プログラム Eco-DRR プロジェクト「人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災 (Eco-DRR) の評価と社会実装」共同研究者 (2018～2022 年度)
- ・立命館大学アート・リサーチセンター 日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点 国際共同研究課題「鴨川古写真 GIS データベース」の構築と河川環境の変遷分析に関する研究」研究分担者 (2021 年度)

榊永一宏

- ・花博記念協会助成金「消滅の危機にある塩性湿地の水生双翅目昆虫相の解明」研究代表者 (2021 年度)

芳賀裕樹

- ・琵琶湖環境科学研究センター 政策課題研究⑥「南湖生態系に影響を及ぼす湖底環境等に関する研究」研究協力者 (2020～2022 年度)

中井克樹

- ・文部科学省科学研究費助成事業 (基盤 C) 「侵略的外来生物管理制度における「迅速な対応」成立の社会的条件に関する国際比較研究」研究分担者 (2019～2021 年度)
- ・環境省生物多様性保全回復施設整備交付金「滋賀県生物多様性保全回復整備事業」実施担当者 (2017 年度～)
- ・環境省生物多様性保全推進交付金および滋賀県侵略的外来水生植物戦略的防除事業費「琵琶湖外来水生植物対策協議会事業、ならびに環境省生物多様性保全回復施設整備交付金「滋賀県事業」事務局担当者 (2014 年度～)
- ・文部科学省科学研究費助成事業 (基盤 C) 「侵略的外来水生植物の生態解明及び防除手法の評価を踏まえた早期対応社会技術の確立」研究代表者 (2021～2023 年度)

スミス、ロビン ジェームス

- ・文部科学省科学研究費助成事業 (基盤 C) 「Native or invasive? Biodiversity, distribution and systematics of Ostracode (Crustacea) in Japanese rice fields」研究代表者 (2020～2022 年度)
- ・文部科学省科学研究費助成事業 (基盤 C) 「節足動物の超多様性の謎の解明：貝形虫を用いた進化精子学の創立に向けて」研究分担者 (2020～2022 年度)

大槻達郎

- ・文部科学省科学研究費助成事業 (基盤 B) 「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者 (2018～2022 年度)
- ・文部科学省科学研究費助成事業 (若手研究) 「海流散布植物を基盤とする昆虫群集における生物間相互作用の維持・創出機構の解明」研究代表者 (2021～2023 年度)
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団 国内研究助成「改良版 MIG-Seq 法を用いた琵琶湖生態系に属する希少種の遺伝的診断と保全」研究代表者 (2021 年度)

戸田 孝

- ・文部科学省科学研究費助成事業 (基盤 C) 「地域博物館での科学館活動で抽象的科学原理を扱う方法論の開発」研究代表者 (2021～2023 年度)

金尾滋史

- ・文部科学省科学研究費助成事業 (基盤 C) 「希少淡水魚アユモドキの水田水域への産卵遡上に適する魚道構造の研究」研究分担者 (2019～2021 年度)

中村久美子

- ・文部科学省科学研究費助成事業 (若手) 「博物館における幼児期の学びを定量的に評価する手法」研究代表者 (2019～2023 年度)

辻川智代

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「農閑期副業における手工業生産の考察―釜と籠生産を中心に」研究代表者（2020～2022年度）

天野一葉

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「侵略的外来種ソウシチョウにおける捕獲技術の高度化と管理ユニット策定」研究代表者（2019～2021年度）
- ・花博記念協会助成金「消滅の危機にある塩性湿地の水生双翅目昆虫相の解明」研究副代表者（2021年度）

桑原雅之

- ・タカラ・ハーモニストファンド研究助成「琵琶湖固有ビワマスを新種として記載する保全学的研究」研究代表者（2021年6月～2023年6月）

草加伸吾

- ・国際花と緑の博覧会記念協会自然環境助成事業「倒木遮蔽更新」仮説を応用した再生促進技術の開発（研究代表者（2020～2021年度）
- ・緑の募金一般公募事業「モンゴル山火事跡再生困難地の森林再生促進事業（01K-29）」研究代表者（2019年7月～2021年6月）

用田政晴

- ・文化庁文化遺産総合活用推進事業（文化芸術振興費補助金）「学校収蔵民具の再発見事業」研究代表者（2021年度）

<研究調査業務受託>

- ・京都府いなべ市 天然記念物ネコギギ飼育増殖業務 田畑諒一

(6) 研究員の受け入れ

- ・池田 勝 2021年4月1日～2022年3月31日
テーマ：幼児期の自然体験型教育プログラムの開発とその実践研究
- ・北村美香 2021年4月1日～2022年3月31日
テーマ：博物館における「交流」についての再考察―琵琶湖博物館を事例として―
- ・辻川智代 2021年4月1日～2022年3月31日
テーマ：考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史的変遷を通じた地域文化研究
- ・柏尾珠紀 2021年4月1日～2022年3月31日
テーマ：滋賀、琵琶湖周辺農山村におけるジェンダーの社会学的考察
- ・廣石伸互 2021年4月1日～2022年3月31日
テーマ：蛍光抗体法によるアオコ単独細胞の検出に関する研究
- ・中野聰志 2021年4月1日～2022年3月31日
テーマ：琵琶湖南部地域を中心とした地域地質研究：特に大津市音羽山麓における特異な角礫岩脈と野洲花崗岩体中のクライゼン変質岩についての研究
- ・天野一葉 2021年4月1日～2022年3月31日
テーマ：外来種ソウシチョウの形態・遺伝学的研究
- ・藤岡康弘 2021年4月1日～2022年3月31日
テーマ：琵琶湖固有種の分類ならびに生態に関する研究、および琵琶湖博物館の総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」

- ・中野正俊 2021年4月1日～2022年3月31日
 テーマ：児童の活用型学力と学びの有用感を高める理科・環境学習・・・児童の「読み解く力」の育成を博物館・学校連携学習へどう生かすか・・・
- ・寺本憲之 2021年4月1日～2022年3月31日
 テーマ：ブナ科植物を寄主とする鱗翅目昆虫相と食性に関する研究／伝統文化産業「蚕糸業」の指導／地域ぐるみによる野生動物管理などの指導／環境保全型農業などの指導
- ・岩木真穂 2021年4月1日～2022年3月31日
 テーマ：水位変動に関連する諸現象の観測的解明を通じた、琵琶湖の物理現象を「よりよく伝える」方法の探求
- ・山本充孝 2021年4月1日～2022年3月31日
 テーマ：琵琶湖の魚貝類の飼育技術ならびに生態に関する研究
- ・鈴木真裕 2021年4月1日～2022年3月31日
 テーマ：半自然水域における水生生物群集の形成過程と多様性に関する研究
- ・根来 健 2021年4月1日～2022年3月31日
 テーマ：浄水処理に障害を及ぼすプランクトン等（水道障害生物）の体系の再構築
- ・今井一郎 2021年4月1日～2022年3月31日
 テーマ：有毒アオコ *Microcystis aeruginosa* の制御に有効な水生植物由来の殺藍藻細菌の生態に関する研究
- ・柏谷健二 2021年4月1日～2022年3月31日
 テーマ：湖沼堆積物を利用した長期環境変動の解析
- ・Corey Tyler NOXON 2021年4月1日～2022年3月31日
 テーマ：Exploring the use of photogrammetry and 3D applications within the Lake Biwa Museum
- ・桑原雅之 2020年4月1日～2021年3月31日
 テーマ：ビワマスを保全するための近縁種アマゴの遺伝学的、生態学的研究
- ・草加伸吾 2021年4月1日～2022年3月31日
 テーマ：モンゴル、半乾燥地での森林再生促進研究/伐採、シカ食害やナラ枯れによる森林植生衰退の水系への影響/湿地の植物と水質、水循環の関わり研究

<名誉学芸員>

- ・布谷知夫 2019年4月1日～2024年3月31日
 テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究
- ・前畑政善 2021年4月1日～2026年3月31日
 テーマ：水田魚類の研究
- ・中島経夫 2020年4月1日～2025年3月31日
 テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究
- ・用田正晴 2021年4月1日～2026年3月31日
 テーマ：湖沼環境が果たした歴史的機能・評価に関する考古学的研究
- ・マーク J グライガー 2017年4月1日～2022年3月31日
 テーマ：甲殻類分類学、魚類寄生虫調査、田んぼにすむエビ類の様々な研究と海洋寄生虫

研究発信

(1) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<https://www.biwahaku.jp/publication/report/>) に掲載している。

<学術論文>

- Handa, N., Izuho, M., Takahashi, K., Iizuka, F., Tsogtbaatar, B., Gunchinsuren, B., Odosuren, D. and Ishitseren, L. (2022) The woolly rhinoceros (*Coelodonta antiquitatis*) from Ondorkhaan, eastern Mongolia. *BOREAS (An international journal of Quaternary research)*.
<https://doi.org/10.1111/bor.12582>.
- 安井加奈恵・牧野州明・里口保文・西村貞浩・中野聰志 (2021) 滋賀県野洲花崗岩体・熱水変質閃長岩中の磁鉄鉱. *地球科学*, 75 : 231-236.
- Satoguchi, Y., Takeshita, Y., Nakazato, H. and Suganuma, Y. (2021) Depositional process of the Byk-E tephra bed in the Chiba section, central Japan: A marker bed defining the Global Boundary Stratotype Section and Point for the Chibanian Stage. *Island Arc*, 30: e12432.
- 橋本道範 (2022) 消費から漁撈を考えるー琵琶湖のフナズシの洗練化をめぐるー. *歴史と民俗*, 神奈川大学日本常民文化研究所論集, 38 : 67-101.
- 林 竜馬・山田直明・竹田勝博・太田俊浩 (2022) 参加型刈り取り調査と群落高法による琵琶湖ヨシ群落の冬季地上部現存量の推定ー「ヨシ刈り活動」における炭素回収量の簡易推定手法の開発ー. *地域自然史と保全*, 43, 141-158.
- Sher-Rine Kong, Yamamoto, M., Shaari, H., Hayashi, R., Seki, O., Norhayati Mohd Tahir, Muhammad Fais Fadzil and Sulaiman, A. (2021) The significance of pyrogenic polycyclic aromatic hydrocarbons in Borneo peat core for the reconstruction of fire history. *PLOS ONE*. DOI: <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0256853>.
- Yamamoto, M., Kikuchi, T., Sakurai, H., Hayashi, R., Seki, O., Omori, T., Sulaiman, A., Shaari, H., Abdullah, M. Z. and Melling, L. (2021) Tropical Western Pacific hydrology during the last 6,000 years based on wildfire charcoal records from Borneo. *Geophysical Research Letters*, Volume48, Issue18e2021GL093832. <https://doi.org/10.1029/2021GL093832>.
- Hayashi, R., Sagawa, T., Irino, T. and Tada, R. (2021) Orbital-scale vegetation-ocean-atmosphere linkages in western Japan during the last 550 ka based on a pollen record from the IODP site U1427 in the Japan Sea. *Quaternary Science Reviews*, 267, 107103.
<https://doi.org/10.1016/j.quascirev.2021.107103>.
- Inoue, J., Okuyama, C., Hayashi, R. and Inouchi, Y. (2021) Postglacial anthropogenic fires related to cultural changes in central Japan, inferred from sedimentary charcoal records spanning glacial-interglacial cycles. *Journal of Quaternary Science*, 34, 628-637.
<https://doi.org/10.1002/jqs.3308>.
- 妹尾裕介・長友朋子・小林正史 (2021) 近畿地方における造りつけ竈導入期の米蒸し調理の選択的受容ー奈良県新堂遺跡の炉による蒸し調理ー. *物質文化*, 101, 物質文化研究会 : 33-50.
- 小林正史・妹尾裕介 (2022) ススコゲからみた宮都の小鍋の使い方. *石川考古学研究会会誌*, 第 65 号, 石川考古学研究会 : 55-74.
- 小林正史・妹尾裕介 (2022) 6~8 世紀の主食の調理法: ウルチ米蒸し調理と小鍋による湯取り法炊飯の組合せにみられる地域差. *新潟考古*, 第 33 号, 新潟県考古学会 : 123-144.

- Mishina, T., Takeshima, H., Takada, M., Iguchi, K., Zhang, C., Zhao, Y., Kawahara, M. R., Hashiguchi, Y., Tabata, R., Takeshi Sasaki, T., Nishida, M., and Watanabe, K. (2021) Interploidy gene flow involving the sexual-aseexual cycle facilitates the diversification of gynogenetic triploid Carassius fish. *Scientific Reports 11, Article number: 22485.*
- Kokita, T., Ueno, K., Yamasaki, Y. Y., Matsuda, M., Tabata, R., Nagano, J. A., Mishina, T. and Watanabe, K. (2021) Gudgeon fish with and without genetically determined countershading coexist in heterogeneous littoral environments of an ancient lake. *Ecology and Evolution, Volume11, Issue19*, pp.13283-13294.
- Ito, K. R., Harada, S., Tabata, R. and Watanabe, K. (2021) Molecular evolution and convergence of the rhodopsin gene in Gymnogobius, a goby group having diverged into coastal to freshwater habitats. *Journal of Evolutionary Biology, Volume35, Issue2*, pp.333-346.
- 加藤秀雄 (2021) 伝承の民俗学的研究—その視座と可能性—. 成城大学大学院文学研究科 : 1-222.
- 及川祥平・加藤秀雄 (2021) 小泉八幡神社秋祭の変化と現状. 岩田一正 編, 「環境資源」に見られるグローバル現象の動態: 成城大学グローバル研究センター : 59-76.
- 林 成多・八尋克郎・北林栄一 (2021) 島根県江津市の都野津層から産出した鮮新—更新世の昆虫化石. ホンザキグリーン財団研究報告, 25 : 299-302.
- Miyanaga, K. and Nakai, K. (2021) Making adaptive governance work in biodiversity conservation: lessons in invasive alien aquatic plant management in Lake Biwa, Japan. *Ecology and Society*, 26 (2): 11/ <https://doi.org/10.5751/ES-12352-260211>.
- Jo, T., Ikeda, S., Fukuoka, A., Inagawa, T., Okitsu, J., Katano, I., Doi, H., Nakai, K., Ichianagi, H. and Minamoto, T. (2021) Utility of environmental DNA analysis for effective monitoring of invasive fish species in reservoir. *Ecosphere*, 00(00) DOI: 10.1002/ecs2.3643.
- Smith, R. J., De Deckker, P., and Kamiya, T. (2022) The ontogeny of two species of the family Notodromadidae (Cypridoidea, Ostracoda, Crustacea); taxonomic and palaeogeographic significance. *Zootaxa*, 5094 (3), 351-395.
- Smith, R. J., Ozawa, H., Kawashima, K., and Nakai, S. (2021) A new species of *Pseudostrandesia* Savatnalinton and Martens, 2009 (Ostracoda, Crustacea) collected from two pet shops in central Japan: an alien species?. *Zoological Science*, 38 (5), 481-493.
- 尾崎友輔・川瀬成吾・中山耕至 (2021) 滋賀県琵琶湖水系から初記録のシマヒレヨシノボリ. *ICHTHY*, 15: 5-9.
- 伊藤 玄・川瀬成吾・樋口るり子・北村淳一 (2021) 三重県南勢地域の五十鈴川水系における標本に基づくシロヒレタビラの初記録. *日本生物地理学会報*, 76 : 1-5.
- Yoshida, K. and Ohtsuka, T. (2021) Diatom flora in indoor tanks breeding Japanese medaka, *Oryzias latipes*. *Diatom*, 37: 30-37. <https://doi.org/10.11464/diatom.37.30>
- 大塚泰介・井上晴絵・洲澤多美枝・泉野央樹・西坂一成 (2021) *Cymbella distalebiseriata-liyangensis* 種複合体の日本からの出現. *Diatom*, 37 : 38-41. <https://doi.org/10.11464/diatom.37.38>
- Mimura, T. and Ohtsuka, T. (2021) Diatoms of Fujiganaru Moor, a valley moor situated in the warm-temperate zone in Western Japan. *Diatom*, 37: 66-79. <https://doi.org/10.11464/diatom.37.66>
- 根来 健・大塚泰介 (2021) 螺旋状群体を形成する *Aulacoseira ambigua* (Grunow) Simonsen 単藻培養株に見られた群体の形状変化. *Diatom*, 37 : 80-83. <https://doi.org/10.11464/diatom.37.80>
- 佐藤祐一・大塚泰介・井上英耶・水野敏明・鈴木智之 (2021) 感染症数理モデルを用いた新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の病床逼迫への影響分析—滋賀県を対象として—. *保健医療科学*, 70 : 557-568. https://doi.org/10.20683/jniph.70.5_557

- Iwaki, M., Yamashiki, Y., Toda, T., Jiao, Chunmeng and Kumagai, M. (2021) Estimation of the Average Retention Time of Precipitation at the Surface of a Catchment Area for Lake Biwa. *Water (Molecular Diversity Preservation International)*, 13 (12) : 1711.
<https://www.mdpi.com/2073-4441/13/12/1711>.
- 金尾滋史 (2021) 滋賀県内におけるコガタノゲンゴロウの再発見と博物館の貢献. *地域自然史と保全*, 43(1) : 63-66.
- Kakehashi R., Ito S., Yasui K., Kambayashi C., Kanao, S. and Kurabayashi A. (2021) Amplification and Sequencing of the Complete mtDNA of the Endangered Bitterling, *Acheilognathus longipinnis* (Cyprinidae), using Environmental DNA from Aquarium Water. *Journal of Ichthyology*, DOI: 10.1134/S0032945222020072.
- <専門分野の著作>
- 高橋啓一・里口保文・林 竜馬・山川千代美・大槻達郎・三浦 収・田畑諒一・渡辺勝敏・佐藤健介 (2021) 琵琶湖とその生物相の形成に関連した研究史ならびにその文献資料について. *化石研究会会誌特別号*, no. 5 : 1-58.
- 亀田佳代子・前迫ゆり・牧野厚史・藤井弘章 (2022) カワウが森を変えるー森林をめぐる鳥と人の環境史. 京都大学学術出版会. 305pp.
- 里口保文・佐々木 亨 (2022) 琵琶湖博物館の第3期リニューアルを対象にした評価事例. *博物館研究*, 57 : 14-18.
- 橋本道範 (2021) 日本中世淡水魚消費の研究. 第51回 2020 三菱財団研究・事業報告書, 公益財団法人三菱財団, 113 : 1-5.
- 橋本道範 (編 著) (2022b) *自然・生業・自然観ー琵琶湖の地域環境史ー*. 小さ子社, 京都 : 456p.
- 林 竜馬 (2021) 琵琶湖とその生物相の形成に関連した研究史ならびにその文献資料について 2 花粉. *化石研究会会誌 特別号 第5号*, 9-13.
- 林 竜馬 (2021) 滋賀県の遺跡花粉データベースからみる人と集落生態系の相互関係史. 奈良文化財研究所, 埋蔵文化財ニュース. 84, 10-14.
- 林 竜馬 (2022) 滋賀県の遺跡花粉データベースからみる人と集落生態系の相互関係史 (総特集 基礎データから考える第四紀学の新展開 I). 号外地球, (71), 86-91.
- 大久保実香 (2021) 琵琶湖博物館と滋賀の食事文化研究会との連携. *滋賀の食事文化 (年報) (滋賀の食事文化研究会)*, 30 : 7.
- 大久保実香 (2021) 30周年食事博の琵琶湖博物館との共同開催に向けて. In:長谷川嘉和也(編), *滋賀の食事文化研究会小史 30年の記憶*, 滋賀の食事文化研究会, p. 38.
- Tabata, R. (2022) Diversity Within Species: Phylogeographic Perspective on Japanese Fishes Lake Biwa and the Phylogeography of Freshwater Fishes in Japan. IN: Kai, Y., Motomura, H., and Matsuura, K., eds., *Fish Diversity of Japan*, Springer, pp.205-218.
- 田畑諒一・佐藤健介・渡辺勝敏 (2022) 琵琶湖とその生物相の形成に関連した研究史ならびにその文献資料について 7 魚類. *化石研究会会誌特別号*, 5, pp.28-33.
- 島本多敬 (2021) 書評 村田路人著『近世畿内近国支配論』. *歴史評論 (歴史科学協議会)*, 854: 99-103.
- 島本多敬 (2022) 出版された淀川の水害図. 鈴木康久編, *淀川水系 河川絵図集成～近世絵図から河川の利用と管理を学ぶ～*, 一般財団法人近畿地域づくり研究所, 大阪, 24.
- 島本多敬 (2022) 瀬田川筋絵図. 鈴木康久編, *淀川水系 河川絵図集成～近世絵図から河川の利用と管理を学ぶ～*, 一般財団法人近畿地域づくり研究所, 大阪, 35.
- 島本多敬 (2022) 瀬田川上流絵図. 鈴木康久編, *淀川水系 河川絵図集成～近世絵図から河川の利用と管理を学ぶ～*, 一般財団法人近畿地域づくり研究所, 大阪, 36.

- 島本多敬 (2022) 「城州江州土砂留場繪圖」にみる淀川筋の砂防. 鈴木康久編, *淀川水系 河川絵図集成～近世絵図から河川の利用と管理を学ぶ～*, 一般財団法人近畿地域づくり研究所, 大阪, 37.
- 焦 春萌・石川可奈子・酒井陽一郎・芳賀裕樹 (2021) 政策課題研究⑥ 南湖生態系に影響を及ぼす湖底環境等に関する研究. *琵琶湖環境科学研究センター研究報告書 (R2)*, 17, 滋賀県.
- Nakada, S., Haga, H., Iwaki, M., Mabuchi, K. and Takamura, N. (2011) High-resolution flow simulation in Typhoon 21, 2018: massive loss of submerged macrophytes in Lake Biwa. *Progress in Earth and Planetary Science*, 8 Article no 46, DOI; <https://doi.org/10.1186/s40645-021-00440-9>
- 中井克樹 (2021) 滋賀県・琵琶湖における侵略的外来水生植物対策の経緯概説. *用水と廃水*, 63 (7):34-40.
- Iwaki, M., Smith, R. J., Kameda, K., Haga, H., Toda, T., Kanao, S. and Nakai, K. (2021) The Lake Biwa Museum - a window into the geology, history and life of an ancient Japanese lake. *SIL News*, 78: 14-15.
- 大槻達郎 (2021) 現生植物の研究史. *化石研究会会誌 (化石研究会)*, 特別号 第5号: 20-24.
- 大槻達郎・田畑諒一 (2021) 改良版 MIG-Seq法を用いた琵琶湖生態系に関する希少種の遺伝的診断と保全. *クリタ水・環境科学振興財団ニュース*, 19: 19.
- 中川雅博・川瀬成吾・北野大輔 (2022) 2021年の堅田内湖で採集された魚類—2000年代初頭の魚類相との比較. *淡海生物*, 3: 速報版.
- 芦谷美奈子 (2022) 滋賀県. *タンポポ調査西日本2020調査報告書*, タンポポ調査西日本・2020実行委員会.
- 金尾滋史 (2021) みらいへつながるパートナーシップ 滋賀県立琵琶湖博物館. *Wildlife Fourm*, 26(1): 20-21.
- 金尾滋史 (2021) 博物館への質問がきっかけとなった滋賀県甲良町におけるハラグロオオテントウの確認記録. *滋賀むしの会会報 Came 虫*, 206: 24.
- 福岡太一・田邑 龍・金尾滋史 (2022) 滋賀県で2例目となるムネアカハラビロカマキリの採集記録. *滋賀むしの会会報 Came 虫*, 208: 31.
- 金尾滋史・笹 愛美 (2022) 滋賀県におけるキベリマメゲンゴロウの新産地とこれまでの県内採集記録のまとめ. *滋賀むしの会会報 Came 虫*, 208: 32-33.
- 金尾滋史 (2022) 「あつまれどうぶつの森」の淡水魚類相. *魚類自然史研究会会報ボテジャコ*, 26: 17-26.
- 金尾滋史 (2022) 滋賀県内におけるヒラマキミズマイマイ、ヒラマキガイモドキの分布調査. 令和3年度滋賀県生きもの総合調査報告書. 20pp.
- 中村(澤邊)久美子 (2022) カヤネズミの生息環境と半自然草地に対する意識と管理. 橋本道範 編著, *自然・生業・自然観—琵琶湖の地域環境史—*, 小さ子社, 京都: 337-358.

(2) 研究調査報告のJ-STAGE 掲載とアクセス数

博物館の研究成果をまとめ独自に出版している「琵琶湖博物館研究調査報告」について、「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)への掲載を11月より開始した。J-STAGEとは、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が運営する電子ジャーナルプラットフォームであり、学協会や研究機関等における科学技術刊行物の公開を行っているものである。最新号から掲載を開始し、著作権等の許諾が得られた号から順次公開を行っている。

3月末時点で、34号から29号までが公開されている。アクセス数は以下の通り。

2021年11月～2022年3月のアクセス数

- ・書誌情報閲覧: 4,023件
- ・PDFファイルダウンロード: 2,283件

(3) 研究セミナー・特別研究セミナー

1) 研究セミナー

学芸職員および特別研究員の研究発表と研究交流の機会として、セミナー室にて毎月第3金曜日 13:15～15:15 に、研究セミナーを開催している。2021 年度は以下の通り実施した。なお、特別研究セミナーの開催はなかった。

- 第1回 4月16日 32人
- ・R. J. スミス「化石貝形虫の例外的な保存」
 - ・金尾 滋史「琵琶湖周辺における「魚類が侵入できる水田」の20年間の変化」
 - ・島本 多敬「明治初期の滋賀県における普請所調査絵図の作製とその意義」
- 第2回 5月21日 39人
- ・田畑 諒一・日比野 友亮・福家 悠介・西村 俊明・渡辺 勝敏・山崎 曜
「タニガワナマズと東海地方産のナマズの遺伝的隔離と遺伝子流動」
 - ・八尋 克郎・武田 滋「琵琶湖岸砂浜の昆虫相」
 - ・川瀬 成吾「びわ博でやりたいこと！琵琶湖・淀川流域における魚類多様性の解明とその保全」
- 第3回 6月18日 32人
- ・芦谷 美奈子「ヨシの品質と用途・生育環境との関係～研究を進める方向性～」
 - ・辻川 智代「明治・大正期の滋賀県における農閑期副業について－『滋賀県之副業』を中心に－」
 - ・橋本 道範「自然・生業・自然観－琵琶湖の地域環境史－」
- 第4回 7月16日 27人
- ・大塚 泰介「Marikina 川（フィリピン・ルソン島）の珪藻植生」
 - ・亀田 佳代子・前迫 ゆり・牧野 厚史・藤井 弘章
「森林をめぐる鳥と人の環境史：森を変えるカワウに関する鳥、森、人、社会の視点からの考察」
 - ・岩木 真穂「どれほど前の降雨が現在の湖の水位に影響をあたえるのか（河川流入編）」
- 第5回 8月20日 35人
- ・桑原 雅之「琵琶湖で獲れる降湖型アマゴは「サツキマス」？」
 - ・芳賀 裕樹「南湖の沈水植物の年一年変動の仕組みについて」
 - ・妹尾 裕介「滋賀県統計書からみた近代の人間活動」
- 第6回 9月17日 29人
- ・大槻 達郎「湖岸でみられる植物・昆虫の季節変化」
 - ・廣石 伸互「抗体による微小生物の識別」
 - ・鈴木 隆仁「堆積物中のクンショウモ遺骸はクンショウモ相を明らかにするのか」
- 第7回 10月15日 40人
- ・山川 千代美「琵琶湖地域における最終氷期最盛期の森林構成について」
 - ・天野 一葉「特定外来生物ソウシチョウの現状と管理ユニットの開発」
 - ・梶永 一宏「南西諸島の湿地に生息するアシナガバエ」
- 第8回 11月19日 37人
- ・米田 一紀「ホンモロコ *Gnathopogon caerulescens* の琵琶湖南湖における再生産の再開」
 - ・林 竜馬「植生-日本海環境変動の関係性解明に向けた因果推論」
 - ・松岡 由子「バイカルアザラシの研究－バイカルアザラシにはどう見えているのか－」
- 第9回 12月17日 37人
- ・中川 信次「ポストコロナ禍における農村資源を活用した交流事業について
－滋賀県の農山村ニューツーリズム推進事業を事例として－」

- ・北村 美香「水損図書資料の初期対応と人材育成についての取り組み」
- ・里口 保文「甲賀層・蒲生層境界付近の堆積環境の変化～現在の琵琶湖形成への検討～」

第10回 1月21日 31人

- ・山中 大輔・水野 敏明・小倉 拓郎・佐藤 祐一
「生態系に配慮した河川浚渫工事等の実施に向けた試み
ー空中写真測量と河床変動計算を用いた取り組みー」
- ・楊 平「過疎化地域における地域協働型組織の育成と地域再生の可能性」
- ・加藤 秀雄「湖沼の環境利用に関わる民俗の比較研究」

第11回 2月18日 29人

- ・美濃部 諭子・田畑 諒一・大槻 達郎「少花粉スギミニチュア採種園のDNA品種識別について」
- ・由良 嘉基「中学校における博物館の有効な利用法について」
- ・大久保 実香「山村集落への他出二世による田園回帰ー孫ターンの事例調査からー」

第12回 3月18日 32人

- ・安達 克紀「子ども主体の視点から見た博物館の利用」
- ・戸田 孝「琵琶湖博物館で求められたこと、できたこと、残したこと」
- ・中井 克樹「琵琶湖をめぐるキーワード：古代湖・固有種・多様性」

(4) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館の研究成果発信の一環として、「新琵琶湖学セミナー」を開催している。2021年度は、様々なところに及ぶ「びわこのちから」の中でも、特に、近年話題となっている琵琶湖の変化にスポットをあて、この25年間について、考えるセミナーとした。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新琵琶湖学セミナーとしては初めて、事前申し込み制による完全オンラインで行った。申込者数は456名、最大視聴総数は299人で滋賀県外からの参加もあり、オンラインの利点も認められた。具体的内容は下記の通り。

開講日：第1回 1月22日(土) 13:30～15:30 「どうなる？琵琶湖の「深呼吸」」 最大視聴 106人

戸田 孝 「そもそも『深呼吸』とは何か～物理的なメカニズム」

石川俊之(滋賀大学教育学部教授)

「『深呼吸』が不完全だと何が起こるか～野外観測の結果から」

第2回 2月26日(土) 13:30～15:30 「琵琶湖の水草は増えすぎなのか？」 最大視聴 81人

芳賀裕樹「琵琶湖における水草の繁茂と現状」

佐藤祐一(琵琶湖環境科学研究センター専門研究員)

「水草からみた琵琶湖の長期変遷～シミュレーションモデルを用いた解析から」

第3回 3月26日(土) 13:30～15:15 「解決できるか？外来種問題」 最大視聴 112人

五箇公一(国立環境研究所生物多様性領域生態リスク評価・対策研究室室長)

「なぜ外来生物は管理が必要なのか？～地球環境問題の視座から考える」

中井克樹「琵琶湖の外来種問題を振り返って：人が引き起こした自然の攪乱、社会の混乱」

(5) 琵琶湖博物館ブックレット

「琵琶湖博物館ブックレット」(サンライズ出版)は、2016年からシリーズ出版されており、年に1～2冊発行されている。2021年度は、「琵琶湖と俳諧民俗誌ー芭蕉と蕪村にみる食と農の世界ー」(2021年5月出版)と「びわ湖の森のイモムシ、ケムシたち」(2021年11月出版)の2冊が刊行された。

第14号「琵琶湖と俳諧民俗誌 芭蕉と蕪村にみる食と農の世界」

篠原 徹（琵琶湖博物館名誉館長）

第15号「びわ湖の森のイモムシ、ケムシたち」

寺本 憲之（琵琶湖博物館特別研究員）

研究交流

(1) 協力協定（MOU：Memorandum of Understanding）に基づく連携

琵琶湖博物館では、地域に根ざしながら広く世界を視野に入れ、研究活動および展示の国際化を推進するため、協力協定（MOU：Memorandum of Understanding）の締結に基づく研究・交流のネットワークを確立し、国内外の関係機関との連携を強化している。協定の締結内容としては、次の5項目である。このほかに、研究および資料、展示についての具体的な協力が行われる場合は、別途協議して協定を結ぶものとしている。

- ①研究者等博物館職員の交流
- ②共同研究プロジェクト、シンポジウム、展示等に関する交流
- ③専門技術や方法論に関する情報交換
- ④出版物、資料、標本等の交換（生きた生物を含む）
- ⑤両館で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流

2021年度までに、フランスのパリ国立自然史博物館、ロシアのバイカル博物館、北マケドニアの国立オフリド水生生物研究所、中国の中国科学院水生生物研究所と湖南省博物館、韓国の国立洛東江生物資源館、京都大学野生動物研究センターの7つの博物館・研究機関とMOUを締結している。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年度に引き続き2021年度も海外の博物館・研究機関との交流は難しい部分も多かったが、その中でも次のような活動を行った。

1) 韓国国立洛東江生物資源館（韓国慶尚北道尚州市）

韓国国立洛東江生物資源館（資源館）は、韓国の淡水生物を研究する専門機関で、淡水生物の発掘、培養、遺伝的特性、生理活性、産業化などの研究を行っている。また、これらの内容に関連した様々な動物、植物、微生物の展示や教育プログラムの開発を、韓国国民を対象に行っている機関でもある。2017年4月21日に協力協定(MOU)を締結し、年1回、交互に、合同セミナーやワークショップなどを開催して情報交換を行い、共同研究や事業を進展させていくこととしている。

2021年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、毎年行っている合同セミナーやワークショップの開催を見送った。そのような中ではあるが、5年に1度の協定更新を行った。また、2022年2月に洛東江河口堰が開門したことを機に、汽水域の再生過程の研究を打診しているところである。

2) 京都大学野生動物研究センター（京都府京都市）

京都大学野生動物研究センター（センター）は、絶滅の危機に瀕している大型哺乳類を中心に、野生動物に関する教育研究を行っている施設である。国内外のフィールドで野生動物の行動や生態、社会を研究すると共に、国内の動物園・水族館と提携し、飼育下の動物の認知研究や行動研究も行い、フィールドとラボの分析を統合した研究を行っている。2016年11月25日に、野生動物の生態・行動の理解と保全に関わる情報及び技術の相互交換、並びに共同学術研究を基に、野生動物の教育的展示をより一層発展・促進することを目的として、協力協定(MOU)を締結した。

2021年度は、センターの主催する2021年度第3回動物園水族館大学シンポジウム「福祉と保全のはざままで」（水族館大学：3月25日（金）「ゼニガタアザラシの保全管理と水族館・動物園」「生物の保全管理と水族

館・動物園)、動物園大学:3月26日(土)「健やかな種の保存:持続可能な動物園の課題」について共催を行った。

(2) 研究機関との連絡活動

1) 県内試験研究機関

県立の8つの試験研究機関が琵琶湖や滋賀県の環境に関する相互の試験研究の円滑な推進や情報の発信を図ることを目的として、琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議(事務局:滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)が設置運営されている。その後、目的を環境に限らず滋賀県立の試験研究機関相互間の連絡調整を行い、その試験研究の円滑な推進や広く情報の発信を図ることとなった(2018年1月25日本会議)。

各機関が行っている研究やその成果について広く一般に知ってもらうため、毎年発表会を開催しているが、今年はコロナ禍のためオンラインで実施することとなった。発表会は、2022年2月2日(水)に「びわ湖、人、産業をささえる 令和3年度滋賀県試験研究機関研究発表会」と題して行われ、当館からは川瀬成吾学芸員が「スウェーデンに眠る琵琶湖産魚類標本:明治12年琵琶湖で初めて実施された近代魚類調査記録」と題して発表を行った。幹事会は2021年11月18日(木)にオンラインで開催され、本会議も2022年3月2日(火)にオンライン開催となった。本会議では、発表会の報告とともに次年度の行事予定が承認された。

滋賀県における新型コロナウイルス感染状況の分析のため、2020年度より滋賀県試験研究機関連絡会議の統計・モデリングを扱う有志が集まって、新型コロナウイルス感染症対策班 情報・疫学統計チームが組織され、琵琶湖博物館からは大塚泰介が参加している。その研究成果の一部が、以下の論文として発表された。

佐藤祐一・大塚泰介・井上英耶・水野敏明・鈴木智之(2021)感染症数理モデルを用いた新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の病床逼迫への影響分析-滋賀県を対象として-。保健医療科学 70: 557-568。

(3) 海外活動

1) 研究に関する国際用務

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大により海外渡航ができなくなったため、特記すべき国際用務はなかった。

研究部活動

(1) 研修

琵琶湖博物館は、日本学術会議声明「科学者の行動規範」改訂版(平成25年1月25日)および「博物館関係者の行動規範」(日本博物館協会平成23年3月)に準拠した「滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範」(2016年7月)を定め、公正な博物館活動を推進している。また、研究活動の不正行為を防止する一環として、毎年研究倫理研修を行っている。2021年度は次のような研修を実施した。

1) 第1回研究部研修「研究倫理研修」

参加者:41名

日時:12月3日(金)14:00~16:00

場所:琵琶湖博物館ホール

内容:「オンラインの活動の可能性とリスク」

講師:本間 浩一 氏 (株式会社コラポプラン 取締役 / 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科附属システムデザイン・マネジメント研究所研究員)

ウェブサイトを使用する際の技術的な問題、実際に起こったトラブルの事例などをから、今後重要になるオンラインでの活動や発信について様々な新しい視点を得ることができた。

2) 日本学術振興会 研究倫理 e ラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics)の受講

実施期間：2月18日～3月31日まで

受講時間：約1時間半

受講人数：40名(学芸職員の他、特別研究員8名を含む)

(2) 薬品類の管理

滋賀県立琵琶湖博物館化学薬品安全管理規程(2017年4月1日より施行)の第4章に記述されている通り、化学薬品の保管状況および毒劇物等の使用状況について確認を行うことを目的に、2022年1月6日から31日までの期間で、薬品の棚卸し作業を行った。その結果、毒物、劇物、有害物質、指定物質、第一種指定化学物質について、すべての在庫を確認した。毒劇物の薬品瓶の重量(容器込み)を測定し、薬品管理使用簿に記入した。棚卸しの結果は、化学薬品管理報告書にまとめ、化学薬品管理委員会の委員長に報告した。

(3) 研究備品の管理

研究備品の適切な管理のため、博物館全体の研究備品を計画的に確認することとしている。今年度は、備品台帳の情報を元に、取得金額により対象を区分して備品の確認を行った。その結果に基づき、特に取得年代の古い備品の動作確認や処分等の検討を行っている。

特に、高額の備品については大型研究備品更新計画を策定し、優先順位をつけて予算を申請するなど備品の更新に努めている。今後も継続して備品の確認作業を実施し、将来に向けての計画的な備品整備を目指す予定である。

(4) 研究環境の整備

空調設備の老朽化により、研究棟の各部屋で空調の故障や温湿度調整能力の低下が生じている。特に、生態進化実験室においては、高湿度のため顕微鏡や精密分析機器等にカビや故障が発生し、研究に支障を来していた。そのため、温湿度調整機能を高めるため、空調設備を追加し研究環境の改善を図った。

(5) 研究・事業専念時間設定

琵琶湖博物館では、学芸職員は研究部を本務とし事業部または総務部の業務を兼務して博物館活動を進めている。しかし、事業では直近の対応や対外的な対応を迫られる部分が多く、業務量が増えると本務である研究が後回しになりがちであった。特に、2020年度までの6年間は常設展示のリニューアルがあり、これを優先して業務が行われてきた。2020年度にグランドオープンを終え、第三次中長期基本計画に沿った新しい博物館活動が始まった2021年度からは、次の展示更新も見据えて基本に立ち返り、研究と資料収集に力を注ぐことが必要となっている。

そのため、学芸職員の働き方を改革し、研究と事業のそれぞれに集中的に取り組むことで、より一層よい仕事、よい成果をあげられるよう統一的な研究・事業専念時間設定の試行を6月より開始した。具体的には、火曜日と木曜日の午前の業務時間と水曜日の全業務時間を、学芸職員全員が研究専念時間とすることにした。ただし、質問コーナー担当者は、研究専念時間にも学芸員への質問や問合せに対応することとし、電話等の対応も含め、その場で対応できない内容については伝言を残すことで、後日確実に対応できるような体制を取った。また、企画展示担当などどうしてもある期間事業への専念が必要な学芸員については、専念時間を振り替えることも可能とした。

年度末には全職員にアンケートを行い、専念時間の取得状況やその効果、課題などを抽出し、情報の共有をはかった。様々な課題も見つかった一方で、研究推進や業務全体の効率化などプラスの効果もあったことから、課題を改善しつつ試行を続けることとなった。

3 新たな参加と発見ができる博物館

展示活動

(1) 常設展示の主な更新と期間限定の展示

1) A 展示室

・地域の人びとによる展示

展示室の出口付近にあるこのコーナーでは、地域で調査をされている方が自らの標本を使った展示を、当館の職員と相談をしながら行っている。おおよそ半年ごとに展示する人や内容を替えている。

1. 元彦根藩士 杉村次郎 金石の旅—近代鉱業家・鉱物研究家の魁—

展示した人：福井龍幸さん

期間：2021年4月3日～10月2日

2. 宇治田原の植物化石

展示した人：馬越仁志さん

期間：2021年10月2日～2022年4月3日

・地域の人々による展示コーナーの展示交流

展示に合わせて、展示コーナー前での標本採集や調査の話や、標本の解説、標本に触る体験など展示している方やその関係者による展示交流を実施した。

2021年12月11日：馬越仁志さん、馬越曜子さん、飯村 強さん

2022年1月8日：馬越仁志さん、馬越曜子さん、飯村 強さん

・最近寄贈された標本

コレクションギャラリーの一角にある展示で、寄贈いただいた標本を紹介するコーナーとして行っている。

2021年11月13日：福徳岡ノ場 2021年噴火軽石の沖縄漂着軽石 8点

2) B 展示室

・収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示」

B展示室では、2020年10月のリニューアルオープンを機に、展示室内の館蔵品紹介コーナーにおいて「学芸員のこだわり展示」と題した展示を実施することとした（毎回の会期1～2か月程度、年間6～10回程度の実施を予定）。当館の歴史系分野（考古、歴史、民俗）における資料の収集・保存・整理・公開活動または研究成果に関わる資料を、トピック展示として順次紹介する。これは、展示リニューアル前のB展示室「蔵ケース」で開催していた展示を継承して行うものである。

期 間	タイトル・展示資料名
3月16日～5月16日 前期	第4回 学芸員のこだわり展示 名所図会にみる「湖のながめ」 前期
3月16日～4月18日	・『近江名所図会』巻二「近松寺山頂安然塔并ニ湖上望遠の美景」（当館蔵） ・『近江名所図会』巻三「其二 湖水眺望」「其三 西近江御旧蹟」（当館蔵） ・『近江名所図会』巻四「石馬寺 地獄越」（当館蔵）
後期	後期
4月20日～5月16日	・『伊勢参宮名所図会』附録一「近松寺山頂安然塔并ニ湖上望遠の美景」（当館蔵） ・『近江名所図会』巻三「其二 湖水眺望」「其三 西近江御旧蹟」（当館蔵） ・『木曾路名所図会』巻一「磨針峠」（当館蔵）

期 間	タイトル・展示資料名
5月18日～7月11日	第5回 学芸員のこだわり展示 「風景を持ち帰るー明治の写真帖ー」 ・明治期手彩色写真帖（当館蔵）
7月13日～8月26日	第6回 学芸員のこだわり展示 「瀬田川ざらえの願い」 ・瀬田川自普請組合村絵図（当館蔵）
10月1日～11月28日	第7回 学芸員のこだわり展示 「滋賀のなかの三方五湖」 ・滋賀県管内地理書（当館蔵） ・滋賀県管内地理図（当館蔵）
11月30日～1月16日	第8回 学芸員のこだわり展示 「重要文化財・琵琶湖博物館所蔵 東寺文書（とうじもんじょ）画像等公開記念 室町時代のお手紙の作法ー封をするー」 ・『文明17年4月4日、俊忠挙状、東寺文書』52（46）』（当館蔵） ・『年未詳閏6月21日、横川宗興書状、「東寺文書」92（81）』（当館蔵）
1月22日～3月13日	第9回 学芸員のこだわり展示 「貫井の木地椀」 ・木地椀（県指定有形民俗文化財）（当館蔵） ・木地匏（県指定有形民俗文化財）（当館蔵） ・塗膳椀（当館蔵）
3月15日～5月22日	第10回学芸員のこだわり展示 「描かれた瀬田川の砂州」 ・瀬田川筋絵図（当館蔵） ・大津瀬田川流域絵図（当館蔵）

3) C展示室

①「田んぼへ」コーナー

日本農業遺産「琵琶湖システム」のジオラマを、1月22日に設置した。

TNB48 第二期メンバーの募集を、1月20日～2月28日に行った。2022年6月に更新予定である。

②「川から森へ」コーナー

「琵琶湖の川と森を守る人々」コーナー展示において、川を守る活動をしている人びとや団体を紹介しており、6月2日に玉一アクアリウムと山内エコクラブのパネル展示を更新した。

③「生きものコレクション」コーナー

「生きものちがいと変化」の「移り変わり」の展示品であるオオクチバスとブルーギルの剥製標本を、企画展示「守りたい！少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物」の期間中、企画展示室へ移動させて展示した。

④「これからの琵琶湖」コーナー

毎年更新する「これからの琵琶湖コーナー」にある研究スタジアムは、10月19日に第6期に更新された。各ブースの展示担当は、田畑、林、中井（2巡目）、戸田（2巡目）、大槻である。

4) 水族展示室

常設展示では、琵琶湖から川に遡上してくる魚種の季節ごとの入れ替え、また一部の水槽において展示種の追加や入れ替えを実施したほか、研究成果に合わせた水族トピック展示を実施した。また、臨時休館中を利用して展示パネルの更新および魚名板の位置に種の見分け方や最新の情報について紹介するためのパネルを設置した。このほか、一部の水槽についてLED照明の更新、親水フィルム、飛び出し防止板の施工、清掃用梯子の更新を実施した。

4月26日～	連れてこられた生き物たち	タイリクバラタナゴ・オヤニラミの展示開始
4月26日～	よみがえれ！日本の淡水魚	オヤニラミ・アオバラヨシノボリの展示開始
5月12日～	トンネル水槽	ウグイ未成魚の展示開始
5月12日～	連れてこられた生き物たち	カダヤシの展示開始

5月12日～	バイカル湖水槽	アムールイトウの展示開始
5月18日～	下流域の魚たち水槽	アユの展示開始
6月1日～	よみがえれ！日本の淡水魚	ヨドゼゼラの展示開始、ツチフキ展示水槽移動
6月23日～	下流域の魚たち水槽	ハス、ニゴイ、アユの展示開始
10月19日～	ビワヨシノボリ水槽	オウミヨシノボリの展示と解説パネルを追加
10月19日～	ふれあい体験室前	水族トピック展示「約30年ぶりの発見！コガタノゲンゴロウ」開始
11月3日～	下流域の魚たち水槽	アユからビワマスへ展示替え
1月4日～	下流域の魚たち水槽	ビワマスからワカサギ・オイカワへ展示替え
1月20日	マイクロアクアリウム	ノロの展示を開始
2月8日～	上流域の魚たち大水槽	アマゴ、イワナに加えてタカハヤを追加
3月1日～	上流域の魚たち小水槽	ナガレホトケドジョウの展示開始
3月1日～	ナマズ水槽	衝突防止のためのシート設置
3月8日～	コアユ水槽	展示個体入れ替え
3月15日～	連れてこられた生き物たち	スクミリンゴガイとその卵塊の模型展示開始
3月24日～	下流域の魚たち水槽	ワカサギからウグイへ展示替え

5) D展示室 ディスカバリールーム

「子どもと大人が一緒に楽しむ体験と発見」をテーマに、2018年7月6日リニューアルし、新しい展示構成となった（展示構成は以下の表のとおり）。リニューアル以降も、「琵琶湖博物館の入口」となる展示室という方針を継承し、五感や実物標本を使った体験型展示により、学び、発見する喜びを知ってもらえる場となっている。具体的には、五感を使う展示、だれもが楽しめる展示、本物を体験する展示、身近なものをテーマにした更新展示を軸にした構成で、小さなころから博物館に親しむことでミュージアムマナーも身につけられるような場を目指している。

	コーナータイトル	内容	概要
1	さわってみよう	化石・レプリカ・石	触覚を使い、材質による手触りの違いを知る
2	聞いてみよう	コオロギ、アマガエル、コウモリの模型	聴覚を使い、生き物が音を出す仕組みを知る
3	におってみよう	季節の植物の匂い抽出液、オオサンショウウオの匂い（人工）	嗅覚を使い、生き物が出す匂いや意味を知る (2021年度コロナ対策のため休止)
4	大きくしてみよう	昆虫類、植物、鳥のハネ、アザラシのひげなど	視覚を使い、普段と違う視点で拡大して見る
5	さがしてみよう	カラス・フクロウ・スズメ・カワセミを双眼鏡で探す	発見する楽しみを知る導入として、室内の生き物を探す
6	見つけてみよう ー生き物のすみかー	キツネ、タヌキ、ネズミ、モグラの剥製など	空間的に配置した剥製を体感しながら生き物のすみかを知る
7	見つけてみよう ー生き物のかたちー	タヌキの剥製、骨格標本、信楽焼きのタヌキ	目線近くに配置した剥製をじっくり観察し、頭の中のイメージとの違いに気づく
8	のぞいてみよう ー魚の世界ー	ナマズ、コイ、ニゴロブナ	間近でじっくり観察し、さらに人それぞれの見え方の違いに気づく
9	人形げきじょう	季節ごとのパペット	びわこの仲間のパペット (2021年度コロナ対策のため休止)
10	おばあちゃんの台所	井戸、いろり、かまどなど	昭和の古民家を再現
11	ザリガニになろう	ザリガニ大型模型	ザリガニになった気持ちでエサを獲る

	コーナータイトル	内 容	概 要
12	ディスカバリーコーナー	季節ごとのディスカバリーボックス	館内の多様なテーマごとに詰め込んだボックス
13	イノシシの歯、コウモリの歯	2種のアゴの動き方模型	歯の役割、仕組みを知る
14	みんなのたからもの	来館者が見つけた宝物	参加型の展示コーナー
15	ブックコーナー	図鑑類	学芸員が子どもの頃読んでいた本の紹介
16	糸描きコーナー	毛糸で絵を描くボード	
17	かげえボックス	影絵用のライトとスクリーン(2021年度コロナ対策のため休止)	

【季節展示】各コーナーで季節に合わせた展示物の入れ替え、追加の展示を次の表の通り実施した。

展示場所	展示内容	展示期間
みんなのたからもの	森のたからもの(3/20実施)	4月13日～12月17日
	展示交流員の森のたからもの(写真)	6月4日～7月16日
	森のたからもの(11/23実施)	12月21日～3月31日
ザリガニになろう	オタマジャクシ	5月26日～8月6日
	バッタ	10月1日～1月14日
おばあちゃんの台所	春 version	4月1日～4月28日
	こどもの日	4月20日～4月28日
	初夏 version	5月12日～6月18日
	夏 version	6月22日～8月6日
	七夕	6月29日～7月7日
	土用	7月14日～7月29日
	秋 version	10月1日～12月7日
	冬至	12月8日～12月22日
	お正月	12月23・24日 1月4・5日
	七草	1月6日～1月7日
節分	1月11日～1月2日	
さがしてみよう	ムクドリ	10月1日～12月7日
	キジバト	10月1日～12月7日
ブックコーナー	お気に入り本の紹介 田畑学芸員	5月12日～1月14日
	お気に入り本の紹介 芦谷学芸員	6月3日～1月14日
	お気に入り本の紹介 林学芸員	12月1日～1月14日
生きものの展示	ナマズ	常設
	コイ	常設
	フナ	4月1日～7月12日・10月1日～5日
	カイコ	7月14日～8月19日
見つけてみよう	春 レプリカ(チョウ)	4月13日～8月6日
	初夏 レプリカ(カタツムリ)	6月3日～8月6日
	夏 レプリカ(トンボ・他)	7月15日～11月2日
	秋 レプリカ(バッタ・他)	11月4日～1月14日
ディスカバリーコーナー	紙芝居(しょうぶ)	4月20日～4月28日
	紙芝居(りゅうぐうのおよめさん)	5月12日～6月18日
	ボックス交換(ザリガニ双六・他)	7月13日～8月6日
	ボックス追加(化石・他)	10月1日～1月14日
	ボックス・〈お正月〉	1月4日～1月14日

【常設展示】今年度、制作・追加・変更した展示物

「おばあちゃんの台所」

1. 鮎ずし・丁稚ようかんのレプリカ、滋賀の食材にこだわり作成。
2. 台所の道具カード 表面はシルエット、裏面の上部は子供用、下部は大人用で、道具の情報を記載。
3. しゃくしたて 工房の竹を使用し制作、かまどの横に設置。
4. 水屋の引き出しを、アクリル板で加工し展示を見せるための空間に変更。
5. 棚の天井にライトを設置し、展示物を見やすくした。

「さがしてみよう」

1. キジバト・ムクドリの剥製 既存の4種に加え設置。

【その他】

・新任研修

日時：4月15日 対象：新任職員、新規展示交流員

内容：ディスカバリールームの主旨と展示室における展示交流員の業務内容を中心に研修

・展示交流員研修

日時：5月7日（休館中）

対象：展示交流員「森のたからものをさがそう」実施

・モーニングレクチャー

日時：5月25日～5月28日

・コロナ対策の為、展示室の出入り口を変更

日時：7月19日～

・「ザリガニになろう」の囲い、正面部分ガラス割れ、ポリカーボネートで修繕

日時：3月9日・3月16日

・天井ライト 蛍光灯からLED器具に交換

日時：3月15日

【ディスカバリールームのイベント】

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症対策として、例年実施しているイベントの多くは中止した。開催イベントのうち、新年あわせて行った「おたからさがしくじ」は、くじに書かれた展示物をA・B・C・水族展示室・おとなのディスカバリー等へ探しに行く「くじ引き」である。本イベントは、冬休み期間中のディスカバリールーム内での人の密集を避け、それぞれの展示室にいる展示交流員との交流にも役立った。おみくじは、接触感染を防ぐために、壁面に設置したボードに貼られたものの中から一つのくじを来館者自身が手で取るスタイルとし、安全に実施することができた。また、おみくじの紙が他の展示室に落とされて、散逸することのないように、展示室の外に「おみくじかけ」も設置した。アザラシ型をしたオリジナルのおみくじは、小さな子どもから年配の方まで好評で、本イベントは新聞記事にも掲載された。

イベント開催日	イベント名	参加人数
11月23日	森の宝物をさがそう！	21人
11月30日～1月16日	あいことばは切封	90人
12月18日	昔のやり方でお手紙に封をしよう	21人
1月4日～1月7日	おたからさがしくじ	496人

おたからさがしくじの様子



6) E展示室 おとなのディスカバリー

おとなの好奇心を刺激し、おとなが心から楽しめる展示室として、第2期リニューアルにより2018年7月6日に新しく誕生した。より体験的な展示と、博物館で活動している人たちの出会い・集いの場、そしてフィールドへ出たくなるような空間で、繰り返し利用されることを目指した部屋で、しらべるゾーン、質問コーナー、オープンラボ、交流コーナー、滋賀県本コーナーの5つのゾーンから構成されている

「しらべるゾーン」の展示更新と交流活動は以下の通りである

【スケッチテーブル】

2020年11月24日からスケッチテーブルにて「冬の琵琶湖に集まるカモたち」として、ホシハジロ(♂♀)、スズガモ(♂♀)、ハシビロガモ(♂♀)、ヒドリガモ(♂)、オオバン(剥製)を展示した。

【貝類】

2022年2月16日 CO₂ モニターを設置した。

【両生・爬虫類】

本コーナーに展示しているマムシのレプリカを琵琶湖博物館ギャラリー展示「森へ行こう、森と生きよう。全国植樹祭開催記念展示」(2022年3月20日～6月5日)の展示として使用した。

【植物】

・植物標本

4月 イブキフウロ フウロソウ科

・植物細密画

6月 植物細密画の世界(スイレン、ノアザミ他16作品)はしかけ「湖(こ)をつなぐ会」杉野由佳さん

11月 植物細密画の世界(晩秋の植物ノブドウ、サネカズラ、ジュズダマ他20作品)

はしかけ「森人」矢原 功さん

1月 樹冠トレイル虹景 出口武洋さん

3月 山桜 出口武洋さん

・植物写真(大型)

4月 桜とヒヨドリ

7月 湖岸の夏風景

9月 初期の紅葉

10月 紅葉終盤

12月 冬の太古の森

2月 琵琶湖の雪景色(ケヤキ)

3月 博物館に生えるタンポポ

・植物（映像）

- 6月 夏の植物 36点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん
9月 秋の植物 24点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん
12月 冬の植物 39点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん
3月 春の植物 37点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん

・ハンズオン

- 7月 キカラスウリ、ハス、ヘクソカズラ、ドクダミ、オニグルミ
10月 キンミズヒキ、ハウチワカエデ、カツラ、イチイガシ、ツユクサ
1月 ヤツデ、サザンカ、ロウバイ、ナンキンハゼ、オニグルミ、クズ、ヌルデ
3月 セイオユタンポポ、カラスノエンドウ、コメツブツメクサ、シロツメクサ、クスノキ、
ヒメオドリコソウ、ムラサキサギゴケ、ヤツデ、カツラ、ハウチワカエデ、フウ、メタセコイア

・正面展示

- 6月 ホタルに関係する草花、ホテイアオイ
10月 コイブキアザミ、ムラサキシメジ、バカマツタケ
1月 羽子板と羽根（ムクロジ）
3月 セイヨウタンポポとカンサイタンポポ（レプリカ）

・正面展示周辺

- 4月 タチスズシロソウ（レプリカ）
5月 ハマエンドウ（レプリカ）
6月 ハマヒルガオ（レプリカ）
7月 フウセンカズラの種子を使って作成した猿ぼぼとアロマウォーター展示 はしかけ「緑のくすり箱」
11月 コロナ応援草木染マスク
12月 クリスマスリース はしかけ「緑のくすり箱」吉野千栄子さん
3月 春におすすめの本3冊

・棚（季節の植物：博物館に生える植物・生物）

- 5月 ハーブを取り入れたグリセリンソープ はしかけ「緑のくすり箱」
7月 アロマストーン はしかけ「緑のくすり箱」
2月 ハーブを取り入れたグリセリンソープ はしかけ「緑のくすり箱」

【民俗】

2021年12月20日：感染症対策のために休止していたエビタツベの返しの組み立てキットを再開した。

【岩石・鉱物・化石】

2021年12月20日：感染症対策のためにビニールシートで保護をした展示ケースにいれていた岩石・化石標本について、もとの展示用ケースにもどして、取り出して直接観察できるようにした。

【質問コーナー】

2021年11月12日から12月26日までヌートリア剥製を展示した。

2022年2月16日 CO₂ モニターを設置した。

「オープンラボ」での実演や交流活動等の使用実績は137件あり、詳細は以下の通りである。
 2021年12月28日 オープンラボ上のモニターに資料発見の旅の4つの映像（林、金尾、大槻、田畑）を新たに追加した。

日付	内容	担当
4月4日	打ち合わせ (Zoom)	橋本
4月6日	標本整理	柘永
4月9・10日	プランクトン観察	鈴木
4月11日	顕微鏡観察	大塚
4月11日	植物化石同定作業	はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
4月17日	滋賀大・科研研究会 (Zoom)	橋本
4月20日	日動水近畿ブロック園館長会議 (Zoom)	金尾・鈴木
4月22日	ギャラリー展示打ち合わせ	戸田
4月24日	取材打ち合わせ	松岡
4月27・28日	サンプル処理	鈴木
4月28日	オンライン研究会	林
5月1日	琵琶湖梁山泊オンライン総決起集会	はしかけ 琵琶湖梁山泊
5月8日	豊中高校オンライン講義	鈴木
6月3日	プランクトン観察	鈴木
6月7日	オンライン (Zoom)	楊
6月8日	DNA 実験	田畑
6月9日	標本作成	柘永
6月12日	多賀町四手産植物化石の観察	はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
7月1日	標本観察	川瀬
7月1日	25周年記念シンポジウム打ち合わせ	八尋
7月6・9・11日	プランクトン観察	鈴木
7月15日	試験研究機関連絡会議幹事会 (Zoom)	八尋・亀田
7月16日	ホームページ研修	環境学習センター
7月18日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
7月22日	標本作製作業	はしかけ ほねほねくらぶ
7月23日	打ち合わせ	大塚
7月24日	オンライン (Zoom)	楊
7月29日	こどもエコクラブコーディネーター説明会	鶴飼
7月31日	オンライン (Zoom)	楊
8月1日	プランクトンなどの顕微鏡観察	はしかけ 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
8月3日	Zoom 会議	亀田
8月4日	Zoom 会議	亀田
8月5日	Zoom 会議	亀田
8月5日	標本作成	柘永
8月6日	打ち合わせ	山中
8月7日	オンライン質問	亀田
8月9日	プランクトン展示の打ち合わせ	鈴木
8月12日	オンライン会議 (水の会)	楊
8月13日	プランクトン観察	鈴木
8月15日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会

日付	内容	担当
8月17日	Web 質問	金尾
8月18日	オンライン打ち合わせ	亀田
8月19日	琵琶湖研究機構会議	亀田
8月21日	プランクトン観察	鈴木
8月22日	オオバナミズキンバイ駆除の打合せ（関西大学）	中井
8月27日	試験研究機関連絡会議	八尋・亀田
9月2日	オンライン Web 講義（龍谷大学）	林
9月8・9日	プランクトン観察	鈴木
9月13日	オンライン会議	島本
9月15日	オンライン会議	八尋
9月29日	Zoom ミーティング	中川
10月3日	共同研究	大槻
10月7・8日	プランクトン観察	鈴木
10月9日	Zoom ミーティング	八尋
10月13日	Zoom ミーティング	山中
10月21日	標本作成	柘永
10月23日	25周年シンポジウム	八尋
10月29日	魚類自然史研究会事前準備	川瀬
10月30日	魚類自然史研究会	金尾・川瀬
10月31日	標本観察	川瀬
11月3日	シンポジウム打ち合わせ	八尋
11月4日	試験研究機関連絡会議	八尋
11月9日	Web 会議	山中
11月11日	プランクトン観察	鈴木
11月12日	Web 会議	中川
11月16日	Web 会議	中川
11月18日	試験研究機関連絡会議幹事会	亀田・八尋
11月24日	研究会（Zoom）	林
11月25日	Web 会議 NORNAC24	山中
11月30日	Web 会議	加藤
12月1日	標本作成	柘永
12月2日	多賀町四手産植物化石の観察	はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
12月3日	水環境学会近畿支部総会授賞式	川瀬
12月5日	TOYOTA FES オンラインイベント	亀田
12月8日	研究打ち合わせ オンライン	亀田
12月9日	プランクトン観察	鈴木
12月11日	プランクトン等の顕微鏡観察	はしかけ 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
12月14日	葉の観察	大槻
12月15日	プランクトン観察	鈴木
12月18日	ワークショップ講演オンライン	金尾
12月19日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
12月21日	標本観察	川瀬
12月22日	Web 会議 琵琶湖環境部部門研修	山中

日付	内容	担当
12月24日	Web 会議 滋賀県土木技術研究発表会	山中
12月26日	標本作製作業	はしかけ ほねほねくらぶ
1月7日	植樹祭打ち合わせ	美濃部
1月9日	標本整理	柘永
1月11日	はしかけ	大槻
1月12・13日	プランクトン観察	鈴木
1月14日	新琵琶湖学セミナー打ち合わせ	大久保
1月16日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
1月18日	Web ミーティング	中川
1月22日	新琵琶湖学セミナー運営	大久保・金尾
1月25日	国際課リオグランデ・ド・スル州取材	中井
1月30・31日	日本動物園水族館教育研究会	金尾
2月1日	試験研究機関連絡会議発表会テスト	八尋
2月2日	試験研究機関連絡会議	八尋
2月4日	貝類同定作業	金尾
2月5日	標本整理	柘永
2月9日	カワウ対策オンライン会議	亀田
2月10日	プランクトン観察	鈴木
2月10日	新琵琶湖学セミナー打ち合わせ	大久保
2月11日	プランクトン観察	鈴木
2月14日	オンライン準備	松岡
2月15日	オンライン	中井
2月16日	オンライン会議（滋賀県獣医師会）	松岡
2月19日	トンボオンライン	武政
2月20日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
2月22日	Web 会議	金尾
2月24日	缶バッジ製作	戸田
2月25日	リオグランデ・ド・スル州とのオンラインツアー	中井
2月25日	新琵琶湖学セミナー打ち合わせ	大久保
2月26日	新琵琶湖学セミナー運営	大久保・金尾
3月2日	標本観察	川瀬
3月2日	オンライン講義（草津市立玉川小学校）	大槻・川瀬
3月5日	Web 会議	中井
3月8日	Web 会議 琵琶湖環境研究推進機構調査員・幹事会議	山中
3月15日	生態学会フォーラム	中井
3月16日	プランクトン観察	鈴木
3月16日	伊藤忠商事株式会社との打ち合わせ	亀田
3月17日	プランクトン観察	鈴木
3月20日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
3月21日	魚類自然史研究会	金尾
3月22日	環動昆	八尋
3月22日	試験研究機関連絡会議	八尋
3月24日	オンライン会議	亀田

日付	内容	担当
3月24日	オンライン会議（ダイハツ）	中井
3月26日	新琵琶湖学セミナー運営	松岡・金尾
3月27日	サンプル撮影	米田

「交流コーナー」での使用実績は1件あり、詳細は以下の通りである。

日付	内容	担当
2020年12月2日～	「冬の琵琶湖に集まるカモたち」として、オナガガモ(♂)、ヨシガモ(♂)、キンクロハジロ(♂)、コガモ(♂)の剥製を展示した。	榊永・天野

7) 屋外展示

- ・樹冠トレイルと屋外展示の森を活用した展示交流活動

樹冠トレイルと屋外展示の森を活用し、はしかけグループ「森人（もりひと）」とともに、つる植物の管理をはじめとした屋外展示の整備活動を行った。また、展示交流活動として「森人」メンバーを対象にした植物観察を実施した。

(2) 企画展示

1) 第29回企画展示「湖国の食事（くいじ）」 “Food Culture of Shiga”

① 主旨

食事をめぐる文化は、変化しつつも脈々と地域の中で受け継がれてきた。現代では、世界の多様な食材が日常的に食べられるようになった一方、数十年ほど前には当たり前だった食材や料理、食事の場面などの中に、失われつつあるものが少なくない。本企画展示では、土地の自然の恵みを食事として享受する知恵や技能、それを可能にしてきた自然環境や文化的背景を紹介するとともに、その継承を来館者とともに考える。

滋賀の食事文化の知恵を未来につなぐことを目的とし、観た人が、食事文化の価値と、自らがそれを受け継いでいる／いく当事者であることに気付き、積極的に育んでいく主体となっていくような展示とする。

この企画展示は、滋賀の伝統的な食事文化を次世代に継承すべく1991年に発足した「滋賀の食事文化研究会」との共同開催で行う。滋賀の食事文化研究会は、当館の学芸職員も参加する会で、滋賀の食事文化を地元から学び、自分で作る技能を習得し、他の人へ伝える活動を30年間にわたって続けてきた。身近なことを地域で暮らす人々自身が調べた活動の成果を、博物館と共に展示する。

② 概要

主催：滋賀県立琵琶湖博物館・滋賀の食事文化研究会

場所：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

会期：令和3年(2021年)7月17日(土)～11月21日(日)

*実質開催日数116日。8月27日(金)～9月30日(木)は臨時休館（新型コロナウイルス感染症拡大による滋賀県における緊急事態宣言発令のため）。また開館日も入館制限を行っている。

開館時間：7月17日～ 10:00～16:30 (16:00 最終入館)

8月3日～ 10:00～17:00 (16:00 最終入館)

観覧料金：大人 300 円（240 円）、高・大学生 240 円（180 円）、小中学生 150 円（120 円）

（ ）内は団体料金。企画展示を観覧するには、別途常設展示の観覧券が必要。

観覧者数：26,475 名

企画・制作・協力：

○琵琶湖博物館

芦谷美奈子、井関知子、大久保実香（主担当）、大塚泰介（副担当）、亀田佳代子、金尾滋史（副担当）、川瀬成吾（副担当）、桑田由紀子、後藤真帆、小山 勝、里口保文、塩谷えみ子、妹尾裕介、高石清治、高田千都子、高部千裕、田畑諒一、出口武洋、土肥桂子、中井克樹、中川信次（副担当）、中川 勝、中山法子、橋本道範、細川真理子、松田征也、森 智美、米田一紀（副担当）、山川千代美、山岡眞澄、山岡まちこ

○滋賀の食事文化研究会

青田朋恵、石田久代、今井尚美、今江秋子、今西昌子、大久保実香、小川 正、小川久子、奥村恵子、長 朔男、長 倭子、柏尾珠紀、河合定郎、木原あや子、串岡慶子、久保加織、桑村邦彦（会長）、小島朝子、坂井秀男、清水まゆみ、高橋静子、高正晴子、竹澤文雄、立花尚子、龍見茂登子、谷口美津子、辻川育子、鳥本登志子、中平真由巳、中村一恵、中村重之、中村紀子、橋本道範、長谷川嘉和、畑木綿子、原 康子、久田幸子、肥田文子、藤岡いづみ、古沢みどり、細辻珠紀、堀越昌子、松本立子、三宅貴江、村川玲子、山岡ひとみ、山本晴美、山中 健、脇田奈津貴

○その他

天野道雄、天野雪子、石見春香、片岡佳孝、川島朱実、北川治郎右衛門、ケンシヨク「食」資料室、國分政子、斉藤文子、至誠庵、滋賀県水産加工業協同組合、滋賀県農業技術振興センター、滋賀県農政水産部食のブランド推進課、滋賀県農村振興課、玉津小津漁業協同組合、西川俊三、（公社）びわこビジターズビューロー、前野 翠、三桝友梨香、山田秀子、山根 猛、吉積二三男、渡部圭一

写真提供：

石田孝義、今江秋子、小川久子、大久保実香、長 朔男、柏尾珠紀、金尾滋史、川島朱実、小島朝子、滋賀県水産試験場、（公財）滋賀県水産振興協会、滋賀県農業技術振興センター、滋賀の食事文化研究会、高橋静子、中村紀子、西川俊三、橋本道範、肥田文子、堀江昌史、堀越昌子、前野 翠、山岡ひとみ

展示施行：株式会社 本庄

③ 展示内容

○概要

各家の台所こそが食事文化の継承の現場であるというメッセージを込めて、各家の台所の再現展示をプロローグとした。次いで、滋賀県内で特徴的な伝統食のメニューを紹介するコーナー（第1章）、特徴的な食事文化を食材ごとに紹介するコーナー（第2章）を設けた。また、地域の行事や信仰と深く結びついたハレの日の特別な食を紹介するコーナーを設けた。第二展示室では、食事文化を継承する活動を行う滋賀の食事文化研究会の多岐にわたる活動を紹介したうえで、エピローグとして、来館者自身が滋賀の食事文化を繋いでいくにはどんなことができるか、その事例を提起した。

○各コーナー

プロローグ

導入として、台所、保存の要としての漬物小屋、食卓を支える畑を紹介する。それぞれの家庭が、食事文化を育んできた舞台であることへの気づきを促す。

台所コーナー：台所壁面を造作。台所、冷蔵庫、食器棚、ちりとり型まな板、煙突パン型等を展示。

軒下コーナー：焼杉材の外壁や軒を造作。漬物桶、味噌桶、野菜の種、うろこ取り、干しカゴ等を展示。

裏庭コーナー：背景写真を大型パネルに印刷・貼付け。蛇口、カラス模型等を展示。

第1章 湖国で育まれた味わい

滋賀と一言で言っても、滋賀県内の各地それぞれに、その地理的特徴に応じた個性豊かな食事文化が存在していることを紹介する。

大型パネル：滋賀県には、野山、田畑（平地）、湖があり、それぞれから豊かな恵みがある。模式図や写真を用いた大型パネルを展示。

滋賀の食マップ：泥亀汁、焼鯖そうめんなど、地域ごとに特徴的な料理がある。簡易食品レプリカ（写真の布プリントを粘土で半立体に＋実物の皿）、料理名の小旗を展示。地域ごとの特徴解説のパネルを展示。

第2章 湖国の恵みを頂く

食材ごとに、食材の特徴や多様性、食事文化における重要性、旬を食べつくるための保存や加工の知恵、食卓を彩る多彩な料理などを紹介する。

2-1. 湖魚

多様な湖魚食の文化がある。じゅんじゅん、佃煮、刺身、素焼き、釜揚げといった調理法がある。じゅんじゅん卓袱台、湖魚料理レプリカなどを展示。

2-1-1. なれずし

「食べる」コーナー：多彩ななれずしを始めとした多彩な湖魚料理がある。なれずしの中でもふなずしは特別な位置付けがされてきた。

ふなずし・こけらずしなどの写真パネル、なれずし（ふなずし・わたかずしなど）の食品レプリカ、専門店のふなずしパッケージなどを展示。

「漬ける」コーナー：ふなずしの漬け方を紹介。

ふなずしの漬けの工程の写真パネル、桶、うろことりなどふなずし作りの道具などを展示。

「獲る」コーナー：ニゴロブナの獲り方を紹介。

刺し網漁、タツベの写真パネル、タツベ、刺し網実物などを展示。

「知る」コーナー：ニゴロブナ、ゲンゴロウブナ、ギンブナの見分け方を解説。

ニゴロブナ、ゲンゴロウブナ、ギンブナのレプリカなどを展示。

2-1-2. 固有種

琵琶湖で食べられている湖魚には、琵琶湖地域にしかない固有種も少なくない。

湖魚のレプリカ、固有種魚名当てクイズパネルなどを展示。

2-2. 米

ふなずしに使う米の量を見てもわかるように、近江は米どころであること、近江米の品種の多様性、餅文化の豊かさなどを紹介。ゆりかご水田模型、稲穂実物、「みずかがみ」のパッケージ、餅花実物、小野神社のしとぎ実物、かきもちづくり動画などを展示。

2-3. 野菜

多様な在来野菜が存在し、特に滋賀ではかぶの品種が多様である。滋賀県の在来かぶレプリカを展示。

2-3-1. 漬物・乾物

漬物、乾物は、旬を生かし切り美味しく食べる保存の技である。漬物レプリカ、漬物桶、乾物実物（干しズイキ、干し大根、かんぴょうなど）、イタドリの糠漬けと煮物動画、かんぴょう干しの動画などを展示。

2-4. 豆

打ち豆や味噌など、豆を様々な加工する知恵と技がある。乾燥豆実物、打ち豆づくり道具（石臼、木づち）、味噌づくり動画などを展示。

第3章 ハレの日の食事

祭や行事と深く結びつきながら地域の中に息づく多様な食事がある。サトイモが欠かせない祭礼が数多く存在する。神饌・直会などの行事食の写真パネル（川島朱実氏撮影）、黄和田日枝神社ちん模型、栗津の御供レプリカ・日吉山王祭礼図屏風、栗東市三輪神社のナマズとドジョウのなれずし、長浜市延勝寺のおコナイの料理レプリカなどを展示。

第4章 湖国の食事を受け継ぐ

滋賀県内各地の食事文化を発掘し継承する活動を続けてきたと「滋賀の食事文化研究会」の活動を紹介する。滋賀の食事文化研究会年報、出版物、研究会の活動紹介パネル、調査部会の活動成果として8つの地域の昭和30年代の暮らしのパネルと民具、伝統食活用部会の活動成果として伝統食材を使った新レシピとその調理動画、食教材部会の活動成果として伝統食カルタなどを展示。

第5章 あなたがつなぐ湖国の食事（エピソード）

来館者が地域の食材や伝統食を、自分の家庭でも作り食べるためのヒントを紹介する。次の世代に伝えたい食事文化について、来館者にも考えてもらう。2021年湖国の食事コーナー（現在の滋賀県の日常の食や台所の写真）、フィールドレポーター調査の結果、「私が次の世代に伝えたい食」コーナー（会員からのメッセージ）、「わたしが受け継ぐ湖国の食事」コーナー（伝統食を作り食べるためのヒントパネル）など。

④ 印刷物

○図録

編 集：大久保実香

執 筆：第1章 柏尾珠紀・大久保実香

第2章 湖魚：桑村邦彦・大久保実香・川瀬成吾・橋本道範（コラム）・金尾滋史（コラム）
／米：大久保実香・大塚泰介・中川信次／野菜：大久保実香・中村紀子・高正晴子（コラム）
／豆：大久保実香・大塚泰介／芋：川島朱実・大久保実香

第3章 大久保実香・松田征也・串岡慶子

題 字：中村重之（第2章 湖魚・米・野菜・豆・芋）

イラスト：内藤紫帆（表紙・裏表紙・第2章扉）

肥田文子（第1章：湖北）

吉田奈々（第2章ふなずし辞典）

写真提供：石田孝義、今江秋子、小川久子、大久保実香、長 朔男、柏尾珠紀、金尾滋史、川島朱実、小島朝子、滋賀県水産試験場、（公財）滋賀県水産振興協会、滋賀県農業技術振興センター、滋賀の食事文化研究会、高橋静子、中村紀子、西川俊三、橋本道範、肥田文子、堀江昌史、堀越昌子、前野 翠、山岡ひとみ

仕 様：B5 サイズ、80 ページ 総カラーページ

発行部数：600 部

発行日：令和3年7月17日

印 刷：モリワキ印刷

販売価格：1240 円

○ポスター

仕 様：A1 サイズ 表カラー

発行部数：1000 枚

発行日：令和3年6月14日

デザイン：土肥桂子

印刷：柳印刷店

○チラシ

仕様：A4サイズ 両面カラー

発行部数：20000 枚

発行日：令和3年6月14日

デザイン：土肥桂子

印刷：柳印刷店

⑤ 関連事業

○概要

滋賀の食事文化研究会と共同で開催する企画展であり、今年が研究会の30周年に当たることもあり、様々な事業が研究会と共同で企画・実施された。これらの活動は、コロナとの付き合い方滋賀プランのステージ並びに感染状況に応じて実施または中止された。

1. オープニングセレモニー

日時：令和3年（2021年）7月17日（土）10：00から

会場：琵琶湖博物館アトリウム（企画展示室前）

来賓：滋賀の食事文化研究会歴代会長（堀越昌子氏、小島朝子氏、長谷川嘉和氏、桑村邦彦氏）

概要：館長挨拶、共同主催である滋賀の食事文化研究会会長・桑村邦彦氏の挨拶、担当学芸員（大久保）による展示紹介、テープカットを実施した。その後、担当学芸員による企画展示の案内を行った。滋賀の食事文化研究会の会員を中心に、多数の参加があった。

2. 滋賀の食事文化研究会設立30周年記念行事

日時：令和3年（2021年）7月31日（土）10：00～11：30

会場：琵琶湖博物館ホール

対象：滋賀の食事文化研究会の会員・館内関係者等（参加者約50名）

概要：滋賀の食事文化研究会の30周年を記念し、中村紀子氏による記念講演「滋賀の食事文化研究会30年の記憶」を行った。滋賀の食事文化研究会企画部会が中心となって企画した。

主催：滋賀の食事文化研究会

共催：滋賀県立琵琶湖博物館

3. 企画展示関連シンポジウム「未来を醸す～湖国の食事文化」

日時：令和3年（2021年）7月31日（土）13：30～16：00

会場：琵琶湖博物館ホール／参加登録者へのオンライン配信

対象：小学生以上（参加者 会場約100名 オンライン申込：54名）

概要：県内の生産者等にご登壇いただき、生きるために欠かせない食を通じて、地域の文化と環境を将来に受け継いでいくことを考える。企画展示関連シンポジウムであるが、滋賀の食事文化研究会30周年にあたってのシンポジウムでもあることから、滋賀の食事文化研究会企画部会が中心となって企画した。担当学芸員（大久保）も、企画部会のメンバーの一人となり、企画運営に参加した。

コーディネーター：三宅貴江（滋賀の食事文化研究会会員・「湖国と文化」編集長）

パネリスト：堀越昌子（滋賀の食事文化研究会会員・滋賀大学名誉教授）、
川瀬順子（長浜市・Tsunagu 代表）、富田泰伸（富田酒造蔵元杜氏）、
中村清作（漁師・JF 全国漁青連会長）、岡野将広（高島市・ワニカフェオーナーシェフ）
主催：滋賀県立琵琶湖博物館・滋賀の食事文化研究会

4. 交流イベント「滋賀の食をめぐる大冒険！」

日時：令和3年（2021年）8月1日（日）10：00～16：30

会場：琵琶湖博物館

対象：一般（来館事前予約が必要）

主催：滋賀の食事文化研究会 共催：滋賀県立琵琶湖博物館

概要：食に関するイベントを通じて研究会会員と来館者との交流の場とするとともに、滋賀の食事文化を様々な世代へ発信した。滋賀の食事文化研究会企画部会が中心となって企画した。ホールにおいて、食をテーマにしたビンゴ、紙芝居、朗読劇などを、研究会の各部会が実施した。また、展示室を利用したクイズラリーを実施した。

5. 関連講座「企画展関連講座「江戸時代の料理書、『合類日用料理抄』を読んでみよう」

日時：令和3年（2021年）9月18日（日）13：30～15：00

※コロナ感染症による緊急事態宣言・臨時休館により中止

会場：琵琶湖博物館会議室

対象：中学生以上、定員10名

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

概要：江戸時代の料理書である『合類日用料理抄』を学芸員と一緒に読んで学ぶ。

講師：琵琶湖博物館専門学芸員 橋本道範

6. 滋賀の食事文化研究会設立30周年記念講演会

日時：令和3年（2021年）11月7日（日）13：30～16：30

会場：琵琶湖博物館ホール

主催：滋賀の食事文化研究会

共催：滋賀県立琵琶湖博物館・滋賀県獣医師会

講師及び内容：福井英彦（滋賀県獣医師会理事）「近江牛の歴史」

柏尾珠紀（滋賀大学環境総合研究センター）「滋賀のなれずしの多様性」

7. トピック展示：「湖国の食をめぐる旅」

日時：令和3年（2021年）8月2日（月）～9月5日（日）

会場：琵琶湖博物館アトリウム

主催：滋賀の食事文化研究会

共催：滋賀県立琵琶湖博物館

概要：滋賀県内各地で食にかかわる活動を行う団体を紹介するポスター展示を実施した。

参加団体：志賀郷土料理の会（大津市）、北比良グループ（大津市）、

新兵主蕪を育て料理する会（野洲市）、沖島湖島婦貴の会（近江八幡市）、

安土町商工会女性部（近江八幡市）、ふるさとの食まつり in 日野実行委員会（日野町）、

YOBISHI プロジェクト（多賀町）、ごはん大好き！にぎにぎの会（長浜市）、

TSUNAGU（長浜市）

8. 滋賀の食事文化研究会会員による企画展示会場における来場者との交流

概要：会期中の土日祝日を中心に、滋賀の食事文化研究会の会員のうち有志が企画展示室に当番として滞在し、来場者との交流を行った。33日間、のべ67人が当番として参加した。また、当番に入った会員が、滋賀の昭和30年代の食事文化を紹介する紙芝居（滋賀の食事文化研究会食調査部会が制作）「もとえさんの子どもの頃」「安土西の湖周辺の暮らしと食」「奥永源寺のみっちゃん」「やすこちゃんのはるなつあきふゆ」の上演を行った。

⑥ 広報・報道等

○職員執筆コラム等

- 7月10日 中日新聞 湖岸より 403 湖国で受け継がれる豊かな伝統食（大久保実香）
- 7月24日 中日新聞 湖岸より 404 湖魚料理を支える水産（米田一紀）
- 7月31日 中日新聞 湖岸より 405 いまとは違った江戸時代のふなずし（橋本道範）
- 8月14日 中日新聞 湖岸より 406 田んぼがやせて泣いている（大塚泰介）
- 8月17日 毎日新聞 びわ博こだわり展示の裏話 89 企画展示「湖国の食事」台所こそ文化継承の現場（大久保実香）
- 9月28日 毎日新聞 びわ博こだわり展示の裏話 92 食事文化支える「湖魚」目指せフナマスター スケッチで違い明確（川瀬成吾）
- 10月8日 京都新聞 びわ博からフィールドへ ⑫ 川魚屋「魚滋」湖の魚食文化 体感して（金尾滋史）
- 11月9日 毎日新聞 びわ博こだわり展示の裏話 94 県の食文化身近に感じて 構成を逆の順番に（米田一紀）

○報道等

- 7月21日 びわ湖大津経済新聞（ウェブ） 琵琶湖博物館で企画展「湖国の食事（くいじ）」滋賀の伝統食や食文化を紹介
- 7月30日 海と日本Project in 滋賀県（ウェブ）【しがライターReport】ふなずしだけじゃない！滋賀の食文化を知る「湖国の食事（くいじ）」が開催中！
- 8月1日 中日新聞 多様な食文化工夫を知って 琵琶湖博物館企画展「湖国の食事」
- 8月23日 京都新聞 湖国の食豊か 各地の料理サンプル展示 草津市で企画展食材解説・調理法も
- 8月23日 京都新聞 湖国の食×祭礼知って 情報ワイド「まつり」の川島朱実さんが展示
- 8月9日 KBS 京都「ま〜ぶる！月曜日ファミリーレストランのめっちゃうま」ラジオカーレポート（企画展示「湖国の食事」の紹介）
- 10月1日 NHK 大津「おうみ発630」（企画展示「湖国の食事」の紹介）
- 10月28日 NHK ラジオ第一放送「関西ラジオワイド」（企画展示「湖国の食事」の紹介）
- 11月7日 滋賀民報 琵琶湖博物館企画展「湖国の食事」滋賀で受け継がれた知恵と技

○開催案内等

- 7月15日 朝日新聞 遊・YOU・友 企画展関連シンポジウム「未来を醸す〜湖国の食事文化」開催案内
- 8月6日 日本経済新聞 琵琶湖の日40周年 広告 第29回企画展示湖国の食事
- 8月26日 毎日新聞 美術館・博物館 企画展示「湖国の食事」
- 10月5日 朝日新聞（夕刊） 美術館・博物館 企画展示「湖国の食事」
- れいかる（湖国文化情報） 7・8月号 企画展示「湖国の食事（くいじ）」
- JAF MATE 第59巻第5号（日本自動車連盟） 滋賀県立琵琶湖博物館 EVENT INFORMATION

Duet 2021年夏(サンライズ出版) 第29回企画展示湖国の食事・企画展「湖国の食事」関連シンポジウム
未来を醸す～湖国の食事文化

広報烏丸 第52号(草津北部まちづくり協議会) 企画展示「湖国の食事」

博物館研究 vol.56 No.9 展覧会 滋賀県立琵琶湖博物館 湖国の食事

れいかる(湖国文化情報) 9・10月号 企画展示「湖国の食事(くいじ)」

博物館研究 vol.56 No.10 展覧会 滋賀県立琵琶湖博物館 湖国の食事

全科協 NEWS vol.51 No.5 9月10月の特別展示等 滋賀県立琵琶湖博物館 湖国の食事

れいかる(湖国文化情報) 11・12月号 企画展示「湖国の食事(くいじ)」

博物館研究 vol.56 No.11 展覧会 滋賀県立琵琶湖博物館 湖国の食事



(3) ギャラリー展示・トピック展示等

1) ギャラリー展示

① 知っていますか? 日本農業遺産「琵琶湖システム」

期間: 2021年4月17日(土)～6月6日(日)

主催: 琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会(事務局 滋賀県農政水産部農政課)

共催: 琵琶湖博物館

場所: 琵琶湖博物館企画展示室

内容: 「日本農業遺産」に認定され、「世界農業遺産」の候補とされている「森・里・湖(うみ)に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」の紹介。近江の歴史と風土の中で生まれ、琵琶湖とともに生きるための知恵を現代に伝えてくれる「琵琶湖システム」について知り、その魅力を探っていく。

② 琵琶湖の虹が映(ば)える理由(わけ)ー湖の「なぜ」がわかる物理学ー

期間: 2022年1月4日(火)～3月6日(日)

主催: 琵琶湖博物館

場所: 琵琶湖博物館企画展示室

展示企画・制作: 戸田 孝(主担当)、大塚泰介(副担当)、芦谷美奈子(副担当)

展示制作協力(館内: 五十音順): 大久保美香、大槻達郎、金尾滋史、鈴木隆仁、高石清治、高部千裕、
田畑諒一、中井克樹、森智美、山中大輔、米田一紀

展示制作協力(館外: 五十音順): 石川可奈子、石川俊之、市川真史、井出祐貴、岩木真穂、J. C. Wells、
梅村和夫、梅村麻奈実、川村康文、熊谷道夫、小泉尚嗣、根田昌典、肖曼、薛宗璞、庄村慎
悟、高本優也、陈怀民、朱伟、赵鸿茹、辻 真紀、西山 等、野間正泰、濱野 凌、伴禎、広瀬

公美、冯甘雨、古島靖夫、松井一幸、松田征也、真山茂樹、光永 靖、森田 存、山根 猛、山村 天、吉川 裕、米原悠海、李明、渡部義弥

趣旨：琵琶湖にはさまざまな水の動きがあり、湖上の空にもさまざまな現象がある。それらは琵琶湖地域の生き物や人の暮らしに重大な影響を及ぼすこともあるものだが、そのものを手に取って見ることはできない。そこで、そのような現象を理解するための手がかりとして、「なぜ、どのように」起こり、「何に、どのように」影響するのかを提示する展示を展開した。原理的なことに関する科学的な解説も交えつつ、それに留まることなく、琵琶湖地域で実際に起こっている現象との関わりを深く考察できるような内容を目指した。

展示構成：

- | | | | | |
|----------|---------|---------------|---------|-----------|
| 0) 虹と蜃気楼 | 1) 湖上の風 | 2) 琵琶湖環流 | 3) 深呼吸 | 4) 体験コーナー |
| 5) 湖流と生物 | 6) 津波 | 7) 資料集「流れを測る」 | 8) 活動紹介 | |

解説パネル45枚を架空の中学校科学部の活動記録という形に演出した。また、各コーナーの表題を幟で表示すると共に、「物理学」の雰囲気づくりの一環として各コーナーの話題に関係する数式を手書きした黒板を配し、内容について突っ込んで知りたいという観覧者を想定して参考となる情報へのQRコード集を展示するコーナーを設けた。さらに、全体のアイキャッチとして館関係者による虹の写真パネルを入口に配置し、少し進んだところにはシブキ氷の写真を展示、奥の体験コーナー付近には過去の活動風景をアルバム風に編集して展示した。虹の形状の説明では立体幾何学の感覚が必要となるため、その理解の助けとなるよう説明図を立体化した透明アクリル板の模型を配置した。「湖流と生物」のコーナーにおいて、その内容に関わる館蔵観測機器を展示したほか、琵琶湖において水流の観測に使われたことのある観測機器を借用して出口付近に展示した。

なお、体験コーナーでは、はしかけ「サロン de 湖流」参加者や外部協力者による種々の実験体験を想定していたが、コロナ禍の影響などで実際に参集することができず、滋賀県立大学から借用した回転実験台を用いて担当学芸員が実演する実験（期間中、土日祝の昼ごろ110回程度）のみとなった。この実験は、回転台上で一緒に回っている観察者の立場を、観覧者のスマートホンで動画撮影して再生することにより体験するもので、撮影した動画は観覧者が「おみやげ」として持ち帰ることができる。実験内容は回転台上を転がるボール（適度に跳ねるため台の回転の影響を受けず直進する）が横に引っ張られているように見えるというものである。



③ トンボ 100 大作戦—滋賀のトンボを救え！

期間：令和4年（2022年）2月1日（火）～2月27日（日）

主催：生物多様性びわ湖ネットワーク（旭化成(株)、旭化成住工(株)、オムロン(株)、積水化学工業(株)、積水樹脂(株)、ダイハツ工業(株)、(株)ダイフク）・滋賀県立琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：滋賀県内に所在する企業がトンボを保全するために結成した「生物多様性びわ湖ネットワーク」の活動の成果を展示した。生息数が減少しているトンボを工場敷地内のビオトープで保全し、滋賀県内に生息する100種全種のトンボの確認を目指した調査を実施したことなどを紹介した。また、フォトコンテストも開催し、2月19日にオンラインで表彰式を開催した。

④ 森へ行こう、森と生きよう。

期間：2022年3月20日（日）～6月5日（日）

主催：滋賀県琵琶湖環境部全国植樹祭推進室、滋賀県立琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館企画展示室

内容：第72回全国植樹祭の開催を記念して、滋賀県の面積の約半分を占める森をテーマに、森のすごさ、森へ行く楽しさ、木のすごさを紹介した。県内のおすすめの森の紹介パネルや木製品の展示なども活用し、森や木を身近に感じるとともに、これからの森と人との関わりを考えるきっかけとなるような展示とした。

○関連事業

オープニングセレモニー、全国植樹祭開催直前イベント

日時：令和4年（2022年）3月20日（日）10：00から

会場：琵琶湖博物館アトリウム（企画展示室前）

主催：滋賀県琵琶湖環境部全国植樹祭推進室

共催：滋賀県立琵琶湖博物館

内容：展示のテープカットを行うとともに、全国植樹祭に使用する苗木を育てた小学校、および協賛企業へ感謝状の贈呈を行った。セレモニー後は全国植樹祭開催直前イベントとして、企画展示室にて展示に関連したクイズラリーを実施した。また、うみっこ広場にて木製ブロック（ズレンガ）の体験を行った。

2) トピック展示等

① 令和2年度「ごはん・お米とわたし」図画の部 入賞作品展示

期間：2021年3月23日（火）～4月11日（日）

主催：滋賀県農業協同組合中央会

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：滋賀県内の小・中学校から応募された図画部門の作品の中から選ばれた入賞作品を展示した。

② 山里の自然と暮らしの文化を活かした地域（むら）づくり

期間：2021年5月29日（土）～7月4日（日）

主催：結いの里・椋川

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：令和2年度ふるさとづくり大賞で総務大臣表彰（団体表彰）を受賞した、高島市今津町椋川（むくがわ）地区の現状と取り組みを紹介した。

③ 湖国の食事をめぐる旅

日時：2021年8月2日（月）～9月5日（日）

会場：琵琶湖博物館アトリウム

主催：滋賀の食事文化研究会 共催：滋賀県立琵琶湖博物館

内容：企画展関連展示。内容は先述の通り。

④ 水族トピック展示「約30年ぶりの発見!!コガタノゲンゴロウ」

期間：2021年10月19日（火）～12月19日（日）

主催：琵琶湖博物館

場所：ふれあい体験室前

内容：長浜市の小学生、天守証さんによって発見されたコガタノゲンゴロウの標本、コガタノゲンゴロウの生体展示(他県で採集された個体)、その他県内で見ることができなくなった水生昆虫を紹介した。

⑤ 2021年こどもエコクラブ絵日記、壁新聞展示

期間：2021年11月30日（火）～12月16日（木）

主催：琵琶湖博物館環境学習センター

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：淡海こどもエコクラブの活動でつくられた絵日記と壁新聞を展示した。

⑥ 「びわこのちから」発見！フォトコンテスト入賞作品展示

期間：2021年3月5日（土）～3月13日（日）

主催：琵琶湖博物館環境学習センター

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：同コンテスト入賞作品を展示し、好きな写真にシールを貼る形で投票を行った。

⑦ 第46回「ごはん・お米とわたし」図画の部 入賞作品展示

期間：2021年3月25日（金）～4月10日（日）

主催：滋賀県農業協同組合中央会

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：滋賀県内の小・中学校から応募された図画部門の作品の中から選ばれた入賞作品を展示した。

3) 共催展

福井県立年縞博物館「湖ラボ展」 琵琶湖博物館の「移動博物館」のキットの展示

期間：令和3年（2021年）3月5日（金）～4月19日（月）

場所：福井県年縞博物館（福井県三方上中郡若狭町鳥浜 122-12-1）1階ロビー

主催：福井県立年縞博物館・滋賀県立琵琶湖博物館

内容：令和2年（2020年）7月30日に開催された滋賀県・福井県知事懇談会における合意事項に基づき、広域的な交流の促進を目的として、福井県年縞博物館において、滋賀県立琵琶湖博物館と福井県年縞博物館との連携事業を実施した。福井県年縞博物館の1階ロビーで琵琶湖博物館の「移動博物館」の展示キットを展示した。

展示室における新型コロナ対策

常設展示においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、一部の展示物の撤去、変更などをしながら、来館者に楽しんでもらえる展示を心がけてきた。1年以上にわたるコロナ対策を実施した結果、目鼻口を近づける展示物および布製で消毒が困難な展示物以外について、制限緩和を行った。緩和の作業は、主に2021年12月6日から2022年1月3日の間に行われた。緩和の内容は、以下のとおりである。

・A展示室

ゾーン名	制限緩和する展示	変更内容
うつり変わる大地	琵琶湖地下の岩盤模型の携帯版	展示していなかったものを戻す

・B展示室

ゾーン名	コーナー名	制限緩和する展示	変更内容
森ゾーン	森に暮らす	分けてみよう（5種類の木の実を分ける展示）	蓋を撤去し触れるようにする
湖ゾーン	湖から見る	丸子船AR	2台に減らしていたものを4台に戻す

・C展示室

ゾーン名	コーナー名	制限緩和する展示	変更内容
琵琶湖へ出かけよう	琵琶湖の風景	タッチパネル	間引き解除
琵琶湖へ出かけよう	琵琶湖の水質	びわレンジャー（クイズ）	間引き解除
琵琶湖へ出かけよう	琵琶湖の形の変化	水位データ（パウチ）	再設置
ヨシ原にはいってみよう	ヨシトンネル	マグネット	撤去中のを戻す
ヨシ原にはいってみよう	人とヨシとのつきあい	ヨシハンズオン引き出し	バックヤードから出して棚に設置
ヨシ原にはいってみよう	人とヨシとのつきあい	ヨシズ編み完成品	本体を修理の上カバーを外す
田んぼへ	田んぼの中をのぞいてみると	前面のローピング	撤去
田んぼへ	田んぼの中をのぞいてみると	虫眼鏡	元に戻す
川から森へ	森から川、川から琵琶湖へ	コリント・ゲーム	パウチを取り、球を補充、コロナ前同様の運用とする
川から森へ	カワウのすむ森	カワウが1日に食べる魚	撤去していた展示を再設置、パネルも復帰
川から森へ	カワウのすむ森	カワウのすむ森の情景下のラック	撤去していた資料・パウチシート等を戻す
私たちの暮らし	富江家	畳へあがれるようにする	ガードとして置いてある展示物の配置換え、
これからの琵琶湖	オピニオンコーナー	中央のテーブル	鉛筆と紙と消しゴムを戻す
これからの琵琶湖	オピニオンコーナー	オピニオンボード	従来の紙を掲げられる展示にする

・水族展示室

ゾーン名	コーナー名	制限緩和する展示	変更内容
古代湖の世界	バイカルアザラシ水槽	バイカルアザラシ水槽	ローピングにつけていた案内を撤去。天板に設置
ふれあい体験室	ふれあい体験室	タッチングプール	飛沫防止カーテンを設置、順路矢印・ローピングの設置して再開、ふれあい水槽には有孔ボード設置。有孔ボードは撤去
マイクロアクアリウム	マイクロバー	バーカウンター上の顕微鏡	平日の顕微鏡展示の再開

・ディスカバリールーム

コーナー名	制限緩和する展示	変更内容
全体	全体	平日の人数制限撤廃
見つけてみよう	トンネル	現在封鎖しているトンネルを入れるようにする

・おとなのディスカバリー

コーナー名	制限緩和する展示	変更内容
地学	地学の岩石	従来展示に戻す
文書	パウチ	従来展示に戻す
文書	小上がり	従来展示に戻す
考古	粘土	従来展示に戻す
民俗	エビタツベ	従来展示に戻す
哺乳類	筆	従来展示に戻す
各分野のテーブル	鉛筆と紙と消しゴム	鉛筆と紙と消しゴムに戻す
調べるコーナー	毛皮	従来展示に戻す
質問コーナー	ハクビシン	従来展示に戻す

展示交流

(1) コロナ禍における展示交流の構築

開館以来、展示室内での交流活動の1つとして、学芸職員による展示解説「フロアトーク」を行ってきた。今年度も新型コロナウイルス感染症対策（コロナ対策）のために中止された。展示交流員は本来毎年12月から3月の間には、来館者との交流の充実をはかるために「展示交流員と話そう」という展示解説・交流を実施していたが、こちらも中止となった。一方、ハンズ・オン展示が多用されている当館では、飛沫感染の恐れのない展示に関しては随時展示を通常時の展示に戻し、ウィズコロナを見据えた展示転換を行った。

(2) 展示交流員のコロナ対策

展示交流員は、来館者が密閉、密集、密接といった3密状態にならないように展示誘導を行うとともに、展示物の清掃・消毒を行うことでコロナ対策をしている。また、フェイスシールドを装着し、コロナ対策を徹底している。さらに、事前決済のWebチケットを導入し、チケットブースにはキャッシュレス決済を取り入れた。これらのシステムを導入することで、来館者と交流員の物理的な接触を減らし、コロナ感染症リスクの軽減につとめた。

(3) デジタルサイネージ

琵琶湖博物館では、来館者向け利用案内の向上を目的としてデジタルサイネージを導入、運用しており、現在8台を運用している（表）。

このうち正面入り口の2台では一般的な利用案内情報を発信していたが、昨年度より専ら新型コロナウイルス感染症予防に関する注意喚起情報を発信している。そのうち1台については、入場制限のために実施している予約の空き情報をリアルタイムで発信する用途（予約システムの利用方法も併せて案内）に5月12日から転用した。

券売カウンター横の1台では、企画展のほか館内で実施している様々なイベント（事前申込を要さないもの）を案内していた。しかし、感染予防のため該当するイベントが激減したうえ、感染対策のために休止しているサービスの案内や関連する注意喚起情報を発信する必要が生じたため、昨年度半ば以降は専ら数週間以上にわたる長期的なイベント情報のみの発信となり、更新頻度は6回程度となっている。

券売カウンターの3台については、観覧料の他に利用上の注意（喫煙禁止・飲食禁止・ペット禁止など）も発信していたが、発券の自動化やキャッシュレス対応のためにカウンターの空きスペースが狭くなり、観覧料金表を置けなくなったことから、7月17日に利用上の注意に関する情報の発信を取りやめ、1月29日から観覧料以外の情報を全く発信しない設定に改めた。

【デジタルサイネージの設置場所と運用状況】

	設置場所	画面サイズ	形式	表示内容
1	券売カウンター横	55 インチ	固定	展示案内（企画展など）、感染対策のために休止しているサービスの案内、その他感染対策のための注意喚起情報
2	券売カウンター	43 インチ	固定	観覧料の案内
3				
4				
5	1F エスカレーター前	43 インチ	可搬	エスカレーター案内
6	正面入り口	55 インチ	可搬	予約状況の案内
7				利用料金、利用案内
8	C 展示室	55 インチ	可搬	展示物紹介（ナゴヤダルマガエル）

博物館連携

(1) 滋賀県博物館協議会

滋賀県博物館協議会は県内の70館（2021年4月末現在）で構成する団体である。広報、研修、記念事業の3つの委員会を持ち、ウェブによる加盟館紹介や新聞連載、年3回の研修・情報交換事業、5年に1度の記念事業などを実施している。当館は3つの委員会に各1名が参画し、活動の一翼を担っている。

(2) 烏丸半島活性化連携事業

琵琶湖博物館をはじめ、烏丸半島に関連する施設、企業、団体等で構成する琵琶湖・烏丸半島魅力向上活性化協議会の事業として、コロナ禍の状況の中、各構成団体それぞれにおいて、可能な限り各構成団体が連携・協力し烏丸半島への誘客を促進する取組を行った。

1) ウォーキングマップの配布

烏丸半島をめぐる一周約3.3kmのウォーキングマップを配布し、半島内の施設や見どころ、自然等を紹介した。

配布先：琵琶湖博物館来館者

2) 各種広報媒体の活用による情報発信

コロナ禍の状況の中、各構成団体それぞれにおいて、各構成団体が発行する広報やリーフレットをはじめ、パブリシティ・Facebook の活用により烏丸半島の情報を発信した。

4 体験と交流を促す博物館

一般利用者へのサービス

(1) 観察会・見学会等

2021年度は博物館や県内各地で観察会・見学会・講座等24件の事業を実施した。そのうち22件は事前参加申込によるもので、ほかの1件は当日受付、1件はオンラインによる運営を行った。観察会・見学会・講座等7件は中止となった。はしかけ講座と新琵琶湖学セミナーはオンラインで実施した。事前参加申込手続きには「しがネット受付システム」及び往復はがきによって運営している。

開催日			事業名	定員	参加者数	共催・協力等
4	21	水	ちっちゃな子どもの自然遊び・4月	5組	中止	ちこあそ (はしかけ)
5	16	日	ふらっと自然観察 第1回	15	中止	水と暮らし研究会(はしかけ)
5	19	水	ちっちゃな子どもの自然遊び・5月	5組	中止	ちこあそ (はしかけ)
5	19	水	季節の植物でアロマウォーターを作ろう	5	中止	緑のくすり箱 (はしかけ)
5	22	土	生活実験工房田んぼオンライン観察会	なし	—	
6	6	日	豊かな生きものを育む水田講座 (初級)	20	13	滋賀県農村振興課
6	16	水	ちっちゃな子どもの自然遊び・6月	5組	11	ちこあそ (はしかけ)
6	19	土	須原魚のゆりかご水田オンライン観察会 2021	なし	—	せせらぎの郷須原
6	20	日	ふらっと自然観察 第2回	15	14	水と暮らし研究会(はしかけ)
7	7	水	季節の植物でアロマウォーターを作ろう	5	中止	緑のくすり箱 (はしかけ)
7	21	水	ちっちゃな子どもの自然遊び・7月	5組	16	ちこあそ (はしかけ)
8	7	土	下物ビオトープ観察会	20	中止	琵琶湖保全再生課
8	14	土	マイナス80度から生還した微小生物	20	中止	
8	22	日	わくわく知恵さがし・楽しく学びあい(講	15	中止	水と暮らし研究会(はしかけ)
9	4	土	琵琶湖に入って生き物を探そう	20	中止	カワセミ自然の会
9	5	日	ヨシ灯りをつくろう!	24	中止	西の湖ヨシ灯り展実行委員会
9	15	水	ちっちゃな子どもの自然遊び・9月	5	中止	ちこあそ (はしかけ)
9	15	水	季節の植物でアロマウォーターを作ろう	5	中止	緑のくすり箱 (はしかけ)
9	19	日	豊かな生きものを育む水田 (中級)	40	中止	滋賀県農村振興課
9	25	土	プランクトンでビンゴ	20	中止	
9	25	土	江戸時代の料理書「合類日用料理抄」を読 んでみよう	10	中止	
10	10	日	わくわく知恵さがし・楽しく学びあい	15	12	水と暮らし研究会(はしかけ)
10	17	日	ふらっと自然観察	15	中止	水と暮らし研究会(はしかけ)
10	20	水	ちっちゃな子どもの自然遊び・10月	5組	17	ちこあそ (はしかけ)
11	17	水	ちっちゃな子どもの自然遊び・11月	5組	18	ちこあそ (はしかけ)
12	1	水	季節の植物でアロマウォーターを作ろう	5組	2	緑のくすり箱 (はしかけ)
12	15	水	ちっちゃな子どもの自然遊び・12月	5	13	ちこあそ (はしかけ)
1	12	水	ちっちゃな子どもの自然遊び・1月	5組	9	ちこあそ (はしかけ)
2	16	水	ちっちゃな子どもの自然遊び・2月	5	中止	ちこあそ (はしかけ)
3	16	水	ちっちゃな子どもの自然遊び・3月	5	中止	ちこあそ (はしかけ)

(2) 講座・セミナー

2021年度は、以下に示した講座を実施した。

	内容	開催日	曜日	募集数	参加者数	講師
1	はしかけ登録講座 (オンライン)	5月16日～5月23日 9月26日～10月3日 3月6日～3月20日		なし	20 18 16	
2	琵琶湖地域の水田生物研究会	12月20日	日	なし	150	一般発表 6件 ポスター発表 8件 ミニシンポジウム 4件
3	新琵琶湖学セミナー (オンライン)	1月22日 2月26日 3月26日	土	なし	106 81 180	戸田 孝・石川俊之 芳賀裕樹・佐藤祐一 五箇公一・中井克樹

(3) 体験教室

1) 里山体験教室 (担当：美濃部諭子・中川信次・安達克紀)

「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない、子どもの頃は野山で遊んだが久しく行っていない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室を「はしかけ里山の会」との共催により開催している。

人里の外側に広がる田畑、草原、河辺林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林に留まらず、各回周辺を歩いて、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しみながら知ってもらうため、春・夏・秋・冬の年4回実施している。

春は里山を歩き、春を感じるような植物を中心に観察を行った。午後は、里山整備をした後、丸太切りを行い、自分で切った輪切りで木の名札づくりを行った。

夏は、昆虫を専門とする学芸員の指導を得て、野原の昆虫と森の昆虫の観察会を行った。午後は、下草刈りをした後、ロープと布を使った簡易ハンモックの設置方法を体験した。

秋は、里山を散策して木の実や紅葉などの「里山の秋色さがし」を行った。午後は、里山整備で少し太めの雑木や竹を伐採し、伐採木と布を使って椅子を作った。ほかにもロープを使ってブランコを作るなど里山遊びを楽しんだ。

冬は、たき火と花炭づくりをする予定だったが、コロナ禍により中止とした。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4月25日	里山の春をみつけよう	46	美濃部、草加
2	7月11日	里山の夏を楽しもう	42	美濃部、八尋、中川
3	10月10日	里山の秋さがし	34	美濃部、中川、安達
4	1月23日	冬の里山を楽しもう	中止	



春の散策



夏のハンモック



秋の里山整備

2) 生活実験工房 田んぼ体験 (担当：中川信次・中川 優)

生活実験工房では年間を通して、一般の参加者とはしきけ会員を対象に、暮らしと田んぼの体験教室を実施している。5月から10月初旬までは主に水稻栽培に関する体験を行い、12月初旬から翌年2月までは藁など収穫した材料や工房周辺にある材料を使って体験活動を実施している。

水稻栽培の体験活動では、昔ながらの苗代づくりから、手作業による田植え、稲刈りまでを昔の農具を使って行っている。農閑期となる冬季には工房内でしめ縄やわら細工など、主に藁を有効活用した体験活動を行っている。つまり、生活実験工房では農具や道具などの使い方を学び、参加者同士が協力し交流を深めながら、昔暮らしの作業体験に取り組んでいる。

しかし、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、5月、9月、2月の体験活動は中止となった。また、開催できた体験活動についても予約制とし、参加人数に制限を設けての実施となった。さらに、体験活動時の作業説明は屋外でテントを設置して行うなどの対策も講じた。なお、中止されたイベントでの農作業は、展示交流員の方の研修の機会として活用した。

体験活動を実施するには難しい時期ではあったが、子どもたちの成長を見ながら親と子の絆を深める良い機会として頂き、参加者の多くに満足頂いた。また、本年度は「豊かな生きものを育む水田講座」として、水生昆虫などを観察する新たな試みを滋賀県農村振興課と共同で開催し、好評を得た。

活動日	内 容	イベント	参加者数
4月 10日	種まき、苗代づくり	—	職員対応
5月 10日	田植え	中止	職員対応
6月 6日	豊かな生きものを育む水田講座 (初級)	実施	13名
7月 25日	昆虫採集	実施	26名
9月 12日	稲刈り (早稲品種：みずかがみ) はさ掛け	中止	職員対応
9月 19日	豊かな生きものを育む水田講座 (中級)	中止	職員対応
10月 3日	稲刈り (晩稲品種：滋賀羽二重糯) はさ掛け	実施	21名
11月 21日	秋の昆虫採集	実施	16名
12月 19日	しめ縄づくり	実施	24名
1月 17日	どんど焼き	—	職員対応
2月 6日	わら細工	中止	中止



6月 豊かな生きものを育む水田講座 (初級)



10月 稲刈り (晩稲品種：滋賀羽二重糯) はさ掛け

(4) 体験学習

・「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動（担当：安達克紀、由良嘉基）

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」の体験では、博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」を軸として、人々の暮らしや自然をテーマに活動を行っている。その中で、参加者に人々の暮らしや身近な自然に対して興味・関心を深めてもらうことを大切にしながら、体験プログラムの開発や参加者との交流に取り組んでいる。今年度は、年間5回のプログラムを計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大の防止対策のため、3回を中止とした。実際に活動ができたのは2回であったが、参加者からは実物に触れる楽しさや貴重な体験ができたことに対して喜びの感想を多数いただいた。

回	月 日	館内の事業	参加者数
1	11月13日	植物の化石を掘り出そう！	19
2	12月11日	綿にふれてみよう！プランクトンを見よう！	16
3	1月8日	昔の地図からびわ湖を知ろう！	中止
4	2月12日	船 de アート！	中止
5	3月12日	お魚モビールを作ろう！	中止

学校連携

(1) 学校団体

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。昨年度と比較すると、県外からの学校団体による来館者数がほぼ倍増している。原因としては、本年度はコロナ禍でも県外に出ることが多くの府県で緩和されたことが考えられる。

1) 学校団体の受け入れ（担当：由良嘉基、安達克紀、植村隆司、塩谷えみ子、堀田博美）

地域	校 種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		R2年度	今年度	増減	R2年度	今年度	増減
県内	小学校	187	179	-8	12,792	11,859	-933
	中学校	14	21	7	997	1,939	942
	高等学校	6	9	3	659	846	187
	特別支援学校	12	19	7	282	240	-42
	大学など	10	7	-3	674	271	-403
	合 計	229	235	6	15,404	15,155	-249
県外	小学校	88	159	71	6,668	12,579	5,911
	中学校	32	50	18	3,322	5,727	2,405
	高等学校	9	20	11	793	1,850	1,057
	特別支援学校	5	12	7	89	292	203
	大学など	8	11	3	268	320	52
	合 計	142	252	110	11,140	20,768	9,628
総合計		371	487	116	26,544	35,923	9,379

2) 学校団体向け体験学習（担当：由良嘉基、安達克紀、植村隆司、塩谷えみ子、堀田博美）

学校団体向け体験学習は、展示室見学をより深く学ぶための手助けとなることを目的に行っている。今年度も実施人数に制限をかけ、実施した。感染拡大防止のための閉館期間や、体験学習を中止していた期間があることから、体験学習を実施することのできた学校は例年に比べ減少している。

校 種	主 な 活 動 内 容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物、昔の暮らし、博物館の展示についてなど）、化石のレプリカづくり、ヨシ笛づくり、シジミストラップ作り、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、昔くらし体験（脱穀、石臼、手押しポンプ）、フローティングスクール連携、質問対応
中学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖条例ができるまで、琵琶湖総合開発、博物館の展示についてなど）、プランクトン採集と観察、ヨシ笛づくり、外来魚の解剖、化石のレプリカづくり、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖と環境、博物館の展示についてなど）、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、課題研究、質問対応
特別支援学校	化石のレプリカづくり、よし笛づくり、シジミストラップづくり

■体験学習実施数

校 種	県 内		県 外		合 計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	34	2,349	11	780	45	3,129
中学校	5	746	1	129	6	875
高等学校	1	80	1	27	2	107
特別支援学校	0	0	0	0	0	0
大学など	0	0	0	0	0	0
合 計	40	3,175	13	936	53	4,111

■体験学習のようす



3) ミュージアムスクールの運営（担当：由良嘉基、安達克紀）

2021年度は立命館守山中学校を受け入れた。

立命館守山中学校「琵琶湖学習」の取り組み

1年生200名が参加し、展示見学と講義を通して、琵琶湖や滋賀のことについて学習を深めた。

個人でテーマを設定、課題研究のための班を編成し、調査を1年間を通して行った。

- ① 2021年7月13日(火) 於：琵琶湖博物館
 - ・10:10～10:50 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」(由良)：ホール
- ② 2022年3月15日(火) 学習発表会 (於：立命館守山中学校メディアホール)
 - ・琵琶湖博物館やフィールドで調べたことを発表
 - ・講評(由良)

4) 自然調査ゼミナール(担当：由良嘉基、安達克紀) ※2021年度は新型コロナのため中止

この活動は、毎年夏休みに滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、滋賀県内の中学生に対し、自然調査の手法を身につける機会の提供をしている。自然環境とじっくり向き合い、身に付けた自然調査の手法を自らの得意分野やフィールドで活かすことができる滋賀の子どもを育てることを目指し、1977年より開催されている自然観察研修会である。1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきた。主催：琵琶湖博物館、共催：滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援：滋賀県教育委員会で行っている。

(2) 教育指導者等研修(担当：由良嘉基、安達克紀)

1) 教職員研修

本年度は新しい研修として、初めて5年生を担当する教員で学習船「うみのこ」に乗船する教員を対象に研修を行った。また、県内小学校の初任者の教員や将来教員を目指す人材に対して、滋賀県教育委員会や県総合教育センターなどと連携した研修を行った。博物館を有効に活用するための知識や技術を身につけることを目的として実施している。

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
4月28日	水	FS連携 FS所員研修会	7	滋賀県フローティングスクール
6月11日	金	FS連携 教員研修会	12	滋賀県フローティングスクール
8月6日	金	FS連携 教員研修会	40	滋賀県フローティングスクール
11月9日	火	初任者研修	45	滋賀県総合教育センター
11月11日	木	初任者研修	45	滋賀県総合教育センター
11月16日	木	初任者研修	42	滋賀県総合教育センター
11月18日	火	初任者研修	44	滋賀県総合教育センター
3月19日	土	滋賀の教師塾	112	滋賀県教育委員会

■教員研修の様子(初任者研修)



(FS研修)



企業連携

今後の博物館の運営を継続させていくためには、企業との連携は欠かせないものの1つである。博物館は企業が行う研修や社会貢献活動を通じて、参加者に博物館の理念である湖・自然と人間のよりよい関係を考える機会を提供し、また学術的な観点から正しい認識を伝えていく必要がある。また、外部資金を獲得する方法のひとつと位置づけ、これまで企業連携の強化を図ってきたが、2020年度以降、新型コロナウイルスの影響により制約の多い中で非常に限定的な連携となった。2021年度は、次のような連携事業を展開した。

月 日	企業・団体名	連携内容
5月30日	大津ロータリークラブ	館内見学
12月23日	びわ湖パナソニックファミリー会 (県内Panasonicグループ)	企業研修(博物館概要説明、館内見学)

研修・実習

(1) 国際交流

1) 海外からの視察・研修

2021年度は、新型コロナの影響で視察や研修はごくわずかだった。

月	日	視察者	依頼者	人数	対応者
6	11	タイ総領事	県国際課	2	芳賀
12	16	インド総領事	県国際課	2	芳賀
12	17	JICA 地域理解プログラム	ILEC	30	芳賀
1	26	JICA-KCCP 研修(オンライン)	ILEC	21	鈴木・芳賀

(2) 視察対応(国内)

月	日	視察者	人数	対応者
10	14	海南省教育委員会	4	芳賀・鈴木
11	5	環境省	3	芳賀
12	22	鳥取県立博物館	2	高橋
1	6	琵琶湖環境部新任研修	30	鈴木・加藤・里口・芳賀
1	20	地球・生命の星博物館	2	山川・亀田
1	25	熊本博物館ネットワーク	3	榊永
1	29	ラムサールびわっ子大使学習会	17	亀田・芳賀
2	2	大津市ボランティアガイド研修	15	鈴木
2	8	守山市市民会議	5	芳賀
3	17	宮内庁三の丸尚蔵館	4	金尾・芳賀

(3) 博物館実習

・期間：8月23日(月)～8月27日(金)までの5日間

大学生が学芸員の資格を取得するための実習を開催した。国内11大学、14名を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それに基づく資料整備、広報、展示などの活動について、講義および実習を行った。2021年度は、新型コロナウイルス感染症の動向が悪化していたことから、上記の期間の全日で、ZOOMを用いたオンライン実習として実施した。

・実習日程と内容

月日	内容 (午前)	内容 (午後)
8月23日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・開講式 ・実習ガイダンス ・実習生自己紹介 ・講義「琵琶湖博物館の研究活動」 ・講義「琵琶湖博物館の事業活動」 ・施設紹介 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「博物館のWEB利用・おうちミュージアム」について ・施設紹介 2
8月24日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「展示交流とは何か」 ・実習 宿題の展示パネルの発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 オンラインで討議しながら展示パネルの修正 ・実習 修正した展示パネルの発表
8月25日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「博物館のコレクション」 ・講義「IPM について」 ・実習Ⅲ 博物館資料について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 博物館資料について考える (午前の続き) ・発表会
8月26日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「琵琶湖博物館のユニバーサルデザインについて」 ・実習 博物館 web サイトのユニバーサルデザインチェック 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「琵琶湖博物館の広報 PR 活動について」 ・講義「博物館広報：学芸員として、公務員としての悩ましさ」 ・実習 カレンダーポスターの制作について ・カレンダーポスターの発表と意見聴取、講評 ・講義「展示の企画・制作・実施について」
8月27日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「交流事業について」 ・講義・実習「学校連携について (体験学習)」 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・実習「利用者への交流対応のありかた」 ・最終レポート執筆 ・閉講式

・実習生の大学と人数：11 大学・14 名 (内訳)

所 属	人 数	所 属	人 数
大阪芸術大学	1	大谷大学	1
岐阜女子大学	1	京都芸術大学	1
京都先端科学大学	1	京都橘大学	1
京都府立大学	2	高知大学	1
滋賀県立大学	2	同志社女子大学	1
龍谷大学	2		1
		合 計	14

(4) その他共催事業

月	日	イベント名	主催者	人数	対応者
10	9	子どもロケット教室	くさつ未来プロジェクト	20	芳賀
10	27	子どもロケット教室	くさつ未来プロジェクト	20	芳賀
12	5	トヨタソーシャルフェス (オンライン)	ネットトヨタびわこ株式会社	100	芳賀
11	20	ラムサールびわっ子大使学習会	淡海環境保全財団	8	亀田・大久保
1	29	ラムサールびわっ子大使世代間交流会	淡海環境保全財団	17	亀田・芳賀

5 対話と応援ができる博物館

利用者主体の事業

(1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、滋賀県内の自然とくらし・文化について、地域の方々に身の回りの調査をしていただき、得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす「地域学芸員」のような制度である。博物館に登録票を提出すれば誰でも参加できる。任期は1年で、更新すれば何年でも引き続き行うことができる。2021年度の登録者数は184名（2020年度登録更新者175名）であった。

フィールドレポーターの主な活動は、月2回（原則第1・3土曜日）の定例会の開催、アンケート型調査の企画・実施とその結果をまとめた報告書「フィールドレポーターだより」の編集・印刷・発行、館内の展示および更新、自由交流型調査のまとめと掲示板発行、館内外で開催される交流会・イベントなどの実施・参加である。これらの活動は、フィールドレポーターの有志からなる「フィールドレポータースタッフ」によって支えられている。2021年度の活動は前年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大による影響、また臨時休館により、活動の大幅な減少を余儀なくされたが、臨時休館中はメールを使用した情報共有を行い、4月より毎月第1・3土曜日（原則）のフィールドレポータースタッフ定例会等の会合・行事を計18回開催した。

2021年度の調査として、昨年度からの継続として5月まで「えっ!?こんなところにもヌートリア」調査を実施した。また第2回調査としてヒガンバナの調査を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大による影響に伴い、延期となった。調査票の作成や報告書執筆に関しては、ヌートリア調査はフィールドレポーター担当学芸員の金尾と同スタッフの中野敬二氏が中心になって行った。なお、ヌートリア調査では、従来の調査票を郵送する方式に加えて、オンラインでの回答フォームを準備し、インターネットを通じた回答が可能となったほか、それらの報告状況をリアルタイムで可視化できるよう博物館ホームページのフィールドレポーター紹介ページで報告のあった分布図を公開した。

自由な内容で身近な情報を随時報告する「自由交流型調査」については、「フィールドレポーター掲示板」計1号（通巻100号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。フィールドレポーター掲示板の編集長は、フィールドレポータースタッフの中野敬二氏が務めた。

フィールドでの観察会や調査会としては、2008年から継続している「アキアカネふるさと探し」調査を計画した。このうち、びわこバレイ蓬莱山頂付近でのアキアカネのマーキング調査については、新型コロナウイルス感染症対策の影響により中止となった。また、リフト運賃の高騰などにより、今後も実施を見送る予定である。また、同様に大人数での行動を避けるため、大津市伊香立での調査（10月16日）においても、フィールドレポータースタッフのみでの調査とした。

このほか、一昨年度実施した「近江の食」調査の一部が第29回企画展示「滋賀の食事」において、その結果を含めたパネルを紹介したほか、情報誌「びわはく」6号にも同様の内容を紹介した。また、ヌートリア調査のまとめとして、2022年3月6日に開催された「地域自然史と保全研究大会2022（オンライン大会）」において、担当学芸員の金尾が「琵琶湖博物館フィールドレポーター調査で明らかになった滋賀県ヌートリアの分布」と題した口頭発表を行い、フィールドレポーター調査による成果を紹介した。

回	月	日	出席者数	内容	
1	4	3	6	定例会	フィールドレポーターだより 54号発行
2	4	17	9	定例会	ヌートリア調査現状報告確認、新年度調査テーマの検討
3	5	1	中止	調査	ヌートリア現地調査<雨天中止>
4	5	15	7	調査	ヌートリア現地調査

回	月	日	出席者数	内容	
5	6	5	5	定例会	ヌートリア調査まとめ、近江の食調査まとめ進捗報告
6	6	19	中止	定例会	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
7	7	3	6	定例会	第29回企画展示「滋賀の食事」見学
8	8		中止	定例会	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
9	9		中止	定例会	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
10	10	2	5	定例会	アキアカネ調査準備
11	10	16	7	調査	アキアカネ調査
12	11	6	6	定例会	アキアカネ調査報告、掲示板100号についての議論
13	11	20	6	定例会	フィールドレポート活動方法、オンライン情報交換の検討
14	12	4	6	定例会	掲示板100号の内容確認、SNSを活用した情報交換の検討
15	12	18	6	定例会	掲示板100号内容確認
16	1	8	6	定例会	ビジネスチャットツールを活用した情報交換の検討
17	1	22	中止	定例会	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
18	2		中止	定例会	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
19	3	6	1	研究発表	地域自然史と保全研究大会2022において口頭発表
20	3		中止	定例会	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
21	3	31	1	定例会	掲示板100号出版

(2) はしかけ制度

「はしかけ制度」は、琵琶湖博物館の理念に共感し、博物館活動をともに創っていかうとする利用者のための登録制度として、2000年8月に発足した。「はしかけ」という名称は、様々な活動を通して博物館と地域との橋渡し役となってもらいたいことを希望してつけられた。この制度に登録すると、博物館の様々な事業・研究にかかわることができ、さらに新しい活動を提案して自ら展開することも可能である。活動に参加するためには、最初に琵琶湖博物館の理念とはしかけ制度の概要を理解するための登録講座を受講し、加えてボランティア保険に加入する必要がある。また、活動は原則としてグループで行うこととしている。登録更新票の提出とボランティア保険への加入により、1年毎に何回でも更新できる。

2021年度は登録講座をオンラインで3回実施した。それぞれの開講期間は5月16日(日)～5月23日(日)、9月26日(日)～10月3日(日)、3月6日(日)～3月20日(日)で、受講生にはこの期間のうち任意の時間に受講いただいた。5月開催後には17名、9月開催後には14名の新規登録者があり、2021年度末の会員数は393人となった。なお、3月開催分の新規登録者16名は2022年度より会員となる。

はしかけの各グループは、それぞれのテーマをもって多岐にわたる活動を行い、琵琶湖博物館の理念実現への推進力となっている。2021度は25のグループが活動を展開した。

各グループの活動

うおの会

会長：中尾博行

担当学芸員：田畑諒一

会員数：72名

[設立の趣旨] 「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来に残そう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標のもと、魚採りが大好きな人々が集まって結成されたうおの会。2000年の発足以来、琵琶湖博物館を活動拠点として、「魚つかみ」を楽しみながら、身近な環境に棲息している魚たちの情報を、21世紀初頭の姿として記録に残すことを目指している。

[活動の概要] 4月から12月に月一回、定例調査を琵琶湖流域の各地で開催し、その他に臨時的な活動や観察会支援を実施している。また各会員は日常的に調査活動を実施し、うおの会のデータとして記録を残

している。活動計画の立案や他団体への協力、調査活動の運営、活動上の諸課題の解決等は、12名の運営委員が中心となって行っている。

2021年度は、5回の活動が新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。また車での乗り合いを避けるため、これまでの調査運営方式を見直し、1ないし数地点を徒歩で移動しながら、1～2班程度で調査することとした。このため広範囲を車で移動して実施する調査と比較して、調査できる地点数は減少した。一方で、その地点に生息する魚種をほぼ漏らすことなく採集できたと考えている。限られた活動の中で、2021年度は全40地点での採集データを残すことができた。冬季は勉強会を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止となった。

その他、各種団体による自然観察会、環境学習等への協力として、今年度は水資源機構琵琶湖開発総合管理所による「お魚里帰り大作戦」と、草津市の自治会での観察会にて、参加者へ魚や生息環境についての解説を行った。

「うおの会」のおもな活動

- ・定例調査などの活動一覧（のべ参加人数117名・15地点分のデータ）

活動日	内 容	参加者数
4月18日	第157回定例調査 野洲川	中止
5月16日	第158回定例調査 野洲川親水公園周辺（湖南市）	13名
6月20日	第159回定例調査 日野川（東近江市）	14名
7月18日	第160回定例調査 塩津大川、琵琶湖岸（長浜市）	18名
8月	瀬田川釣り調査	中止
9月	第161回定例調査	中止
10月17日	第162回定例調査 野洲川（甲賀市）	18名
11月21日	第163回定例調査 大同川（東近江市）	18名
12月19日	第164回定例調査 和邇川（大津市）	13名
1月22日	勉強会	中止
2月20日	勉強会	中止
3月27日	総会 場所：琵琶湖博物館ホール	23名

※上記以外に運営会議を2回開催

※上記以外に、個人調査により25地点分のデータを収集

- ・各種行事・団体への参加・協力一覧

活動日	内 容	参加者数
10月31日	水資源機構琵琶湖開発総合管理所「お魚里帰り大作戦」にて観察会講師	1名
11月7日	草津市不動浜自治会「ふるさと環境を守る会」にて観察会講師、講演	1名

○近江 巡礼の歴史勉強会

世話役：福野憲二、吉井 隆、関谷和久、長 昭男 担当学芸員：橋本道範 会員数4名

[設立の趣旨] 近江の巡礼について、歴史的背景や現状確認を視野に入れ調査を行い、宗教、郷土史、教育文化、行政など各種専門分野の人々と勉強会、見学会などを行うことを目的として「近江 巡礼の歴史勉強会」を設立した。“近江の祈り”をテーマに、甲賀市で発見された福野家文書「甲賀准四国設置由来」と「朱印帳」をもとに写し四国八十八ヶ所(注)の調査活動を行う。

(注)甲賀准四国八十八ヶ所は、滋賀県の四国巡礼として明治45年に設立された唯一の「写し四国八十八ヶ所」である。真言宗の寺院だけでなく宗派を超えた組織を構成していることは特筆すべきことであるが、現在は残念ながら霊場巡礼の慣習が薄れ、その存在も忘れられかけている。しかし、今も多く寺院には設立当時の掛額や弘法大師像、札所の石碑などが残されており、その現状を調査し記録することに意義があると考えられる。

[活動の概要]

- ・「甲賀准四国設置由来」に基づき8名の発起人の現在を訪ね甲賀准四国に関する資料等の発掘を行い設立の経緯と巡礼の拡がりを調べる。
- ・札所の寺院を訪問し住職と面談することで、甲賀准四国の現在の状態を把握し、あわせて新たな資料を発掘する。
- ・朱印帳などを手掛かりに拡がり具合を調査し人々を巡礼に駆り立てる要因を探る。
- ・西国三十三所や近江西国三十三所の観音信仰との関連について調査し巡礼の実態を探る。
- ・専門分野だけでなく広く一般に活動の展開を図る。

[2021年度活動結果報告] 活動会員数(のべ)16名、一般参加者数(のべ)81名

- ・甲賀准四国対象寺院の住職との面談と調査は1寺院で実施できたが、重複のため寺院数の増加はない。対象寺院98ヶ寺のうち、調査可能な寺院数は兼帯の寺院も合わせて92ヶ寺、廃寺・老朽化で調査不可能な寺院数は6ヶ寺である。その中で2021年3月までに住職との面談が実施できた寺院数は26ヶ寺(進捗率30.2%)である。
- ・NHK BSプレミアムの番組「吉田類のにつぼん百低山」にメンバーが出演、撮影協力をした。

修験の聖地飯道山、飯道神社、山伏の修行場、織田信長が国見をしたと伝わる岩場、廃飯道寺の石垣のある坊跡、催事に使われたと思われる石組みの残るため池なども紹介された。飯道山行者講所属の当会メンバーが山伏姿で出演、飯道山を案内し解説した。放送後の反響も大きく、飯道山の歴史と自然を世界の人々に知ってもらおうきっかけになった。

- ・甲賀市の今郷棚田が農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に選定された。

当会メンバーが取り組んでいる今郷棚田が令和3年2月に「指定棚田地域」として国指定を受け、4月には「指定棚田地域振興活動計画」が認定された。この活動を推進する今郷棚田集落協定(構成員37名)は、令和3年11月に新棚田百選として募集があった農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に甲賀市長と滋賀県知事の推薦を受けて申請した。令和4年2月に全国で271地域が選ばれ、滋賀県では今郷棚田とともに高島市の畑の棚田や大津市の上仰木棚田などの7地域が選定された。

つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～は、棚田地域の振興に関する取り組みを積極的に評価し、棚田地域の活性化や多面的機能に対する理解と協力を得ることを目的としている。今郷棚田は「今郷棚田の自然を学び豊かな自然を守ろう!」をテーマに、取り組む内容として、県内の博物館等との連携による生態系保全活動で、自然の素晴らしさを学び大切にすることを育むとともに、集落ぐるみによる棚田保全による仕組みを構築するとした。

農業にとって水は最も重要なものの一つであり、その状況で収穫が左右される。古来から水神は田の神と結びついて五穀豊穡の神として祀られてきた。水源地には水分神が祀られ、山の神とも結びつくとされている。

この度の「つなぐ棚田遺産」の認定(3月25日予定)を契機に農耕民族の祈りとして、水分信仰にかかわる、田の神、山の神、「みこもり」、子授け、安産の神に関しても勉強を進めたい。

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で当初計画の下記5項目が実施できなかった。
 1. 甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示を実施して調査結果を発表する。
 2. 地元の歴史講座や講演活動、県職員の近江地元学研修で成果を報告する。
 3. 甲賀准四国の関係者や巡礼の専門家との第二回目勉強会を開催する。
 4. 年度末に近江 巡礼の歴史勉強会の報告会を開催する。
 5. 活動5年目のまとめとして中間報告書を作成する。

「近江 巡礼の歴史勉強会」のおもな活動

活動日	内容	場所
11月17日	近江八幡市沖島厳島神社の弁財天	近江八幡市
12月12日	NHKBS プレミアムの番組の取材で飯道山を案内	甲賀市水口町
1月15日	甲賀町隠岐の石仏調査	甲賀市甲賀町
1月16日	庚申山広徳寺の柴燈護摩供養	甲賀市水口町
2月15日	今郷棚田が農水省のつなぐ棚田遺産に選定される	東京都
3月2日	NHKBS プレミアム「吉田類のにつぼん百低山」放送	東京都
3月6日	琵琶湖博物館情報誌「びわはく」Vol.6に寄稿	甲賀市水口町

※「近江 巡礼の歴史勉強会」活動の参加人数について

年度	活動日数	活動会員数	一般参加者数	合計
発足前	25	51	0	51
2017年	37	76	82	158
2018年	21	42	*627	669
2019年	19	44	*543	587
2020年	3	12	95	107
2021年	7	16	81	97
合計	112	241	1428	1669

*甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示実施して調査結果を発表した。岩上自治振興会の歴史講座や研修を実施した。(2018年・2019年)

○淡海スケッチの会

代表：金山正之

担当学芸員：榊永一宏

会員数：9名

[設立趣旨] 「外へ誘う博物館」を実践し、滋賀県内の各所へ赴き、絵画等により風景やものを観察、写生することで記録を残すことを目的とする。

[活動概要] 月1回（基本的に第3日曜日）、滋賀県内各地でスケッチ会等を開催。また、気候が厳しい真夏や真冬、雨天時は琵琶湖博物館内でスケッチを行う。2015年秋に設立。風景に限らず植物や、博物館内の剥製、水族展示室の魚などをスケッチし、専門家の話を伺う機会も設けている。

「淡海スケッチの会」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者数
4月18日	写生会	新型コロナウイルス感染症対策のため中止	3名
5月16日	写生会	新型コロナウイルス感染症対策のため中止	5名
6月20日	写生会	琵琶湖博物館（雨天のため）	5名
7月18日	写生会	琵琶湖博物館	4名
8月15日	中止	琵琶湖博物館	中止
9月19日	中止	琵琶湖博物館	中止
10月17日	写生会	御猟野牧場（近江八幡市）	3名
11月21日	中止	琵琶湖博物館	中止
12月19日	ミーティング	琵琶湖博物館	3名
1月16日	写生会	琵琶湖博物館	3名
2月20日	写生会	琵琶湖博物館	3名
3月20日	写生会	琵琶湖博物館	4名

○近江はたおり探検隊

運営：辻川智代

担当学芸員：橋本道範

[設立の趣旨] 2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4/10	織姫の会	生活実験工房	2名
4/28	織姫の会	生活実験工房	3名
5/12	織姫の会	生活実験工房	4名
5/29	織姫の会	生活実験工房	6名
6/9	織姫の会	生活実験工房	4名
6/26	織姫の会	生活実験工房	4名
7/17	織姫の会	生活実験工房	3名
7/28	織姫の会	生活実験工房	4名
9/4	織姫の会	生活実験工房	中止
9/29	織姫の会	生活実験工房	中止
10/9	織姫の会	生活実験工房	2名
10/27	織姫の会	生活実験工房	5名
11/10	織姫の会	生活実験工房	6名
11/27	織姫の会	生活実験工房	3名
12/11	織姫の会 (わく探と共催「綿に触れてみよう」)	生活実験工房	6名 体験者16名
12/22	織姫の会	生活実験工房	5名
1/8	織姫の会	生活実験工房	6名
1/26	織姫の会	生活実験工房	6名
2/9	織姫の会	生活実験工房	3名
2/26	織姫の会	生活実験工房	8名
3/9	織姫の会	生活実験工房	5名
3/26	織姫の会	生活実験工房	2名

○大津の岩石調査隊

代表者：梅澤正夫(2022年1月まで) 中村みどり(2022年2月より)

担当学芸員：里口保文

顧問：中野聡志(特別研究員) 会員数：17名

[設立の趣旨] 市街地から近い音羽山の地域を中心に歩いて、ハイキングするような心持ちで、地域の岩石など地質の勉強をしながら調査を行なっていきたい。

[活動の概要] 今年度は、新型感染症のため通常の活動がいつもより少なかったが、感染対策を行いながら、野外調査や室内での勉強会を進めた。今年度の野外調査は、興味がある地域を隊員が持ち寄って、各地域の調査をその隊員が担当者となって調査を実施した。また、勉強会は地学の基礎知識を得るために、高校の教科書を使った勉強会や、講師の方に来ていただいて講習会も実施した。また、継続的に調査を続けている地点について、学会誌へ投稿する準備をした。

「大津の岩石調査隊はしかけ」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者数
4月25日(日)	逢坂山周辺における付加体の調査	大津市	9名
5月23日(日)	織山の溶結凝灰岩の調査	東近江市	10名
6月20日(日)	盛越川での花崗斑岩とフェルサイトの併存脈、三田川での巨大石英ブロックの調査	大津市	4名
7月25日(日)	地学勉強会(第5回)地学の専門語について	琵琶湖博物館	7名
10月24日(日)	盛越川、相模川の源流域調査	大津市	1名
12月11日(土)	講師の方に来ていただいて講習会 滋賀県の鉱山跡地について	琵琶湖博物館	8名
2月26日(土)	新年度活動計画についての会議と、烏丸半島の岩石調べ	琵琶湖博物館	5名

○温故写新

連絡係：谷口雅之 担当学芸員：金尾滋史 会員数：21名

[設立の趣旨] 写真とカメラを愛し、撮影を楽しむ人たちのはしかけグループ。主に滋賀県内における感動的な美しい生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様を記録に残し、写真を通じて博物館活動に貢献することを主旨とする。

[活動の概要] 2021年度は大橋コレクションの撮影地や、滋賀の街道沿いの現在の風景を残すための撮影会を多く企画したが、雨天や新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、多くの活動が中止となってしまった。撮影会が実施できた回数は3回であったが、それぞれの撮影会では、現在の風景記録のみならず、大橋コレクションとの比較写真となる撮影もできた。また、各個人の撮影した写真について、現像・レタッチを行うための講習会なども行った。このような撮影会で撮影した写真や各メンバーが撮影したもののうち利用可能な写真については、今後博物館の展示や様々な場面で利活用できるよう写真整備を行っている。また、2020年度まで継続的に行ってきた大橋宇三郎コレクションの利活用に向けた整理作業が完了し、2021年8月に映像資料としての寄贈が行われた。このような活動の一環が館の映像資料整理に貢献できたことは大きな成果となった。

「温故写新」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者数
4月24日(土)	おでかけ撮影会	木之本	9名
5月16日(日)	おでかけ撮影会(雨天中止)	彦根	中止
6月13日(日)	おでかけ撮影会(雨天中止)	石部・甲西	中止
7月11日(日)	おでかけ撮影会(雨天中止)	醒ヶ井・柏原	中止
7月17日(土)	企画展示「滋賀の食事」オープニングセレモニー撮影	博物館アトリウム	2名
8月8日(日)	おでかけ撮影会 (新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)	醒ヶ井・柏原	中止
8月24日(火)	大橋コレクション寄贈感謝状贈呈式	県庁	2名
9月12日(日)	おでかけ撮影会 (新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)	彦根	中止
10月17日(日)	おでかけ撮影会 (新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)	醒ヶ井・柏原	中止
11月13日(土)	おでかけ撮影会	鳥居本・愛知川	8名
12月5日(土)	おでかけ撮影会	坂本	9名
1月9日(日)	写真の補正・レタッチ講習会	博物館実習室2	8名

活動日	内 容	場 所	参加者数
2月 13日(日)	おでかけ撮影会 (新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)	石部	中止
3月 13日(日)	総会 (新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)	博物館交流室 2	中止

○暮らしをつづる会

代表：中尾京子 担当学芸員：大久保実香 会員数：1名

[設立の趣旨] 地域の生活のあり方を考えながら地域の生活話を記録に残し、伝えていくことを目指している。

[活動の概要] 2021年度は活動休止

○古琵琶湖発掘調査隊

会長：堀田博美 事務局長：安原 輝 担当学芸員：山川千代美 会員数：33名

[設立の趣旨] 多賀町四手で計画された180～190万年前の古琵琶湖層群調査(多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト)において、市民参加の方々を指導し、自らも研究できるような人材になることを活動の目的としている。

[活動の概要] 本年度においては、昨年度実施されなかった「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第八次発掘調査」に参加することができた。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、当初予定されていた発掘調査期間の途中で中止となってしまったが、発掘調査の際には、発掘調査が円滑に進むよう、組分けされた組のまとめ役や、休憩時間を指示する役などの役割も果たした。

10月には、第八次発掘調査で採取された咽頭歯化石のクリーニング作業を行い、その際、植物化石の観察も行った。

昨年度より継続して取り組んでいる粒度表の作成については、新型コロナウイルスの影響や、雨天による川の水位の上昇などにより、なかなか粒度表用の土の採集に行くことができなかった。11月ようやく土を採集することができ、その後は、各粒度にふるい分けするための土の下準備や、土の採集の際に合わせて行った地層や化石林の観察の報告もメンバー間で行い情報共有した。メンバー同士でアイデアを出し合い、試行錯誤しながら粒度表の試作品を作成することができた。今後は、より改良を加えた粒度表を作成し、古琵琶湖層群の地層観察に役立てたいと考えている。

また、多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業も引き続き行った。

勉強会においては、4月に「ワニの眼で見た古琵琶湖層群と大阪層群」についての勉強会を行った。はしかけグループの「ほねほねくらぶ」との合同勉強会も予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、残念ながら延期せざるを得なかった。

その他、イベント『【わくわく探検隊】植物の化石を掘り出そう!』では、参加者が約260万年前の泥岩から植物の化石を掘り出す作業の手伝いをしたり、1993年に多賀町の約180万年前の古琵琶湖層群の地層から発見された「アケボノゾウ化石多賀標本」が、2021年に国天然記念物指定答申された際のお祝いのセレモニーに、代表者が出席するなど、本年度も多彩な活動を行うことができた。

【定例活動】

- ・「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第八次発掘調査」への参加

日時：4月24日(土)・4月25日(日) 9:00～16:30 場所：滋賀県犬上郡多賀町四手

参加者(のべ)：15名

【フィールド活動】

- ・粒度表作成のための土の採集〔延期〕

5月中旬～下旬に野洲川（滋賀県湖南市）にて活動予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、活動を延期。

- ・粒度表作成のための土の採集〔延期〕

6月27日（日）10：00より、野洲川（滋賀県湖南市）にて活動予定だったが、前日までの雨で川の水位が上昇していた為、活動を延期。

- ・粒度表作成のための土の採集と化石林の観察

日時：11月14日（日）10：00～12：30 場所：野洲川（滋賀県湖南市） 参加者：8名

【屋内活動】（場所：琵琶湖博物館）

- ・多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

①日時：7月8日（木）13：00～15：30 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：2名

②日時：7月17日（土）13：00～15：30 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：3名

※日時：8月9日（月）13：00～15：30〔延期〕場所：琵琶湖博物館 実習室1

滋賀県が新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置の対象地域となった為、活動を延期。

- ・「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第八次発掘調査」で採取された咽頭歯化石のクリーニング及び植物化石の観察

日時：10月17日（日）13：00～15：30 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：5名

- ・イベント『【わくわく探検隊】植物の化石を掘り出そう！』のお手伝い

日時：11月13日（土）13：00～15：00 場所：琵琶湖博物館 実習室2・屋外展示 太古の森 周辺
参加者：4名

- ・粒度表作成のための土の下準備と、11月14日の活動での地層及び化石林の観察・調査の報告

日時：12月5日（日）13：00～15：30 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：6名

- ・粒度表の作成

日時：1月30日（日）13：00～16：30 場所：琵琶湖博物館 実習室2 参加者：5名

【勉強会】（場所：琵琶湖博物館）

- ・「ワニの眼で見た古琵琶湖層群と大阪層群」

日時：4月11日（日）13：00～15：00

場所：琵琶湖博物館 実習室1

参加者：10名

- ・はしかけ「ほねほねくらぶ」との合同勉強会〔延期〕

8月21日（土）13：00～15：30に琵琶湖博物館 実習室2で活動予定だったが、滋賀県が新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置の対象地域となった為、活動を延期。

【その他】

- ・「アケボノゾウ化石多賀標本」国天然記念物指定答申セレモニーへの出席

日時：12月18日（日）10：00～ 場所：多賀町立博物館 出席者：1名

- ・はしかけ登録講座での活動紹介（計3回。いずれもオンラインでの開催。）

○ザ！ディスカバはしかけ

担当：田畑諒一、大槻達郎 会員数：5名

[設立の趣旨] 子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

[活動の概要] 2005年度にイラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修など個人から始まった活動。大人と子どもと一緒に楽しむイベント作りを目指している。

「ザ！ディスカバはしかけ」のおもな活動

実施日	タイトル	内容
11月23日(火・祝) 13:00～/14:30～	森の宝物をさがそう！	ディスカバリールームのイベントに参加し、運営補助をした。久しぶりの博物館イベントで、夢中になって森のたからものを探す子どもたちが輝いてみえた。 参加者38名、はしかけ1名

○里山の会

担当学芸員：美濃部諭子

会員数：52名

[設立の趣旨] 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して、一般市民への里山理解を深める活動や現代における里山利用を実践している。

[活動の概要] 里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として開催している。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。このような雑木林と周辺の自然環境の中で、春の散策、夏の昆虫・生物観察、秋の散策、冬の焚き火など四季いろいろの里山の恵みや利用を通して里山の価値を感じている。このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動地域での認知度も高まっている。

2021年度はコロナ禍によりほとんどの活動が中止となったが、里山体験教室は全4回のうち3回実施することができた。

「里山の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月17日	里山体験教室(春)下見	野洲市大篠原はしかけの森	15名
4月25日	里山体験教室(春)本番「里山の春を探そう」	野洲市大篠原はしかけの森	46名
6月11日	潮干狩り	三重県御殿場浜	中止
7月3日	里山体験教室(夏)下見	野洲市大篠原はしかけの森	18名
7月11日	里山体験教室(夏)本番「里山の夏を探そう」	野洲市大篠原はしかけの森	42名
8月21日	そうめん流し	琵琶湖博物館	中止
9月11日	ハンモック虫干し・道具整備	琵琶湖博物館	12/5に延期
10月2日	里山体験教室(秋)下見	野洲市大篠原はしかけの森	13名
10月10日	里山体験教室(秋)本番「里山の秋を楽しもう」	野洲市大篠原はしかけの森	34名
10月23・24日	びわ博フェス	琵琶湖博物館	中止
11月6日	ハチの巣箱づくり	琵琶湖博物館	中止
12月5日	ハンモック虫干し・道具整備	琵琶湖博物館	10名
12月26日	凧作り凧上げ・昔遊び	琵琶湖博物館	18名
1月15日	里山体験教室(冬)下見	野洲市大篠原はしかけの森	9名
1月23日	里山体験教室(冬)本番「里山の冬遊び」	野洲市大篠原はしかけの森	中止
2月13日	味噌づくり	琵琶湖博物館	中止
2月20日	蠟燭づくり	琵琶湖博物館	中止
3月12日	総会・キノコ菌打ちなど	琵琶湖博物館	14名

○植物観察の会

代表者：辻いずみ

担当学芸員：芦谷美奈子

会員数：23名

[設立の趣旨] 2004年に開催した企画展示「～植物がうごくとき～のびる・ひらく・ひろがる」の準備期間中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。長年にわたり年に数回の外部観察会のみを行ってきたが、「はしかけ」本来の自主的活動とするため、2017年からメンバー登録し、月に1度「定例会」、年に数回「お出かけ観察会」を行う形とした。

[活動の概要] 2017年4月から登録制とし、月に1回定例会を行った。

定例会では、博物館の周りの観察、持ち寄ったものの観察、外部へのお出かけ観察、芦谷先生に水草について教えて頂くなど、季節や天候によって変えながら行った。はしかけ全体へ呼びかける「お出かけ観察会」は、新型コロナにより「密」を避けるため、2020年度からしばらく行わないこととした。

外部へのお出かけ観察も登録メンバーのみで行い、新型コロナ感染予防のため、2020年3月から臨時休館や外出自粛の関係で会としての活動を減らし、2021年度も室内での活動を自粛し、県内外の感染者数の増減を鑑み、活動そのものを中止した。

「植物観察の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月4日(日)	雨天中止		—
5月9日(日)	新型コロナ感染予防のため中止		中止
6月6日(日)	新型コロナ感染予防のため中止		中止
7月4日(日)	新型コロナ感染予防のため中止		中止
8月	猛暑のため お休み		—
9月11日(土)	新型コロナ感染予防のため中止(水草観察)	長浜市豊公園の湖岸	中止
10月3日(日)	新型コロナ感染予防のため中止		中止
11月7日(日)	博物館の周り、樹冠トレイル	琵琶湖博物館周辺 屋外のみ	11名
12月5日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室	2名
1月9日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室	4名
2月	例年 お休み		—
3月6日(日)	新型コロナ感染予防のため中止		中止

[活動の振り返り、来年度へ向けて]

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う蔓延防止策や滋賀県内外の行き来等を鑑み、長期間中止とする判断をした。
- ・活動の出来ない間、グループメールで情報交換ができたことで、植物に触れる機会となった。内容は、①「癒されてください～」という感じで、日常の植物との出会いを画像と共に配信 ②「ここへ行って来ました～」とその様子、咲いていた植物の報告 ③「教えてください～」の質問とそれへの返信等など。画像を添えての質問には、早速対応してくださる方々がいて、本当に心強かった。
- ・芦谷先生に教えていただく「水草観察(お出かけ)Ⅳ」を昨年に続き計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、やむなく中止とした。できる限りこれからも、毎年この時期に合わせて「水草観察」を芦谷先生にご指導をお願いする形にしたい。
- ・他の「はしかけ」活動を兼ねているメンバーが多く、視点を変えた新しい観察ができたことも個々で楽しめたと思う。
- ・来年度も「密」を避け、十分な感染対策を取るためにも、戸外の「お出かけ観察」を中心に行う形とした。各自の日常散歩コースなどをメンバーに紹介する戸外での「お出かけ観察」も、季節の見所の解説付きで分かりやすいので、このまま続けていきたい。

〇たんさいぼうの会

会長：津田久美子 担当学芸員：大塚泰介 会員数：26名(年度内の入退会者を含む延べ人数)

[設立の趣旨] 珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要] 2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう(単細胞)の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に提供される。今年度は、年度早々から「琵琶湖梁山泊」で珪藻研究を進めてきた新大学一回生3名を迎え、さらに年度末に珪藻を研究する大学生・院生3名を新たに会員として迎え、若手の新規参入が目立つ一年となった。前年度に引き続き、集まって活動を行うのが難しい状況が続いていたため、個人で進められる顕微鏡写真撮影や珪藻の同定などを進めるとともに、成果を論文として発表することに努めた。

会員を主著とする3本の論文(うち2本がたんさいぼうの会名義)、1本の共著論文を発表した。

Yoshida, K. and Ohtsuka, T. (2021) Diatom flora in indoor tanks breeding Japanese medaka, *Oryzias latipes*. *Diatom*, 37: 30-37. <https://doi.org/10.11464/diatom.37.30>

Mimura, T. and Ohtsuka, T. (2021) Diatoms of Fujiganaru Moor, a valley moor situated in the warm-temperate zone in Western Japan. *Diatom*, 37: 66-79. <https://doi.org/10.11464/diatom.37.66>

大塚泰介・井上晴絵・洲澤多美枝・泉野央樹・西坂一成 (2021) *Cymbella distalebiseriata-liyangensis* 種複合体の日本からの出現. *Diatom*, 37: 38-41. <https://doi.org/10.11464/diatom.37.38>

また、会員による研究発表がいくつか行われたが、筆頭発表者としての発表は全てたんさいぼうの会名義でない。共同研究者としての発表は以下のものがある。

Ohtsuka, T., Inoue, H., Suzawa, T., Izumino, H. and Nishisaka, K. (2021年11月20日) Occurrences of *Cymbella distalebiseriata-liyangensis* species complex (Bacillariophyceae, Cymbellales, Cymbellaceae) from Japan. Asian Congress of Protistology-IV, オンライン, [ポスター発表].

大塚泰介・三村武士 (2021年11月27日) 藤ヶ鳴湿原から出現した未同定珪藻の分類学的検討 I. 日本珪藻学会第41回研究集会, オンライン, [口頭発表]

この他に、かつての「たんさいぼうの旅」「たんさいぼうの小さな旅」で採集された、瀬田公園(滋賀県大津市)、愛知県の鈹質土壤湿原群、野田沼・曾根沼(滋賀県彦根市)、安曇川(滋賀県大津市・高島市)などの現生珪藻植生の研究を進めており、順次、論文として発表していく予定である。このほかに、会員の様々な個人研究も進められている。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月4日	たんさいぼうの会第66回総会	オンライン	担当：根来健 参加者：13名
6月12日	日本珪藻学会第42回大会に参加	オンライン	参加者：5名
7月16日	たんさいぼうの会第67回総会	オンライン	担当：山本真里子 参加者：14名
10月16日	たんさいぼうの会第68回総会	オンライン	担当：大塚泰介 参加者：10名
11月20日	日本珪藻学会第41回研究集会に参加	オンライン	参加者：5名
1月8日	たんさいぼうの会第69回総会	オンライン	担当：三村武士 参加者：8名
3月27日	たんさいぼうの会第70回総会	オンライン	担当：岡谷崇宏 参加者：13名

○田んぼの生きもの調査グループ

代表：山川栄樹

主担当学芸員：鈴木隆仁

会員数：10名

〔設立の趣旨〕 滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、そこに生息する大型鰻脚類などの生物の分布や生態を調査する。

〔活動の概要〕 毎年5月、6月に、滋賀県各地の水田においてホウネンエビ・カブトエビ類・カイエビ類の分布を調査し、標本を同定するとともに、採集データを登録して、分布図を作成する活動を行っている。本年度も、3次メッシュコード単位で未調査になっていた日野町と旧蒲生町の日野川流域の3地区について、大型鰻脚類の分布調査を実施した。

一方、大津市南部の月輪、大江、石山寺、赤尾町では、2013年ごろより2種のカブトエビの生息状況に関する追跡調査を継続している。2020年度までに実施した調査により、大江四・五丁目では、アジアカブトエビの比率が圧倒的になったものの、一部の水田にわずかながらアメリカカブトエビが生息していること、月輪三丁目と石山寺三・四丁目では、2種のカブトエビが共存しているが、アメリカカブトエビの比率が次第に減少していること、赤尾町では、アメリカカブトエビが優位な状態で、2種の共存状態が継続していることが明らかになった。また、石山寺三・四丁目や赤尾町では、同一の用水路の上流側にアメリカカブトエビのみが生息する水田が広がり、下流側からアジアカブトエビの生息する水田が広がりつつあるという状況が確認された。2種のカブトエビが共存する水田では、水温が低いうちに孵化したアジアカブトエビが、水温が上昇後に孵化するアメリカカブトエビの幼生を捕食してしまうために、次第にアジアカブトエビが優勢になると予想される。そこで、本年度の調査では、卵を保持する2種のカブトエビを採集し、しばらく飼育して採卵するとともに、人工環境で孵化させて2種のカブトエビの成長過程を比較し、2種が共存する地域での勢力圏の変化の要因を探ることになった。

これまでは、採集した個体を現地でアルコール固定し、後日博物館などで標本の種同定を行うという方法で調査を行っていた。今年度の調査では、採集したカブトエビ類を、生息していた水田の水とともに1個体ずつT型瓶に入れて持ち帰り、採集者の自宅ですばらく飼育し、産卵するかどうかを観察した。カブトエビ類は田んぼの土に穴を掘って産卵するが、田んぼの土を飼育容器に入れるとメタンガスの発生で酸欠になると予想されるため、細かいガラスビーズ、焼成殺菌処理した園芸用の川砂などを飼育容器の底に敷いて飼育を行った。飼育後死亡した個体はアルコール固定し、後日種の同定を行った。

採集した卵は乾燥させて保管し、11月ごろから孵化実験を行った。気温が低くなる時期であるため、石灰石で水質調整したくみおき水に浸した卵を入れた容器を熱帯魚用ヒータで23℃前後に保った大型水槽に漬け、日中はLEDライトで光をあてるという方法で実験を行った。1週間以上経過しても孵化しなかった卵は再度乾燥させ、1月、3月に同様の方法で再度孵化を試みた。

新型コロナウイルス感染症の流行が続いていたこと、また、本年度採集したサンプルの数がそれほど多くなかったことから、例年夏に実施している同定会は実施せず、山川が勤務先の顕微鏡を用いて全サンプルの同定を行った。同定結果については、8月末にZoomオンラインで実施したミーティングで会員に報告した。

10月23日に開催された琵琶湖博物館25周年記念シンポジウムの第1部「琵琶湖博物館の事例発表」で、山川が『琵琶湖博物館「はしかけ制度」を利用した田んぼのエビ類の調査研究活動について』という報告を行った。発表では、どこに何がどれくらい生息しているのか、田んぼのエビ類の分布は何（土壌、灌漑、気候、耕作方法…）によって決まっているのか、洪水などの自然現象や循環灌漑設備の整備などの人為的要因、あるいは、種同士の競合などの要因によって、分布は変化しているのかなど、田んぼの生きもの調査グループがこれまでの調査テーマとして掲げてきたことがらと、調査を通じて明らかになったことを紹介した。第3部のオンラインディスカッションにもパネリストとして参加し、学芸職員の皆さまから得るもの、発表の機会の利用など、はしかけグループとして琵琶湖博物館とどのようにつきあっている、あるいは、つきあっていきたいかについて議論を行った。

ところで、カブトエビ類やハウネンエビは、子供達にも比較的知名度は高いが、カイエビ、トゲカイエビ、ヒメカイエビ、タマカイエビになると、水田を泳いでいる状態での識別はむずかしく、その存在にも気づいていない人も少なくない。そこで、株式会社セガのアクションパズルゲーム「ぷよぷよ」のソースコードを活用したプログラミング学習教材『ぷよぷよプログラミング』を用いて、同じ種類の大型鰓脚類のブロックを消していく「ぷよカイエビ」というパズルゲームの製作を試みた。滋賀県の水田には7種類の大型鰓脚類が生息しているが、これらすべてが登場するコースのほか、アメリカカブトエビ、ハウネンエビ、カイエビ、タマカイエビの4種だけが登場する入門コース、実際の同定でも識別に苦労するカイエビ、トゲカイエビに、ヒメカイエビ、タマカイエビ、アメリカカブトエビを加えた5種が登場する中級コースを用意して、楽しみながら田んぼのエビ達を学べるゲームにしている。エビ類の画像やプログラムの構造を少しずつレベルアップして、グループの活動に何等かの形で役立てたいと考えている。

[2021年度の調査結果]

・広域調査

近江鉄道の日野駅付近、日野川右岸堤防から300m前後の9筆と1.5km程度東の6筆を調査し、合計10筆でタマカイエビ、8筆でカイエビの生息を確認した。ハウネンエビが生息していた水田も2筆あった。日野町でのタマカイエビの記録は、2002年に今回の調査地点から約4km上流にある日野川ダム近くでの確認以来2例目である。

続いて、約6km下流にあたる東近江市蒲生堂町の日野川左岸堤沿いの10筆を調査し、7筆でカイエビの生息を確認した。そのうち3筆ではハウネンエビ、1筆ではアメリカカブトエビも同時に確認された。旧蒲生町でのアメリカカブトエビの記録は2016年に約2km西側にある宮川町の法教寺川右岸の水田で確認されて以来2例目である。

さらに、佐久良川との合流点に違い東近江市宮井町の日野川左岸堤沿いの10筆でも調査を行い、8筆で大型鰓脚類の生息を確認した。そのうち、5筆でカイエビが確認され、ハウネンエビとタマカイエビが同時に生息していることが確認された水田も1筆あった。また、2筆ではトゲカイエビの生息も確認された。旧蒲生町でのトゲカイエビの記録は初めてである。

・大津市南部における2種のカブトエビ類の調査

大萱三丁目、月輪三丁目、大江四・五丁目、石山寺三・四丁目、千町四丁目、赤尾町の合計51筆の水田で、カブトエビ類の分布調査を行った。大萱三丁目、千町四丁目はアメリカカブトエビのみであったが、他の地区では2種のカブトエビの生息が確認された。月輪三丁目は開発による水田の消滅が続いており、残った水田でも肥料が大量に投入された影響か、エビ類の生息が確認できない水田も多かった。大江四・五丁目や石山寺四丁目はアジアカブトエビが優勢であり、アメリカカブトエビが確認された水田は、それぞれ1筆ずつのみであった。

大萱三丁目、月輪三丁目、千町四丁目で採集したアメリカカブトエビ計20個体と、赤尾町、月輪三丁目、大江四・五丁目で採集したアジアカブトエビ計30個体については生きたまま持ち帰ってしばらく飼育し、卵の採取を行った。粒径0.3mm程度のガラスビーズを敷いた飼育容器に入れた個体はよく産卵し、2種ともそれぞれ（きちんと数えたわけではないが）700個余りの卵を採取することができた。ただ、容器に移して2時間程度で産卵し、2日程度で死亡する個体が大半であり、環境が変わったことが刺激になって卵嚢に保持していた未成熟の卵をあわてて放出した個体も多かったと考えられる。実際、一旦乾燥後数か月たって水に浸し、23度前後に保っても、卵を孵化させることはできなかった。市販されているカブトエビ類の卵に添付されている説明書にも孵化率はそれほど高くないと記載されているが、6分の1程度は孵化してもよいはずであり、どこに問題があったか検討する必要がある。

なお、孵化しなかった卵を一旦乾燥し、再び23度前後の水に浸したところ、アメリカカブトエビ1個体のみ孵化したことが確認された。数日間生存したが、記録のために写真撮影したことが負担になったのか、大きく成長させることはできなかった。

「田んぼのいきもの調査グループのおもな活動」

活動日	内 容	場 所	参加者
5月4・6日	蒲生郡日野町、東近江市(旧蒲生町)の日野川流域を下見し、調査筆の確定作業を行った	蒲生郡日野町 東近江市	1名
5月 3・8・11日	大津市石山寺三丁目・四丁目、赤尾町で注水時期の確認を行うための下見を行った	大津市	1名
5月16日	調査で使用する標本採集瓶の準備を行った	琵琶湖博物館	2名
5月18日	大津市見世・南志賀・大萱でアメリカカブトエビの生育状況を調査し、採卵を行った	大津市	2名
5月22日	大津市千町でアメリカカブトエビ、赤尾町でアジアカブトエビを採集し、飼育・採卵を行った	大津市	2名
5月25日	蒲生郡日野町、東近江市(旧蒲生町)の日野川流域で分布調査を行った	蒲生郡日野町 東近江市	2名
5月30日	大津市石山寺三丁目・四丁目、赤尾町でカブトエビ類の分布調査を行った	大津市	4名
6月2日	大津市月輪三丁目でカブトエビ類の分布調査を行い、採集した個体の飼育・採卵を行った	大津市	1名
6月8日	大津市大江四丁目・五丁目でカブトエビ類の分布調査を行い、採集した個体の飼育・採卵を行った	大津市	2名
6月17日	入会希望者に活動内容の紹介を行った	Zoom オンライン	1名
8月12・13日	採集した標本の同定作業を行った	山川自宅	1名
8月29日	本年度の調査結果報告会を行った	Zoom オンライン	5名
10月23日	琵琶湖博物館25周年記念シンポジウムで事例報告を行い、パネルディスカッションに参加した	琵琶湖博物館	1名
3月21日	総会：本年度の調査結果の報告、および来年度の調査の実施予定を決定した	琵琶湖博物館	7名

○タンポポ調査はしかけ

代表者：不在 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：3名

[設立の趣旨] 「タンポポ調査・西日本2015」の実施に合わせて、2013年度に設立された。当初は、2年間の期間限定で設立されたグループであったが、タンポポについて深く探求するために、2016年度以降もグループを継続することとした。

[活動の概要] 2021年度は、「タンポポ調査・西日本2020」の本調査の延長があり、メンバー有志によりそれぞれのテーマの調査が行われた。行事は実施しなかった。

○ちっちゃなこどもの自然あそび「ちこあそ」

代表：池田 勝 担当学芸員：大久保実香、中村久美子（育休中） 会員数：4名

[設立の趣旨] 幼児期の子どもと保護者が琵琶湖博物館生活実験工房周辺の田んぼ、畑、森などをはじめとする自然環境内で、五感を使って自然に触れ、その楽しさ、面白さを感じ、原体験となるような感動を伝えることを目指しています。

[活動の概要] 2012年環境学習センターの「環境ほっとカフェ」イベントとして始まり、2015年度には「親子自然遊びの広場」、そして2016年9月からはしかけ活動として立ち上げました。毎月おおよそ第3水曜日に、約10組の親子が集い、ルーペを使って様々な自然を見たり、ドングリを拾ったり、畑の作物を調理して食べたり、五感を使って親子が自然に触れて、楽しめるように実施しています。おおよそ2歳～4歳の幼児と保護者が楽しんでいます。時にはお腹が大きくなったお母さんが来られ、しばらくして

産まれてすぐの赤ちゃんを連れてきてくださることもあったりと0歳児から小学生高学年までと年齢幅広く、自然の中で遊んでいます。

今年度の活動は、昨年度に続き新型コロナウイルスの感染防止のため、活動を制限して実施しました。5月、9月、2月、3月と一般の参加はなしにしました。スタッフは畑の植え付け等で集まる程度にしました。

一方新しい試みも始めました。大きな変更は、募集方法の変更です。これまでほぼ口コミで募集していましたが、博物館ホームページのイベントカレンダーから、ネット経由で申込みを行うようにしました。2か月前の申込みにもかかわらず、午前5組、午後5組の募集がすぐにキャンセル待ちになるほどニーズがあり、嬉しい悲鳴でした。（おかげでスタッフは昼食もとらずに、遊び続ける状況でした。）少ない開催にも関わらず、何度も来てくださる親子もおられ、少しずつ子どもの成長も見え、博物館の自然の楽しさ、季節の変化と共に、子どもの成長と一緒に楽しませてもらっています。

育児休暇中の中村学芸員も、子育て中の大久保学芸員もお子さんをちこあそに連れて来てくださって参加者もスタッフも関係なく、親子が楽しめる時間を作っています。2022年の春には中村学芸員が復帰され、代わって大久保学芸員が産休育休とまたまた賑やかになりそうで、博物館の子育て世代にも対応して、仕事と育児の両立に対応できるちこあそになればと企んでいます。博物館って、展示人も自然も、子どもが成長し学ぶ環境に適しているんだなあと感じています。そのためコロナ禍で博物館を活かせてないことに焦りも感じる1年でした。

「ちこあそ」のおもな活動



6月18日 カタツムリ見つけたよ



7月21日 ジャガイモを掘ろう



10月20日 ヤツデの葉っぱでウサギに変身



11月17日 工房裏の森を探検



12月15日 おくどさんでフーフー火付け



1月12日 フキノトウを見つけたよ

○琵琶湖の小さな生き物を観察する会

会長：渡辺圭一郎

担当学芸員：大塚泰介

会員数：26名

[設立の趣旨] 私たちの身近に住んでいるが普段見ることの出来ない、琵琶湖などの小さな水生生物を観察・記録する。

[活動の概要] 琵琶湖とその周辺水域の小さな水生生物を調査して観察・記録することを目的としている。調査対象は特定の生物群に限定せず、単細胞・多細胞、動物・植物・原生生物、浮遊性・付着性を問わない。月に1回集まって、琵琶湖などの小さな生き物を採集し、琵琶湖博物館で顕微鏡観察を行う。今年度は新型コロナウイルス感染状況が落ち着いていた11月～1月の3回のみ活動となったが、琵琶湖以外にも様々な場所で採集されたサンプルの持ち込みがあったり、顕微鏡談義で盛り上がりたりと、少ない機会を有効に活かすことができた。なお、12月の観察会で見つかったハリケイソウに似た珪藻が、後に琵琶湖新産の外来種*Fragilaria longifusiformis* ssp. *euofusiformis*であるとわかり、報告論文(印刷中)に本会への謝辞が記載された。

「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
11月3日	採集・観察会	琵琶湖博物館	11名
12月11日	採集・観察会	琵琶湖博物館	5名
1月9日	採集・観察会	琵琶湖博物館	8名

〇びわたん

代表：中西寛子

担当学芸員：安達克紀・由良嘉基

会員数：13名

[設立の趣旨] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

[活動の概要] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊(通称：わくたん)」事業は、第2土曜日の午後に行われており、来館者に滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対しての興味・関心を深めてもらうことをねらいとしている。「びわたん」のメンバーは、この事業の運営や参加者との交流などに関わっている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため5回のうち3回を中止とした。来年度の計画については、今年度できなかったプログラムや新しいプログラムを計画しているので実施できることを期待したい。

「びわたん」のおもな活動「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業(館内)

活動日	内容	一般参加者	びわたん
11月13日	植物の化石を掘り出そう!	19名	6名
12月11日	綿にふれてみよう!	16名	10名
1月8日	昔の地図からびわ湖を知ろう!	中止	中止
2月12日	船 de アート!	中止	中止
3月12日	お魚モビールを作ろう!	中止	中止

〇ほねほねくらぶ

会長：西村有巧 副会長：榎本、納屋内 広報担当：宇野 担当学芸員：松岡 由子、中川 信次

会員数：大人22名 子ども3名 計25名

[設立の趣旨] 現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

[活動の概要] 2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれるホ乳類をはじめ鳥類や魚類などなど、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月1～2回の例会が活動の中心である。2022年度は、前年度から引き続き、感染症対策のため、月に3日間程度の例会として1日の活動時間を3時間程度としました。8月と9月の例会が感染症対策のため中止となり、11月から1月は以前の活動時間に戻すことが出来ましたが、2月、3月は再び短時間での活動となりました。

そんな中ですが、6月には、全国の標本制作団体とのWEB上での交流会に参加する事が出来ました。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月例会	3日 クマの頭骨の組み立て、鳥の徐肉	琵琶湖博物館
	11日 ウサギの解剖、猫の解剖、鳥の徐肉、キツネの組み立て	
	24日 鳥の徐肉、鳥のクリーニング	
5月例会	15日 ウサギの解剖、猫の解剖、キツネの組み立て	琵琶湖博物館
	30日 鳥の骨のクリーニング、キツネの組み立て	
6月例会	5日 ネコの徐肉、オオバンの解剖、キジバトの解剖	琵琶湖博物館
	13日 イタチの解剖、オオバンの解剖、鳥の徐肉、キツネの組み立て	
	26日 タヌキの徐肉、イタチの徐肉	
7月例会	11日 タヌキの徐肉、イタチの徐肉、キツネの組み立て	琵琶湖博物館
	22日 シロハラの本剥製、仮剥製の制作	
	31日 タヌキの解剖、オオバンの解剖、カルガモの解剖、	
8月例会	8日 中止	琵琶湖博物館
	21日 中止	
	28日 中止	
9月例会	19日 中止	琵琶湖博物館
	26日 中止	
10月例会	10日 タヌキの徐肉	琵琶湖博物館
	23日 タヌキの徐肉、オオバンの徐肉、ウサギの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	31日 タヌキの徐肉、イタチの徐肉、鳥の骨のクリーニング	
11月例会	14日 ハクビシンの解剖、イタチの徐肉	琵琶湖博物館
	27日 シロハラの本剥製の制作	
12月例会	19日 シロハラの本剥製と仮剥製の製作、ネコの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	26日 ネコの骨のクリーニング、鳥の仮剥製の製作	
1月例会	8日 シロハラを除肉、カワラバト（ドバト）の皮剥ぎ	琵琶湖博物館
	22日 シロハラの仮剥製の制作、シロハラの徐肉	
2月例会	5日 シロハラの仮剥製の製作、鳥の骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	20日 シロハラを除肉、鳥の骨のクリーニング	
	27日 シロハラを除肉、カワラバト（ドバト）皮剥、	
3月例会	6日 カワラバト（ドバト）の徐肉、鳥の骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	20日 カワラバト（ドバト）の徐肉、キツネの組み立て、鳥の骨のクリーニング	

○緑のくすり箱

会長：吉野まゆみ

担当学芸員：大槻達郎

会員数：23名

[設立の趣旨] 薬用植物に興味を持ったアロマセラピスト8名で設立したグループである。薬用植物だけに限らず、身の回りにある植物を健康生活に生かそうと、普段の生活に使える利用法を実践しながら、研究している。

[活動の概要] 今年度の活動も、新型コロナウイルス感染予防の点から、調理や食事を伴う活動は一切行うことができませんでした。8月、9月には緊急事態宣言が出て活動が中止、また1月にはオミクロン株の感染拡大により、活動の参加を控える方、計画していた活動ができないといったことがありました。

活動回数は少なかったですが、年4回琵琶湖博物館で実施している「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」では、アランビック蒸留器の利用方法などメンバーの中でしっかりと身につけてきたように思いま

す。また、毎年実施している活動では、昨年よりも良いものが出来上がり、大人のディスカバリールームへの展示も行うことができました。

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月11日	手作り蒸留器の勉強会	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当者：十塚・坪井・吉野千 参加者：8名
5月19日	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（クスノキ、ヨモギ）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：15名
6月27日	ハーブの勉強会とこんにやく湿布	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当者：山本・加藤・元廣 参加者：14名
7月7日 (午前)	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（和ハッカ、笹、ヒノキ）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：10名
7月7日 (午前)	マスクスプレー、アロマストーン、バスボム作り	琵琶湖博物館 実習室2	担当者：吉野ま・久保・大羽 参加者：10名
10月16日	発酵食品の勉強会	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当者：山本・十塚・吉野千 参加者：7名
11月24日	草木染め体験	琵琶湖博物館 実習室2	担当者：深田・柳原・加藤 参加者：10名
12月2日	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（モミ）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：9名
2月12日	廃油石鹸作り	琵琶湖博物館 実習室2	担当者：堀田・山本 参加者：5名
3月13日 (午前)	年度末総会	琵琶湖博物館 研究交流室	担当：吉野ま 参加者：10名
3月13日 (午後)	黄カラスウリのハンドクリーム作り	琵琶湖博物館 実習室2	担当：熊谷・吉野千・大羽 参加者：12名

○虫架け

代表者：梶田 聡子 担当学芸員：八尋 克郎 会員数：18人

[設立の趣旨] 昆虫が好きな人が集まって、滋賀県内の昆虫の分布調査を行うことを大きな目標にしている。また、採集方法等講座の開催、昆虫の分類等の講座の開催、昆虫標本の作り方教室の開催、昆虫についての基本知識の周知、博物館によるイベントの後援を行っていかうと考えている。2017年設立。

[活動の概要] 昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響を受けて、集合しての活動は多くが中止となり、今年度は2回に留まった。活動時にはマスクの着用や身体的距離の確保などの感染防止策を徹底した。生活実験工房行事のサポートでは、木の中や土の中の昆虫を探し、吸虫管で採集して頂いた。また、採集後、実体顕微鏡を用いて採集した昆虫を観察した。木の中・土の中ではジュンサイハムシやクロハナカメムシなどが観察でき、一般の方からは「普段あまり見ない小さな虫が多くいて面白かった」「わかりやすくよかった」といった感想が聞かれた。

また、集合しての活動は2回に留まったが、「虫架け通信」を毎月発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有した。

「虫架け」のおもな活動

野外活動

活動日	内 容	場 所	参加者
11月21日	生活実験工房行事「秋の生き物を探そう」のサポート	琵琶湖博物館	8名 (一般参加者19名)
1月8日	標本作りについて学習と体験	琵琶湖博物館	11名

虫架け通信の発行

発行日	号数	おもな内容
4月29日	虫架け通信 31号	センチコガネ類の雌雄鑑別法、琵琶湖岸調査報告
5月30日	虫架け通信 32号	オオセンチコガネの色彩変異、高島市調査報告
6月27日	虫架け通信 33号	テントウムシ類のミューラー型擬態、大津市調査報告
7月30日	虫架け通信 34号	アゲハチョウ類のベイツ型擬態、ゴミムシ調査報告
8月15日	虫架け通信 35号	生活実験工房昆虫観察会報告、セミに関するクイズ
9月30日	虫架け通信 36号	ゴミムシダマシ類調査報告、草津市調査報告
10月16日	虫架け通信 37号	昆虫の命名法、アオスジアゲハの生態、大津市調査報告
11月10日	虫架け通信 38号	砂浜の昆虫相、クロコノマとウスイロコノマの鑑別法
12月18日	虫架け通信 39号	11月例会報告、ヒラタシデムシ類の鑑別法、アケビコノハの生態、アオムシコマユバチ飼育報告
1月22日	虫架け通信 40号	1月例会報告、モンキツノカメムシ類の鑑別法、フクラスズメの生態
2月13日	虫架け通信 41号	動物地理区解説①、ノミゾウムシ類の生態、スナゴミムシダマシ類の分布
3月13日	虫架け通信 42号	動物地理区解説②（オーストラリア区・東洋区）、テツイロヒメカミキリの生態

○森人（もりひと）

代表者：福岡敏雄 担当学芸員：林 竜馬 会員数：14名

〔設立の趣旨〕 2015年度に「はしかフェ」の中で屋外展示の環境整備の一環として樹木説明版の設置、屋外展示のガイドツアー、勉強会や観察会などを実施した。引き続き屋外展示の活用を進めていくために森人（もりひと）として「はしかけ」に登録し2016年度から活動を開始した。

〔活動の概要〕 2021年度は新型コロナ感染症対策として来館者との交流活動はすべて中止し、比較的感染者数が少なくなった時期に近場での観察会や屋外展示の森の整備を行った。活動は下記の通り計6回にとどまった。

「森人」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
7月10日(土)	観察会（琵琶湖博物館周辺）	烏丸半島（草津市）	6名
10月9日(土)	外部観察会	近江富士花緑公園（野洲市）	6名
10月23日(土)	外部観察会	びわこ文化公園（大津市）	4名
11月13日(土)	外部観察会	みなくち子どもの森（甲賀市）	5名
12月11日(土)	つる植物などの除草作業	樹冠トレイル（琵琶湖博物館）	6名
1月8日(土)	つる植物などの除草作業	太古の森（琵琶湖博物館）	4名

○琵琶湖梁山泊

代表者：坂本大介 担当学芸員：中井克樹 会員数：15名

〔設立の趣旨〕 地域の自然や文化を研究する中高生の若者を中心として、2018年に設立されたグループです。切磋琢磨する若者を、博物館の学芸員や大人メンバーがサポートします。研究の相談や勉強会を通じて、興味・関心が近い仲間や、認め合い競い合う仲間が見つかるようにと願いを込めて設立しました。

〔活動の概要〕 若者の研究活動を進めるため、博物館の学芸員や大人メンバーが相談対応や助言などの支援を行い、研究のレベルアップをめざします。一昨年度までは勉強会や研究発表など、学校の枠を越えた相互交流を進めましたが、一昨年度末からは新型コロナウイルス感染拡大のため、昨年度から今年度にかけて

ては、以前のような活動は十分にできない状況が続きました。そのような中、今年度は新しい試みとして、5月には初めてのZoomによる会議を開催し、このWeb会議では4題の研究の成果が発表されました。

「琵琶湖梁山泊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
5月 1日	Zoom会議 「琵琶湖梁山泊オンライン 総決起集会」	オンライン (琵琶湖博物館が設置)	担当：大塚・鈴木・中井 参加者：8名 (+博物館関係者約20名)
1月 8日	珪藻の同定および研究相談	琵琶湖博物館研究交流室	担当：坂本・大塚 参加者5名

○サロン de 湖流

会長：岩木真穂 担当学芸員：戸田 孝 会員数：7名

[設立の趣旨] 琵琶湖や周辺地域の自然環境の中で起こっているさまざまな物理現象（湖流・河川流・地下水流などや気象現象など）について気軽に語り合いながら、フィールドでの観測・背景原理を確かめる実験・数学や統計などの勉強会・生物現象や化学現象あるいは人文社会事象との関連の考察・物理現象を理解するための自分なりの方法の探究などへ発展を目指す。

[活動の概要] コロナ禍のうえ、一部メンバーの体調不良もあり、実際に湖上で観測を行う活動は全くできなかった。1月4日（火）～3月8日（日）に開催された、このグループの活動内容に関連するギャラリー展示に向けて、展示の担当者でもある担当学芸員が具体的な案を示して議論を進めようとしたが、オンラインでの議論には限界があり、活動としては低調であった。

「サロン de 湖流」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月 10日	ギャラリー展示に向けての計画を協議	琵琶湖博物館実習室1	1名 (+1名)
5月 8日	ギャラリー展示の全体案について討論	オンライン (Zoom)	2名 (+1名)
6月 12日	ギャラリー展示の個別案について討論	メーリングリストでの議論	不定
7月 10日	ギャラリー展示の個別案について討論	メーリングリストでの議論	不定
8月 14日	ギャラリー展示の個別案について討論	オンライン (Zoom)	1名 (+1名)
9月 18日頃	ギャラリー展示で使う立体模型について討論	メーリングリストでの議論	不定
10月 9日	ギャラリー展示で使う実験装置について討論	メーリングリストでの議論	不定
11月 18日	ギャラリー展示で使う立体模型の試作結果について討論	メーリングリストでの議論	不定
11月 19日	ギャラリー展示で使う立体模型の試作結果その他について討論	オンライン (Zoom)	1名 (+1名)
12月 11日	ギャラリー展示で実施する実験の試行結果について討論	メーリングリストでの議論	不定
2月 26日	ギャラリー展示見学および議論	琵琶湖博物館企画展示室	2名 (+1名)

参加者数の括弧内は学芸員

○水と暮らし研究会

代表者：中場弘二 担当学芸員：楊 平 会員数：6名

[設立の主旨] 琵琶湖は、生活用水、農業用水としての役割のみならず、さらには景観の構成要素として重要な役割を果たしている。琵琶湖の水を支えているのは直接的な降雨水に加え、集水エリアからの地表水、地下水である。特に琵琶湖周辺の山地から湖に至る間、様々なエリアにおいて、人々は湧水、山水、川水

などのさまざまな地表水、地下水と密接な関係にかかわりあって暮らしてきた。そこには、そのかかわりあった風景と人とのつながり「文化」をみることができる。

古くから稲作の普及で農耕生活が定着し、また農民の居住地移動が困難であった時代に土地を守り、生き抜くために、各集落で各家庭の生活用水、そして各田畑等への農業用水など、湧水含め山水、川水など、水を如何に使うかが最大の関心事であったであろう。水は生活環境、自然環境において重要な役割を果たしてきたのだ。この水に育まれてきた暮らし「文化」の継承状況を調査し先人たちの水に対する「想い」を発信し記録とし、また、他地域との交流の一助とならんことを願い、研究会を立ち上げた。

〔活動の概要〕

【2021年活動計画】

テーマ1：古人の想い。暮らしと川とのかかわりを探る。

：暮らしと川とのかかわりあいの歴史から未来を探る。

テーマ2：琵琶湖博物館行事に参加、協力。

【活動の概要】

水とかかわりあって生きていく暮らしに焦点を当て、その暮らしの実態を現地調査し、地域でのヒアリングを通じ、先人たちから受け継いだ現代人の生活の実態を記録し発信していく。また活動テーマに関連する講座、シンポジウム等あれば、積極的に参加する。活動計画は、事前に調査先のリストを作成し、情報収集の効率アップに努め、調査終了後には各人の担当に基づく記録作成を速やかに実施する。

また、博物館行事への積極的参加は、はしかけ活動の一環として重要事項との認識に基づくものであると考えていた。

テーマ1 「水と暮らし研究会」のおもな活動

活動日	調査地域	参加者
4月 8日	守山市 鹿島神社、下新川神社、他3カ所調査	5名
4月 28日	守山埋蔵文化財センター訪問、守山・野洲市神社3件調査	5名
5月 27日	守山市 旧野洲川流域阿比留地区水辺散策、調査	6名
6月 25日	野洲川・青土ダム見学、若宮・賀茂神社訪問 周辺調査	6名
7月 22日	野洲川石部頭首工分水付近、祇王井川流路調査	6名
8月 4日	東祇王井川流路、永源地区遺跡調査	6名
10月 1日	野洲市歴史博物館 郷土史展「朝鮮人街道たどる」を見学	3名
10月 7日	祇王井川流路を富波乙地区生和神社から富波甲地区入口を調査	5名
11月 4日	東近江市躰光寺町・小川町近隣の水質傾向の再調査	5名
12月 24日	東近江市垣見町・山路町の暮らしと密接している湧水の調査	6名
1月 27日	滋賀県立博物館 写真展「琵琶湖源流の美と暮らし」見学	6名
3月 3日	野洲市歴史博物館 祇王井川関連展示を見学、他	6名

テーマ2

活動日	調査地域	参加者
6月 20日	琵琶湖博物館「ふらっと自然観察」2021 高島市 針江浜園地	4名
10月 10日	琵琶湖博物館 わくわく知恵さがし・楽しく学び合い講座	4名
3月 10日	京都市「オープンラボ『かめのま』高瀬川ツアー+トーク」	4名

○海浜植物守りたい

会長：百木義忠 担当学芸員：大槻達郎 会員数：5名

〔設立の趣旨〕本来海岸に生育する海浜植物が何故か、淡水の琵琶湖に生育している。

これらの植物は独自の進化をしており貴重であり、保護活動をすることにした。

[活動の概要]

主に新海浜(彦根市)における海浜植物の保護活動を行う。

今年度の活動は、ハマエンドウ保護区内の雑草の除去と雑草の種類と特徴を学ぶ。

「海浜植物守りたい」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月 6日 9:30~12:00	・コマツヨイグサ、コバンソウ除草 ・アメリカネナシカズラ駆除	新海浜	4名
5月 18日 9:30~12:00	・コマツヨイグサ、コバンソウ除草 ・アメリカネナシカズラ駆除	新海浜	2名
5月 28日 9:30~11:40	・保護区内、周辺の除草 ・新規購入刈払い機によるコバンソウ、チガヤの草刈り ・アメリカネナシカズラの駆除	新海浜	4名
6月 8日 9:30~12:00	・チガヤ、コバンソウ、センダン幼木、コマツヨイグサ、 オオキンケイギク、ムシトリナデシコ等の除草 ・アメリカネナシカズラの駆除	新海浜	3名
6月 18日 9:30~11:45	・コマツヨイグサ、メヒシバ等除草 ・アメリカネナシカズラ駆除 ・保護区東側ロープ張り	新海浜	3名
6月 25日 9:30~11:45	・6/23 大槻先生との懇談報告 ・センダン幼木、コマツヨイグサ、メヒシバ等の除草 ・アメリカネナシカズラの駆除 ・アリジゴクの観察と幼虫の捕獲 ・「海浜植物守りたい」活動看板の設置	新海浜	4名
7月 6日 9:30~11:45	・コマツヨイグサ、メドハギ、カワラヨモギ、コマツナギ、 メヒシバ等の除草 ・アメリカネナシカズラの駆除。	新海浜	4名
7月 16日 9:30~11:45	・コマツヨイグサ、メヒシバ等の除草 ・アメリカネナシカズラの駆除。 ・保護区東側ロープ張り	新海浜	5名
8月 31日 9:30~10:50	・アメリカネナシカズラの駆除	新海浜	1名
10月 5日 9:30~11:30	・アメリカネナシカズラの駆除 ・コマツヨイグサ、アキノエノコログサ、オオフトバムグラ等除草 ・枯れた松の木の伐採	新海浜	5名
10月 15日 9:30~11:30	・アメリカネナシカズラの駆除 ・コマツヨイグサ、アキノエノコログサ、オオフトバムグラ等の除草 ・仮払機による保護区南側チガヤの草刈り	新海浜	3名
11月 2日 9:30~11:30	・保護区域外の雑木の伐採と整理 ・コマツヨイグサ、チガヤ、センダンの幼木の除去 ・アメリカネナシカズラの駆除2か所	新海浜	3名
12月 13日 9:30~11:00	・松の木の枝切り ・立ち入り禁止・通り抜け禁止看板設置(3箇所)	新海浜	5名
1月 11日 10:00~11:30	・ミーティング (令和3年度の反省と令和4年度活動計画について)	琵琶湖 博物館	5名
3月 4日 9:30~11:30	・保護柵下に畦波板敷設(深さ45cm×10m) ・チガヤ等除草	新海浜	5名
3月 21日 9:00~11:15	・保護柵下に畦波板敷設(深さ45cm×10m) ・スズメノカタビラ、オランダミミナグサ、カヤツリグサ等除草	新海浜	4名

地域交流活動への支援

地域や企業、大学などからの講義や観察会の講師依頼などを、地域連携事業として受けている。依頼者のニーズに応える形で講義・観察会等のテーマを絞り込み、当該分野の学芸員を講師にあてることで、学芸員の専門性を活かし、依頼者の今後の活動に資することを目指している。琵琶湖博物館では地域連携事業を地域の人たちとの協働として捉えている。

2021年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため地域連携事業が中止となった時期があった。博物館内での支援活動は17件・参加者426名、地域での支援活動ではオンラインも合わせて39件・参加者2,021名の活動実績となった。

(1) 博物館内での支援活動

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	対応者	参加者数
7/7	摂南大学農学部	水田の生物多様性	大塚泰介	90
8/8	近畿大学水産学科	水産増殖学実習	米田一紀	12
10/31	大阪府立豊中高等学校	実習および講師依頼	鈴木隆仁	12
11/14	NPO 自然と緑	実習および講師依頼	鈴木隆仁・大塚泰介	40
11/20	多賀町教育委員会	プランクトン観察のお願い	鈴木隆仁	10
11/20	淡海環境保全財団	講師および企画展案内依頼	亀田佳代子・大久保実香	20
11/21	京都芸術大学歴史遺産学科	見学のお願い	加藤秀雄	20
12/7	東京大学大学院農学生命科学研究科	海洋学際教育プログラム	米田一紀	6
12/8	神戸女子大	環境学習の講話とヨシ笛体験	由良嘉基	26
12/11	大阪産業大学デザイン工学部	琵琶湖淀川水系淡水魚の講演	川瀬成吾	13
12/12	京都芸術大学	見学のお願い	加藤秀雄	20
12/16	レイカディア大学同窓会	琵琶湖の環境政策やMLGs	中井克樹	30
1/8	びわこ学院大学	講師依頼	金尾滋史	38
1/12	滋賀県レイカディア大学	プランクトン実習と講義	大塚泰介	13
1/13	有馬高校	講義依頼	中井克樹	41
1/30	滋賀県山岳連盟自然保護委員会	講演および館内見学の依頼	林竜馬	15
2/8	長浜バイオ大学	水族館実習における講義依頼	金尾滋史	40

(2) 地域での支援活動

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	参加者数
4/19	京セラ株式会社滋賀野洲工場	講師派遣依頼	野洲市	金尾滋史	2
6/12	栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会	講師派遣について	東近江市	大塚泰介	150
6/19	京都府立福知山高等学校	特別講義講師派遣について	京都府	妹尾裕介	25
6/19	せせらぎの郷(須原魚のゆりかご水田協議会)	講師派遣依頼	野洲市	金尾滋史	30
6/24	立命館大学食マナジメント学部	淡水魚の食産業利用に関する研究	オンライン	橋本道範	13
7/1	滋賀県立守山北高等学校	令和3年度初任者研修講師派遣	野洲市	金尾滋史	20
7/3	守山市教育委員会	弥生人養成講座①	守山市	妹尾裕介	15
7/13	琵琶湖保全再生課	世界湖沼会議発表の事前学習	守山市	中井克樹	3

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	参加者数
7/15	おうみ未来塾	キャリア教育における講師派遣	彦根市	松岡由子	40
7/20	琵琶湖環境部・立命館大学	びわ湖の日連続講座	オンライン	高橋啓一	150
7/22	勝部自治会	かつべ水フェスタ	守山市	金尾滋史	60
7/24	鹿児島市松元土地改良区	松元ダムにおける外来魚調査	鹿児島	中井克樹	20
7/24	大阪府立高津高等学校	SSH 事前学習会への講師派遣	大阪府	川瀬成吾	24
7/29	守山市立守山中学校科学部	科学部研究発表における講師派遣	守山市	鈴木隆仁	22
8/3	快適環境づくりをすすめる会	講師派遣	犬上川	金尾滋史	30
8/8	乙女浜農村まるごと保全協議会	生き物調査会	東近江市	八尋克郎	30
8/21	守山市教育委員会	弥生人養成講座②	守山市	妹尾裕介	7
8/28	守山市教育委員会	弥生人養成講座③	守山市	妹尾裕介	7
10/1	龍谷大学農学部	食の循環実習における講義	オンライン	中川信次	114
10/2	甲南大学	シンポジウム講師派遣について	神戸市	亀田佳代子	100
10/2	大阪府立高津高等学校	高津高校 SSH の講師派遣	大阪府	川瀬成吾	25
10/3	大阪府立高津高等学校	高津高校 SSH の講師派遣	大阪府	川瀬成吾	25
10/5	甲賀市教育委員会環境教育部会	主任研修会の講師派遣	甲賀市	田畑諒一	22
10/8	龍谷大学農学部	食の循環実習における講義	オンライン	中川信次	114
10/22	龍谷大学農学部	食の循環実習における講義	オンライン	中川信次	114
10/28	仰木中学校	中学校科学研究審査会の審査員	東近江市	大槻達郎	—
10/29	龍谷大学農学部	食の循環実習における講義	オンライン	中川信次	114
10/29	滋賀県網膜色素変性症協会	視覚障害者支援講演	東近江市	里口保文	20
10/30	守山市教育委員会	弥生人養成講座④	守山市	妹尾裕介	15
11/4	國學院大學	博物館教育論	オンライン	金尾滋史	150
11/6	琵琶湖保全再生課	下物ビオトープ観察会	草津市	金尾滋史	20
11/24	守山市環境政策課	環境学習における講師派遣依頼	守山市	川瀬成吾	189
12/13	放送大学学園	博物館教育論	オンライン	金尾滋史	100
2/9	成安造形大学	琵琶湖の民俗学	オンライン	金尾滋史	100
2/13	NPO 法人たつの・赤トンボを増やそう会	水田の生物多様性について	オンライン	大塚泰介	50
2/17	草津市玉川小学校	総合的な学習時間に関わる講義	オンライン	妹尾裕介・大槻達郎	—
2/20	滋賀県獣医師会	一般公開講座での講演	オンライン	松岡由子	86
3/10	一般社団法人 HAPS	講師派遣依頼	京都府	楊平	15
3/21	守山市教育委員会	弥生人養成講座	守山市	林竜馬	15

(3) 質問対応

博物館利用者からの質問や疑問、要望や相談は、直接受け付ける「質問コーナー」と、いつでもどこからでも受け付ける通信網（電子メール等）を利用した「Query」で対応している。

1) 質問コーナー

琵琶湖博物館では、開館当初から“学芸員の顔が見える博物館”づくりを行っており、おとなのディスカバリー内に設置された「質問コーナー」において博物館利用者からの質問や疑問、相談を直接受け付けている。質問コーナーには学芸職員が常駐することで、利用者からの質問に迅速に答えることができ、専門的な

知識を直接伝えることで利用者が自ら調べたことを応援している。また、博物館利用者との対話による情報交換ができる場となっており、学芸員からの一方通行の情報伝達だけではなく、利用者からもたらされた情報が科学的に重要な知見に繋がった事例もある。その日に担当する学芸職員の予定は博物館ホームページやおとなのディスカバリー入口壁に掲示されており、専門分野の担当者がある日に質問ができる仕組みとなっている。それぞれの質問は、担当学芸職員がその場で対応するようにしているが、分野が異なったり、専門的な内容で質問コーナー担当学芸員が回答できない質問等はそれぞれ専門の学芸職員に回答を依頼したり、調べて後日メールや電話で回答している。博物館への質問については、質問コーナーに来室される場合のほか、電話による質問や相談に応じている。

2021年度は昨年度同様に、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、博物館が4月29～5月16日、および8月28日～9月30日まで臨時休館となったため、この期間は質問コーナーも閉鎖され、電話およびメールのみでの質問対応となった。また、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえて質問コーナー担当者が実施していたフロアトークは今年度も中止せざるを得なかった。感染症対策として質問コーナーカウンターには、ビニールによる衝立を設置していたが、当館のサポーター企業から提供をいただいたガードを設置した。また、展示交流員と協力しておとなのディスカバリー内における人数制限にも従事した。

質問コーナーおよび電話における質問受付数

期間	2021年4月1日～2022年3月31日（うち質問コーナー実施254日）	
総質問数	805件	
質問形態	来訪による質問	652件
	その他による質問	153件

2) 通信網（電子メール「Query」）による対応

博物館の情報交換サービスを充実させるため、開館以来、質問、要望、相談などを受け付けるための専用電子メールアドレス（query@biwahaku.jp）を設定している。これらのメールは受付担当者が受信し、メールの内容に応じて専門の学芸職員や関連職員に転送し、回答するサービスを継続的に行っている。2021年度の総数329件であった。届いたメールのうち、専門的な質問については各学芸員が対応している。これらの中には、このような質問をきっかけとして自由研究に取り組んだり、身近な自然に興味をもつようになり、リピーターとなる方もいた。また、本メールがホームページ上における代表アドレスともなっているため、営業や広報に関する問い合わせ、連絡関係としても使われており、年々届くメールの件数が増加しており、内容も多様化している。

専門的な内容を含む質問 生物（魚類23・その他水生生物6・プランクトン6・昆虫15・哺乳類8・鳥類7・両生類6・爬虫類7・植物1）、琵琶湖・湖沼10、地学7、歴史・民俗・考古7、博物館関係12	116件
講師依頼、研究依頼、写真利用など	34件
施設利用や行事の問合せ・予約確認・案内資料請求	34件
資料の提供・利用、収蔵資料に関する問合せ	5件
広報掲載・取材依頼（リンク許可・サイト登録を含む）	18件
館の運営への提案・意見・問合せ・その他（他機関のお知らせ等）	19件
営業関係のメール	51件
その他の問い合わせ等	52件

(4) びわ博フェス 2021

「はしかけ」、「フィールドレポーター」が集まる交流会を中心として、普段の活動等を一般の来館者に広く周知するとともに、琵琶湖博物館の活動と一緒に参加したい人たちを増やす機会にすることを目的に実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

琵琶湖博物館環境学習センター

(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページやメールマガジン、SNS などにより発信を行い、環境学習活動の推進に努めた。

1) 環境学習に関する相談対応等

相談件数 153 件 教材貸出件数 30 本 (21 名)
(昨年度実績 相談件数 134 件 教材貸出件数 18 本)

2) 環境学習情報のホームページ「エコロシーが」の運用

教えてくれる人登録者 129 人 学習プログラム 180 本 学べる場所 26 か所

3) 環境学習情報メールマガジン「そよかぜ」の発行

発行回数 18 回 登録者数 1,080 人 (2021 年 12 月 21 日最終号)

4) SNS フォロワー数

Twitter 217 人 Instagram 127 人 Facebook 46 人

5) ブース出展

無し

(2) 環境学習の交流の場づくり

1) 環境・ほっと・カフェ

実施無し

2) 環境学習活動者交流会

実施無し

3) こどもエコクラブ事業 (登録数 58 クラブ メンバー 4,828 人)

・淡海こどもエコクラブ活動交流会

期日：2021 年 12 月 12 日 (日)

場所：琵琶湖博物館 セミナー室

参加クラブ：6 クラブ 参加人数：126 人

・こどもエコクラブに登録するクラブの活動成果の壁新聞・絵日記の展示

壁新聞応募数：9 枚 絵日記応募数：35 枚 (4 クラブ)

期間：2021 年 11 月 30 日 (火) ～12 月 16 日 (木)

場所：琵琶湖博物館アトリウム

その他：平和堂財団より助成を受けて実施

・こどもエコクラブ全国フェスティバル 2022 はオンライン開催

4) 地域を「知る」環境学習

・「びわこのちから」発見！フォトコンテスト

募集：2021 年 6 月 1 日～8 月 31 日

応募点数：14 名 (26 点)

巡回展示：① 場所：滋賀県立図書館

会期：2021年11月3日(水)～11月14日(日) 展示日数12日

② 場所：大津市北部地域文化センター(共催)

会期：2021年11月26日(金)～12月2日(木) 展示日数7日

③ 場所：ビバシティ彦根平和堂

会期：2021年12月6日(月)～12月11日(土) 展示日数6日

④ 場所：滋賀県立琵琶湖博物館

会期：2022年3月5日(土)～3月13日(日) 展示日数9日

・「ヨシっていいね」

会期：2022年2月23日(水)～3月10日(木)

場所：草津近鉄百貨店 あかりスポット

来場者数：670人(土日祝のみ集計)

5) その他

・展示活動支援

琵琶湖博物館ギャラリー展示「トンボ 100 大作戦 ～滋賀のトンボを救え～」ー生物多様性びわ湖ネットワークー 2022年2月1日(火)～2月27日(日)

琵琶湖博物館アトリウムにおいて、企業連携による生物保全活動の成果発表展示

情報発信活動

(1) 地域発見！参加型移動博物館

「地域発見！参加型移動博物館」事業は、2011年度に「マザーレイク滋賀応援基金」を活用して制作した移動型の展示キットを、琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、学芸員や交流員による対話を交えて琵琶湖や滋賀県に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図ることを目的としている。

開催日	イベント名	会場	運営者
2021年 3月5日～ 4月19日	琵琶湖博物館との連携展示	福井県立年縞博物館	年縞博物館・琵琶湖博物館
10月3日	たからの森フェスタ	瀬田運動公園	おおつ協会都市公園グループ
12月22～26日	MLGs ワークショップ	イオンタウン湖南	滋賀県環境政策課

(2) インターネットを利用した館外への情報提供

当館は独自のインターネットウェブページを通じて展示案内・行事案内・交通案内などの利用情報を提供している。情報の更新頻度は週10回程度である。このほか、収蔵資料の情報の公開もしている。

2021年度は、ウェブページの利便性・アクセシビリティ向上のためウェブサイト全体の更新と情報発信、および前年度より続くコロナ禍における博物館の情報発信力の強化を行った。収蔵資料データベースと図書資料データベースについても、引き続き外部クラウド型サービスを通して各データベースの公開を行っており、今年度、新たに画像資料「大橋宇三郎コレクション」「大橋洋コレクション」が加わった。また、東京大学史料編纂所ウェブサイトに掲載されている「所蔵史料目録データベース(Hi-CAT)」に当館が収蔵する国指定重要文化財「東寺文書(百七通)七巻、三冊、九十四通」の画像・翻刻等が掲載されたが、当該データベースへの誘導や、同資料群の解題を当館ウェブサイト上に設け、外部の機関との連携による収蔵資料のウェブ公開を実施した。

ウェブページの閲覧状況については、グーグルアナリティクスを利用したアクセス解析を行った。2021年度に当館ウェブサイトへアクセスしたユーザー数の推移は、下掲のグラフの通りである。

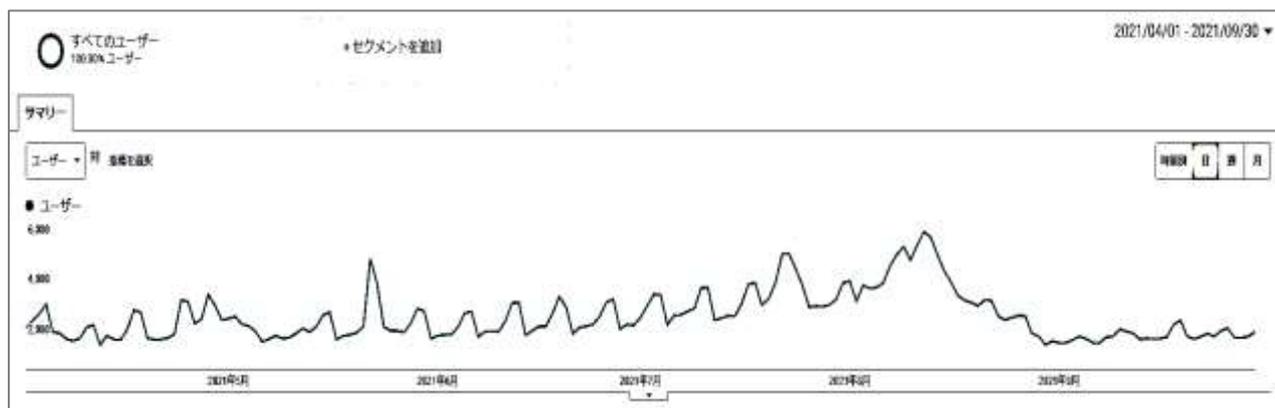


図 ユーザーとセッション (2021年4月1日～9月30日)
注：アクセス解析にはグーグルアナリティクスを用いた。

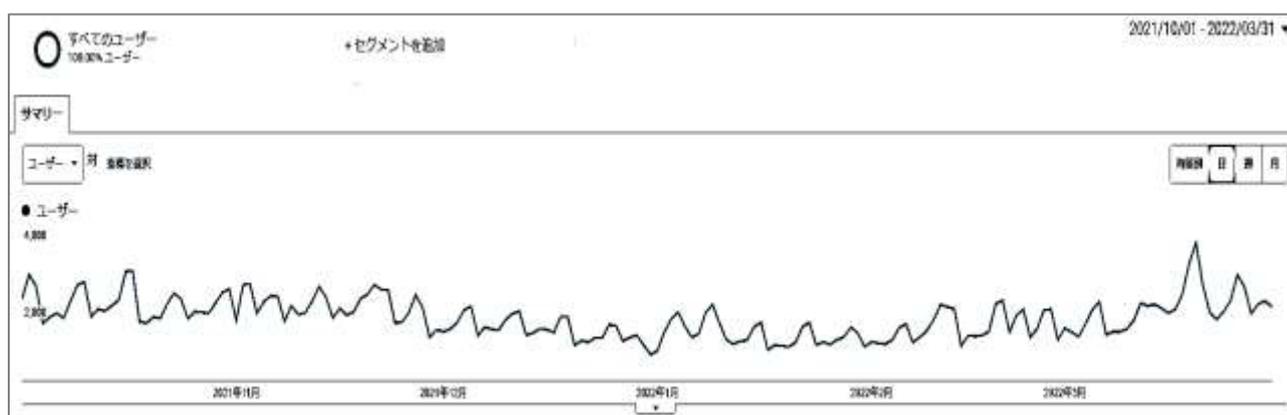


図 ユーザー数 (2021年10月1日～2022年3月31日)
注：アクセス解析にはグーグルアナリティクスを用いた。

2021年4月1日～9月30日はユーザー数303,988・セッション数459,415で、ページビュー数は1,404,190であった。2021年10月1日～2022年3月31日はユーザー数227,638・セッション数349,632で、ページビュー数は1,104,592であった。

4月29日～5月11日、および8月27日～9月30日は新型コロナウイルス感染症対応にともない臨時休館としたため、大型連休や夏季にありながらアクセスするユーザーの数は減少した。

閲覧されているウェブページの上位は、トップページを初め、予約システム、料金、展示紹介、アクセスなど、当館の基本的な情報を掲載したページが中心である。クリック数の多い検索キーワードも、「琵琶湖博物館 予約」など、予約システムの運用に関連するものが一定数見られた。

アクセスされた端末の種類については、昨年度、予約システムの導入にともなってモバイルの比率が上昇したと推測された(昨年度モバイル73%、デスクトップ23%、タブレット5%)が、今年度も予約システムの継続的な運用によってこの傾向は維持されたとみられ、モバイル約76.2%、デスクトップ約21.3%、タブレット約2.4%であった。

(3) 印刷物

1) 情報誌「びわはく」の出版

2020年度に引き続き、2021年度には情報誌「びわはく」第5号を発行した。第2号より号ごとのテーマを前面に押し出し、研究の最前線を紹介する特集に重点を置いた紙面づくりとした。第5号のテーマは「琵琶湖博物館開館25周年」であった。(A4、12頁、6,000部)

2) その他の印刷物

品名	サイズ	ページ数	発行部数
企画展示「湖国の食事」展示解説書	B5	80	600
企画展示「湖国の食事」展示解説書(増刷分)	B5	80	200
企画展示「湖国の食事」ポスター	A1		1,000
企画展示「湖国の食事」チラシ	A4		20,000
琵琶湖博物館ガイドブック	A4	16	2,000
広報用「びわこのちからの博物館。」チラシ	A4		95,000
フォトコンテスト 募集チラシ	A4		5,000
「びわこのちからの博物館。」手提げ袋	300mm*450mm		17,050
Youtube チャンネル登録キャンペーンチラシ	201mm*98mm		20,000
滋賀県にすむ魚たち チラシ	A4		3,500
学習ガイド	A4		4,000
環境学習センター チラシ	A4		2,500
びわはく 5号	A4	12	6,000

(4) コンテンツのWeb発信

おうちミュージアムの一環として、琵琶湖博物館ウェブページ上で「ミクロの世界へ」を連載した。琵琶湖集水域に現れる微小生物やそれにまつわるコラムを毎週金曜日(第3週を除く)に更新し、全35回となった。執筆者は博物館の関係者4名(鈴木・大塚・根来・渡辺)が担当した。web上での連載であるため、コラムには写真の他、動画も利用し、小学生高学年レベルであれば十分に理解できるものを目指した。

公式YouTubeチャンネルの刷新を図り、2月下旬「びわこのちからチャンネル」としてリニューアルし、学芸職員による展示室と関連づけた内容で、研究をもとにした以下の3つのコンテンツを公開した。

- ・世界初!?!の完全再現! 弥生土器でお米を炊く!?
- ・琵琶湖の冬の名物! 氷魚(ひうお) 漁にびわ博のお魚博士が密着!
- ・どんな魚がいる!?!びわ博のお魚博士が琵琶湖下流域で冬の生き物調査!

また、同チャンネルで、常設展示を紹介する展示室毎の360度動画を公開した。

琵琶湖博物館 開館 25 周年記念シンポジウム

開館 25 周年記念シンポジウム「琵琶湖博物館との新しいつきあい方」

1. 趣旨・目的：琵琶湖博物館は開館25周年を迎え、第三期中長期基本計画を始動する節目にあたる。当館が目指す【出あい、学びあい、琵琶湖を世界へ発信する博物館へ】となるために、まずは地域の人びとが出あい、学びあえる博物館を実現させていきたい。琵琶湖博物館が、今後、地域の人びととともに学びあえる博物館になるための、新たな博物館とのつきあい方やその仕組みを考えるシンポジウムを開催する。本シンポジウムのテーマは、「琵琶湖博物館との新しいつきあい方」とする。地域の人びとと共に活動をしている博物館において、これまで行われている多様なつきあい方の事例を紹介することで、琵琶湖博物館の使われ方や、様々な個人や団体との交流による活動発展の仕組みを考えていく機会とする。
2. 開催日：2021年10月23日（土）13:00～16:00
3. 方法：オンライン開催（Zoom ウェビナーでの開催）
4. 参加費：無料
5. 参加者：145名
6. プログラム：

13:00～13:05	開会あいさつ	高橋啓一（琵琶湖博物館 館長）
13:05～13:10	趣旨説明	山川千代美（琵琶湖博物館 事業部長）

<1部> 琵琶湖博物館の活動事例

- | | |
|-------------|--|
| 13:10～13:30 | 琵琶湖博物館「はしかけ制度」を利用した田んぼのエビ類の調査研究活動について
山川栄樹（はしかけ「田んぼの生きもの調査グループ」） |
| 13:30～13:50 | やりたい事を実現する 飯村 強（湖国もぐらの会） |
| 13:50～14:10 | トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え！～
「生物多様性びわ湖ネットワーク」深田茂樹（ダイハツ工業株式会社）、
三好順子（株式会社ダイフク） |

<2部> 他館の活動事例

- | | |
|-------------|--|
| 14:10～14:30 | 地域と分野を超えたミュージアムの新しい接点 -おうちミュージアム-
渋谷美月（北海道博物館 学芸員） |
| 14:30～14:50 | 博物館と関わる個人・団体が集う 大阪自然史フェスティバル
和田 岳（大阪市立自然史博物館 主任学芸員） |

<休憩> 14:50～15:00

<3部> オンラインディスカッション「琵琶湖博物館との新しいつきあい方」

- | | |
|-------------|---|
| 15:00～15:50 | コーディネーター：村井良子（プランニング・ラボ代表取締役、武蔵野美術大学客員教授）
パネリスト：山川栄樹、飯村 強、渡邊共則、渋谷美月、和田 岳、
芳賀裕樹（琵琶湖博物館 企画調整課長） |
| 15:50～16:00 | まとめ、閉会あいさつ 亀田佳代子（琵琶湖博物館 研究部長） |

Ⅱ 環境の整備

1 拠点としての施設整備

(1) 利用者用施設の整備

新型コロナウイルス感染症への対策として、全館のトイレの便器・洗面台の非接触化工事を行った。また、トイレ洗浄用雑用水のポンプと下水道に送る汚水ポンプが故障し展示空間のトイレが利用できなくなり、これを更新した。創立時に設置し老朽化が著しい非常用自家発電機をオーバーホールした。海外研修生が利用する別館宿泊棟の車椅子用昇降機を修理し、車椅子を利用される方々の利便性の確保を図った。これらにより、来館者、施設スタッフの安全性、快適性の向上を図った。

(2) 情報システムの整備

1) 端末機器の更新

2021年度は、2017年度から参加している滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの継続的な利用を進め、安全性の高い情報システム運用を行った。

2) セキュリティ等

情報システムについては、滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの中で、常時監視を行っている。端末のセキュリティについてはウィルス等対策ソフトウェアを全機にインストールしている。

(3) 来館者アンケート調査

博物館利用者のニーズを的確に把握した利用しやすい博物館づくりを進めるため、定期的な来館者アンケート調査を年数回実施している。本年度のアンケート調査は、1回目を夏休み期間の金曜日から日曜日までの3日間、2回目は春休み期間の金曜日から日曜日まで3日間連続して実施した。

アンケート用紙は、例年観覧券売り場に毎日1,000枚を用意し、発券時に手渡しで配布するとともに、アトリウム出口にも設置するという方法をとってきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から手渡しは行わず、エントランス出口と退館ルートであるエスカレーター下の2か所に設置するのみとした。また、館員や展示交流員がアンケート調査への協力を呼び掛けた。

調査内容は、来館回数、情報源、同行者、交通手段、来館目的、滞在時間のほか、満足度および感想や改善についての意見など選択式12項目、記述式1項目の全13項目からなる。設問のうち、来館回数、来館のきっかけ、滞在時間、満足度、記入者自身の年齢、性別、住居域は、これまで実施したアンケート調査との共通項目である。なお今回も昨年度に引き続き2020年10月にリニューアル・グランドオープンした展示に対する満足度についても調査を実施した。

1) 実績

今年度は夏と初春の2回実施した。

第1回 8月20日(金)～22日(日)

第2回 3月25日(金)～27日(日)

2) 結果

第1回調査では68枚、第2回調査では188枚のアンケートが集まった。

来館回数：夏、春ともに「はじめて」の割合が最も高かった。夏の調査では「2回目」と答えた割合が次に多かったが、春の調査では例年と同じく「4回目以上」と答えた割合が2番目に多く、一定数のリピーターが来館していることがわかった。

情報源：夏、春ともに「家族・親戚」「友人・知人」からの口コミ情報と、「ホームページ」、「インターネットの情報サイト」の選択割合が高かった。特に春の調査では、はじめて「家族・親戚」を「インターネットの情報サイト」が上回り、これまでで最も高い25.9%の値を示した。

同行者：夏、春ともに「家族と」が約75%と抜きん出て多かった。次いで「友人・知人と」が夏10%、春17%、「ひとりで」が夏7%。春5%という結果になった。

交通手段：夏、春ともに「自家用車」が約90%、「公共交通機関」が約7%と、例年と同様の傾向を示した。

来館目的：例年と同様、「常設展示観覧」の値が最も高く、夏51.5%、春44.7%であった。また「家族や友人との団らんのため」、「余暇を楽しむため」、「学習・教養を深めるため」と回答する来館者の割合が安定して多かった。

滞在時間：例年と同様、「1～2時間」、「2～3時間」と答えた割合が多かった。

満足度：夏の調査では、「非常に満足した」と答えた割合が過去5年間でもっとも高く66.2%であった。春の調査では「非常に満足した」と答えた割合が56.4%で、「満足した」と回答した割合が38.3%であった。

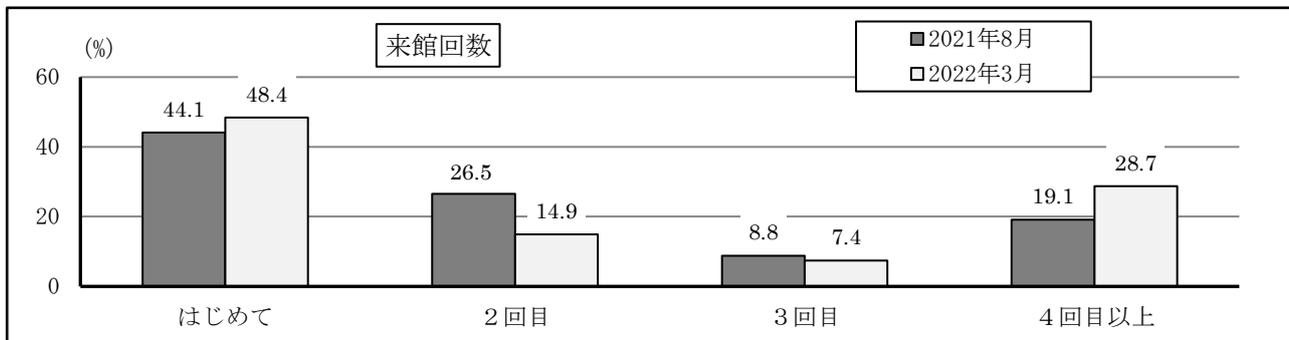
不満に思うこと：不満点として最も多かったのが「予約制」で、夏11.8%、春15.4%の値を示した。これに続いて「交通の便」が夏5.9%、春4.8%であった。夏のアンケートでは、自家用車による移動が難しいと思われる大学生と高齢者の声として、バスの本数の少なさをあげる声が見られた。

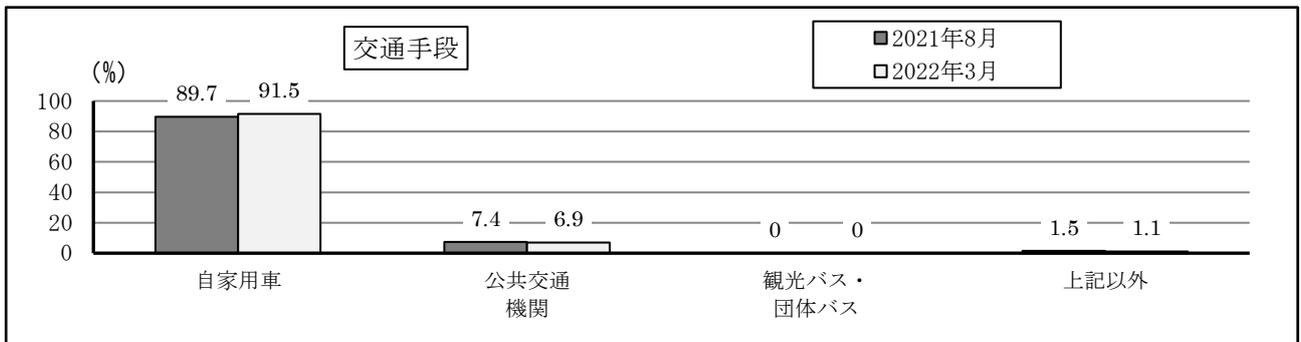
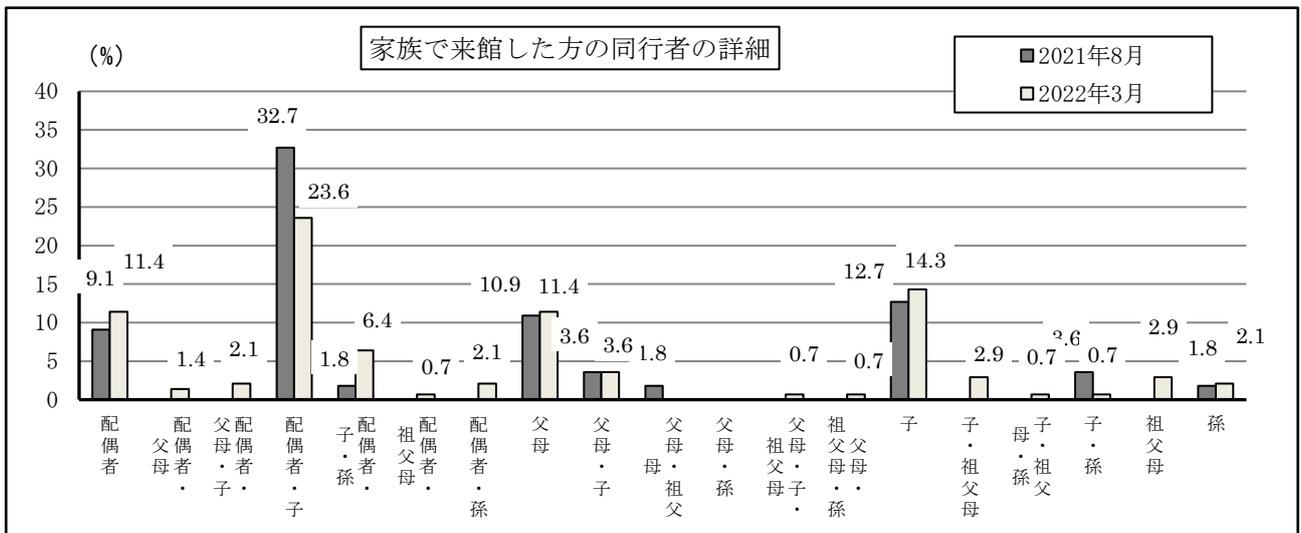
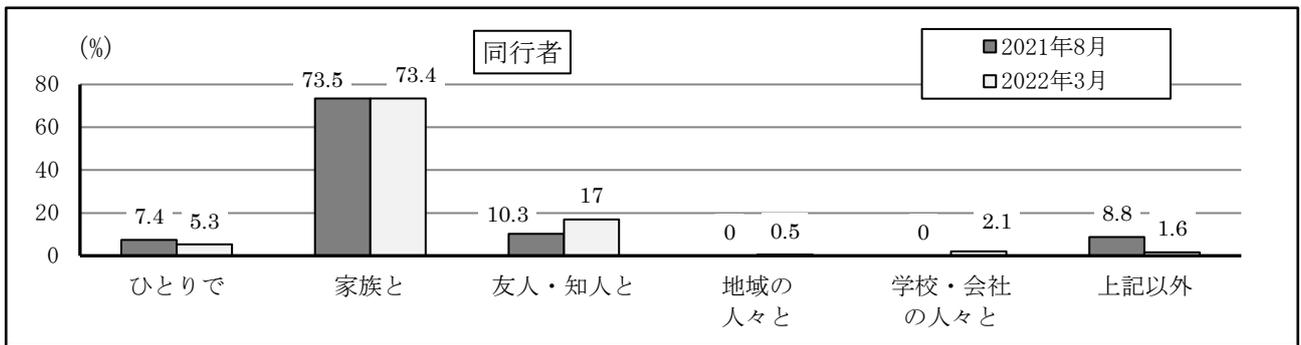
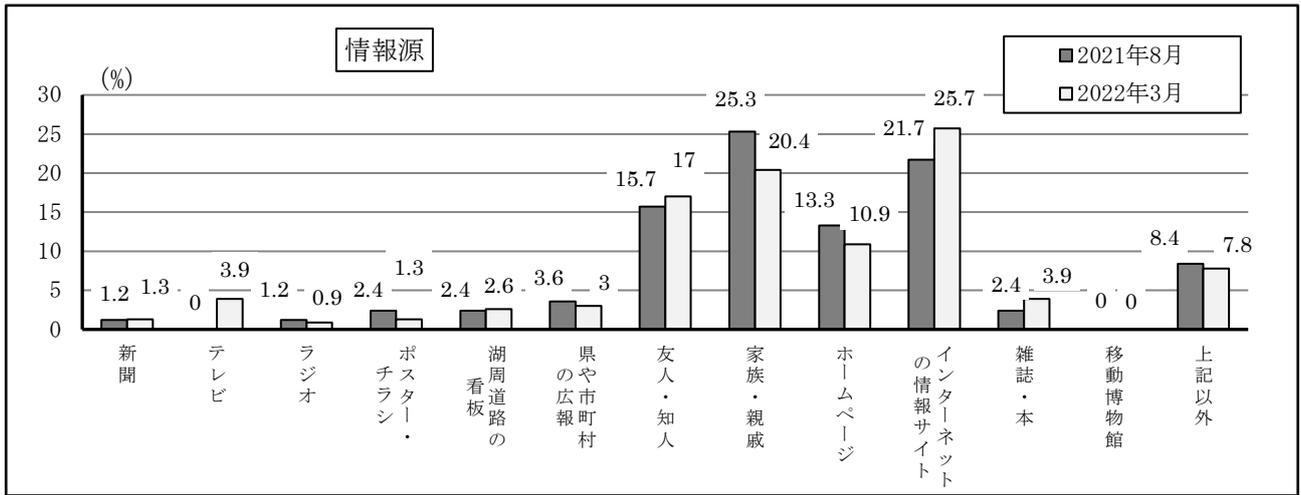
訪問予定：「道の駅」を訪問する予定であると答えた来館者の割合は夏18.2%、春11.6%であった。続いて「水生植物公園みずの森」が夏10.4%、春13.3%と例年同様高い値を示した。これに対し「イオンモール草津」と「ピエリ守山」は、夏、春ともに昨年と比較して減少した。

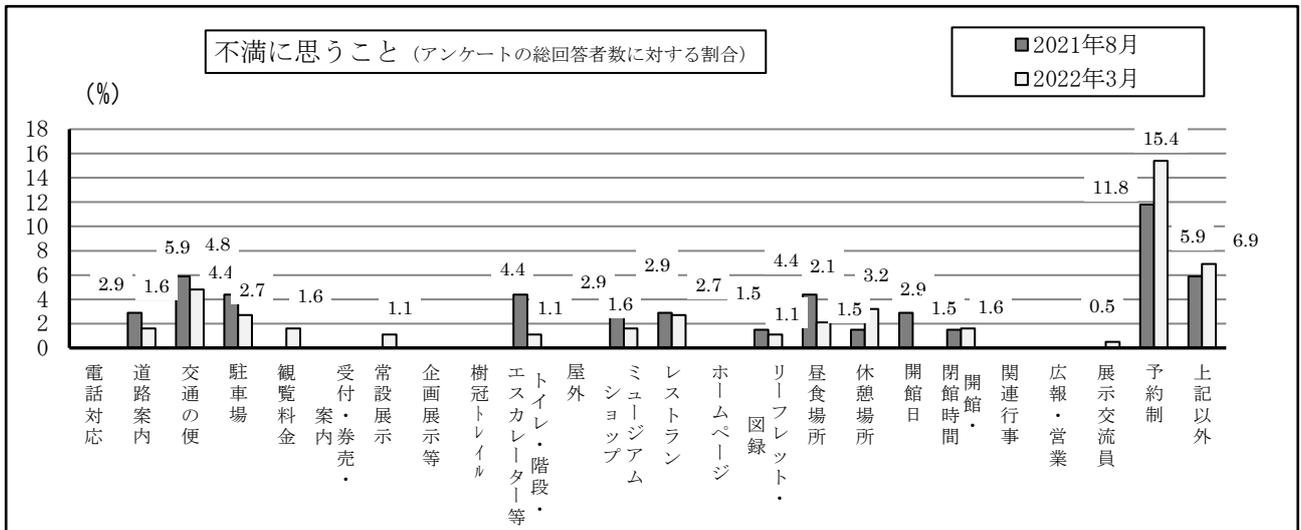
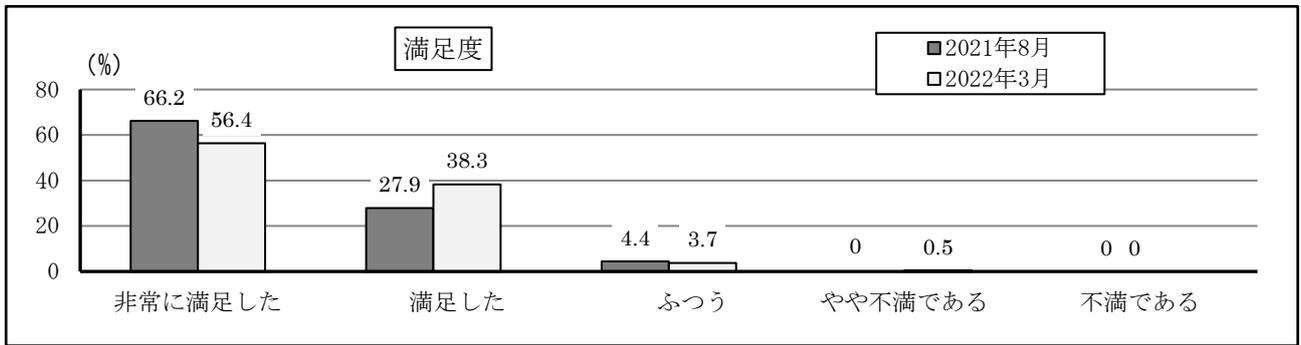
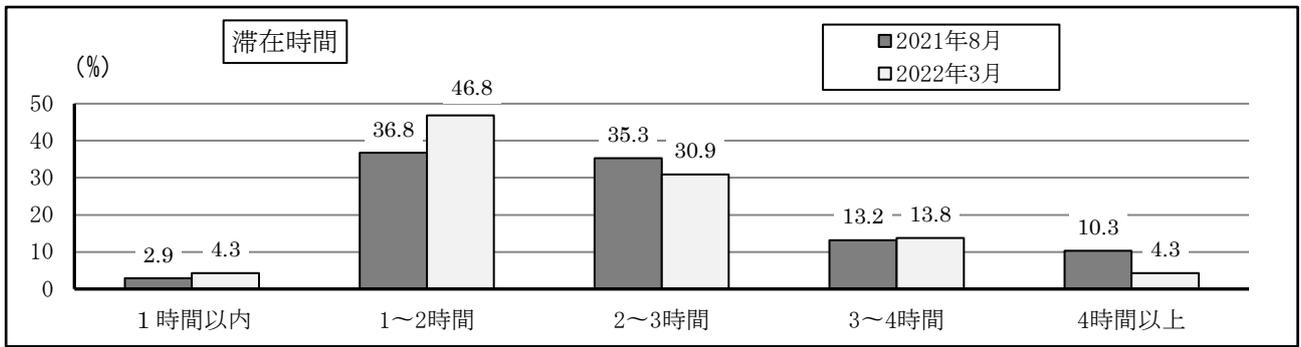
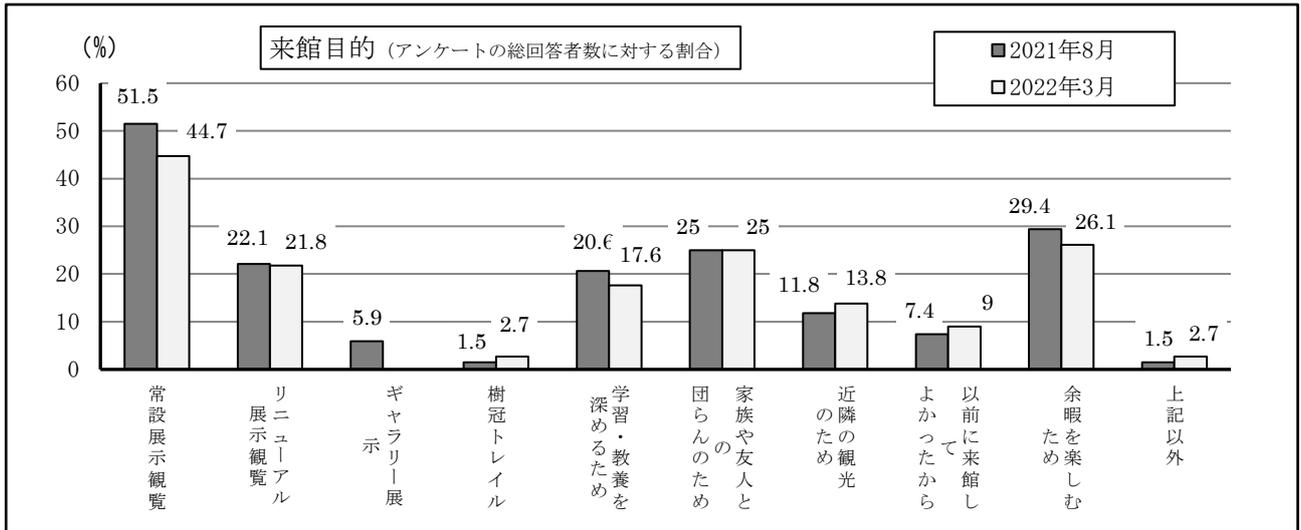
年齢：夏の調査では例年と同様40代が23.5%と最も高く、これに10才未満が16.2%と続いた。親子連れの来館者が子どもと共にアンケートを書いたためと思われる。春の調査では40代が18.6%、30代が15.4%となり、続いて50代が12.2%となった。昨年の春に実施したアンケートでは、60代、70代の割合が新型コロナウイルスの影響により過去5年間で最も低い値を示したが、今回の調査ではやや回復した。

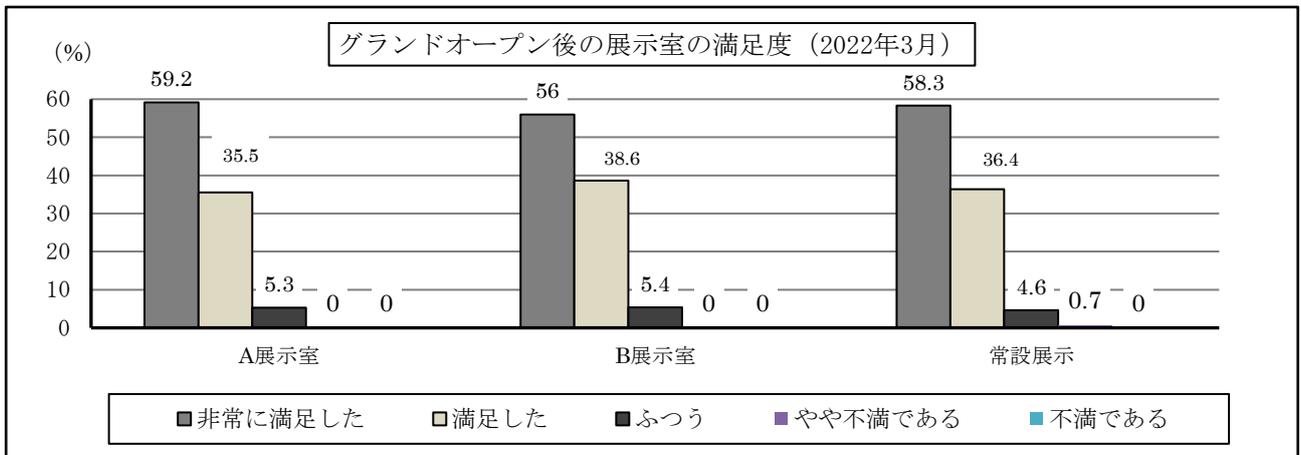
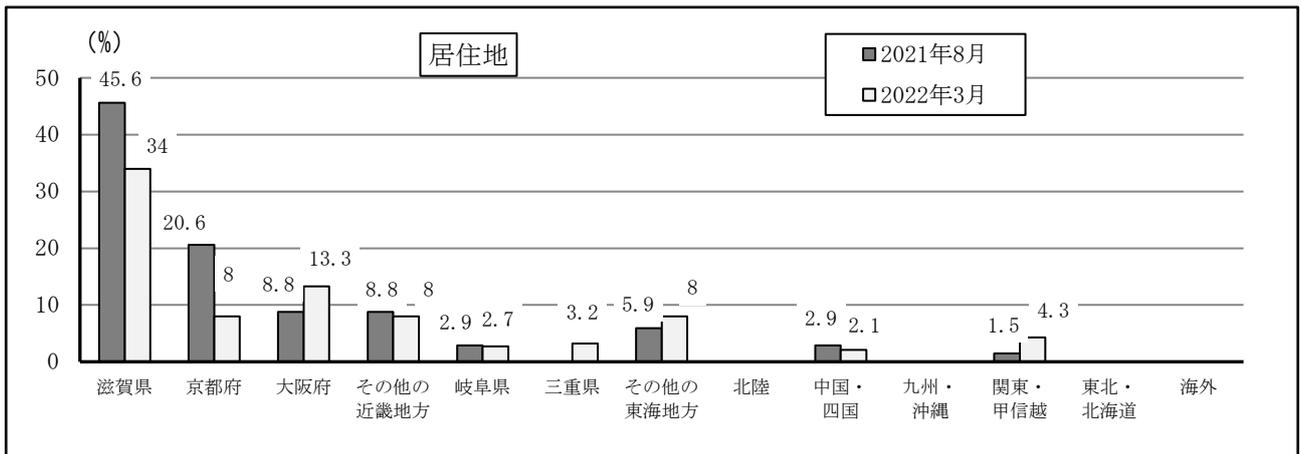
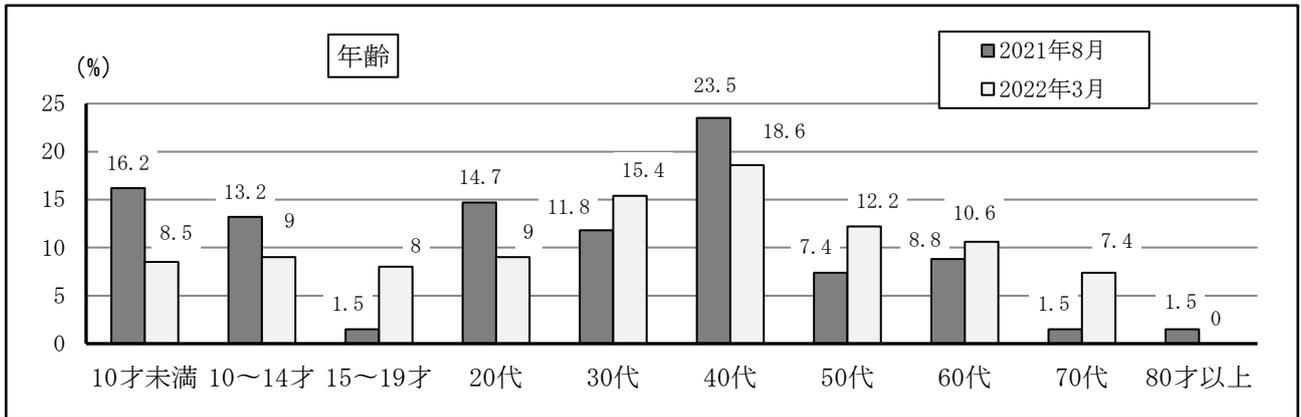
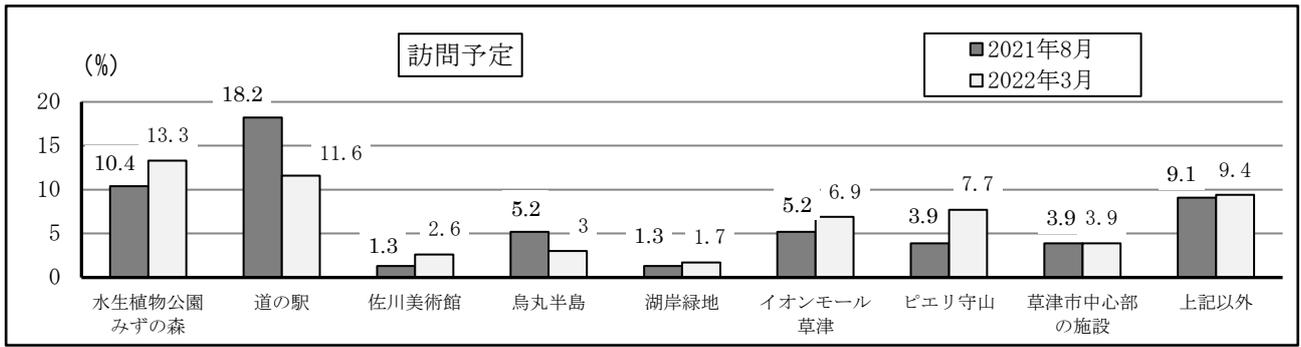
居住地：夏の調査では滋賀県が29.4%と最も高く、次いで京都府が20.6%だった。春の調査では、滋賀県が34%、大阪府が13.3%であり、京都府は8%と夏と比較して大幅に減少した。

(数値は特に断りのない限り、アンケート回答者数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの)



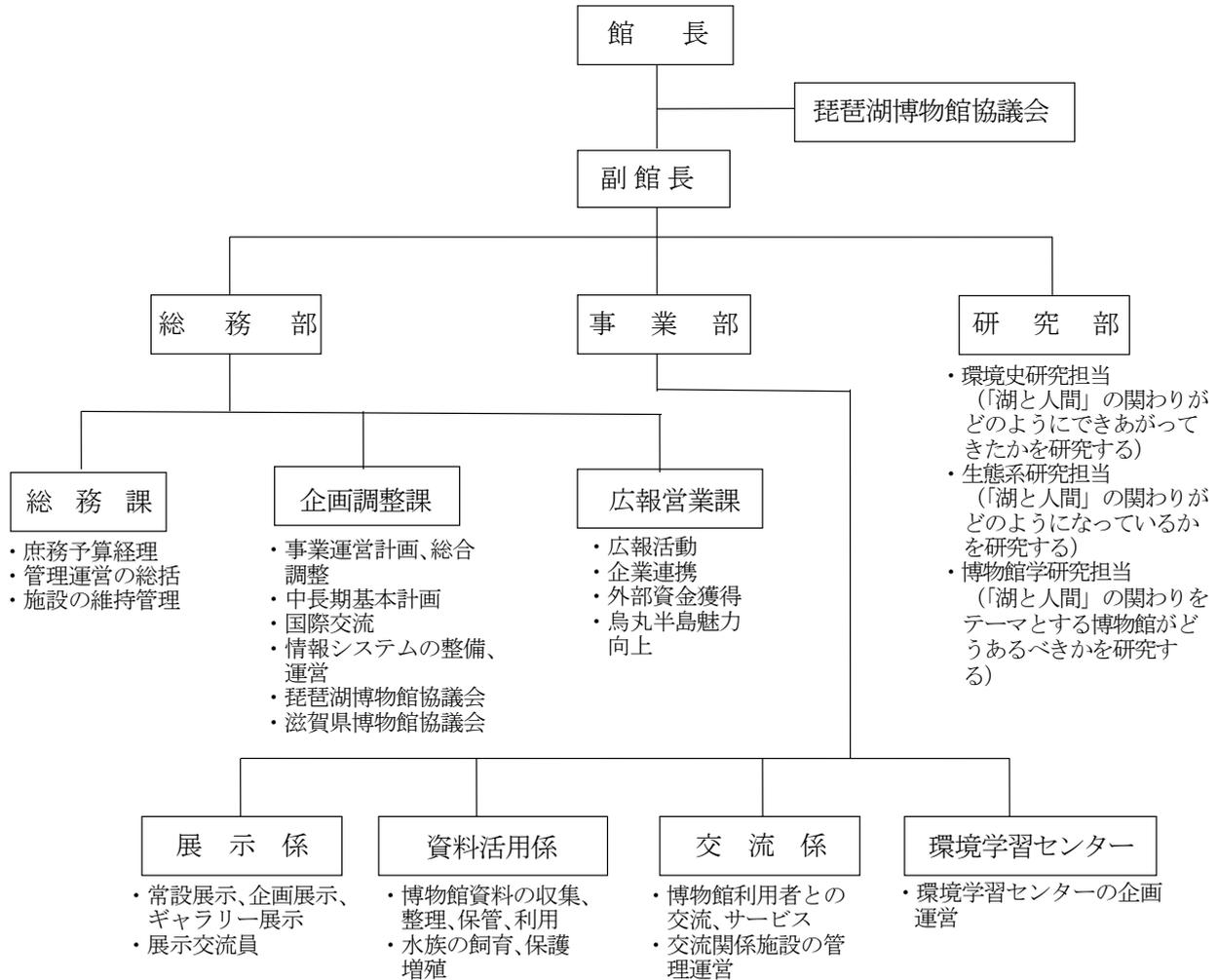






2 柔軟な運営組織

(1) 組織



職員構成 (2021年10月1日現在：兼務・併任職員を含む)

区分	館長	行政職	研究職	教育職	小計	会計年度 任用職員	合計
人数(名)	1	8	29	2	40	26	66

研究職の内訳

区分	学芸	水産	農業土木	土木	林業	合計
人数(名)	25	1	1	1	1	29

(2) 職員

(2021年10月1日現在)

- 館長 高橋 啓一
- 副館長 西村 武
- 上席総括学芸員 山川 千代美
- 上席総括学芸員 亀田 佳代子

総務部

- 部長(事務取扱) 西村 武

◇ 総務課

- 課長 七里 啓史
- 主幹 野崎 茂樹
- 副主幹 井関 知子
- 主査 山岡 まちこ
- 主事 桑田 由紀子

◇ 広報営業課

- 課長(兼) 七里 啓史
- 課長補佐 初宿 文彦
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 福井 ゆめ

事業部

- 部長(兼) 山川 千代美

◇ 展示係

- 係長(兼) 大塚 泰介
- (兼) 戸田 孝
- (兼) 芦谷 美奈子
- (兼) 山中 大輔
- (兼) 大槻 達郎
- (兼) 大久保 実香
- (兼) 米田 一紀
- (兼) 田畑 諒一

◇ 資料活用係

- 係長(兼) 榎永 一宏
- (兼) 橋本 道範
- (兼) 林 竜馬
- (兼) 妹尾 裕介
- (兼) 川瀬 成吾

◇ 企画調整課

- 課長(兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 里口 保文
- 課長補佐(兼) 初宿 文彦
- (兼) ロビン ジェームス スミス
- (兼) 中村 久美子
- (兼) 鈴木 隆仁
- (兼) 島本 多敬
- (兼) 加藤 秀雄

◇ 交流係

- (兼) 八尋 克郎
- 係長(兼) 楊 平
- (兼) 中川 信次
- 主査(併任) 由良 嘉基
- (兼) 金尾 滋史
- (兼) 松岡 由子
- 主査(併任) 安達 克紀
- (兼) 美濃部諭子

◇ 環境学習センター

- 所長(事務取扱) 西村 武
- 主任主事 福井 ゆめ

研 究 部

○部長（兼） 亀田 佳代子

◇ 環境史研究係

係長	総括学芸員	里口 保文
	専門学芸員	橋本 道範
	専門学芸員	楊 平
	主任学芸員	林 竜馬
	主任学芸員	大久保実香
	主任学芸員	妹尾 裕介
	学芸員	田畑 諒一
	学芸員	島本 多敬
	学芸員	加藤 秀雄

◇ 博物館学研究係

係長	総括学芸員	八尋 克郎
	専門学芸員	戸田 孝
	(兼)	由良 嘉基
	主任学芸員	芦谷美奈子
	主任学芸員	金尾 滋史
	主任学芸員	中村久美子
	主任学芸員	松岡 由子
	(兼)	安達 克紀

◇ 生態系研究係

係長	総括学芸員	榊永 一宏
	総括学芸員	芳賀 裕樹
	総括学芸員	大塚 泰介
	専門学芸員	中井 克樹
	専門学芸員	ロビン ジェームス スミス
	主任主査（兼）	中川 信次
	主査（兼）	山中 大輔
	主任学芸員	鈴木 隆仁
	主任学芸員	大槻 達郎
	主任技師	米田 一紀
	主任技師（兼）	美濃部諭子
	学芸員	川瀬 成吾

会計年度任用職員

田中 里美	館長秘書	細川真理子	資料標本整理
菊地さとみ	電話受付・総務事務	山岡 眞澄	資料標本整理
柳田けいこ	電話受付・総務事務	黒田 正伸	資料標本整理
中山 法子	データ整理・刊行物	塩谷えみ子	交流事業
後藤 真帆	イベント情報	堀田 博美	交流事業
横山 泰史	広報・集客	植村 隆司	学校学習
北浦 孝雄	企業連携	高木 成美	図書資料整理
高田千都子	広報発信	中西美智子	図書資料整理
中川 優	屋外展示運営	片岡のぶみ	図書資料整理
徳本 智美	展示室運営	鵜飼 菜香	環境学習
高部 千裕	展示室運営	鷺見満智子	環境学習
高石 清治	展示物維持補修	武政 廣文	環境学習
小山 勝	資料標本整理	平野 文子	研究庶務

名誉館長

川那部 浩哉 篠原 徹

特別研究員

天野 一葉 池田 勝 今井 一郎 岩木 真穂 柏尾 珠紀 北村 美香 楠岡 泰
 鈴木 真裕 辻川 智代 寺本 憲之 中野 聰志 中野 正俊 根来 健 廣石 伸互
 藤岡 康弘 山本 充孝 柏谷 健二 草加 伸吾 桑原 雅之 Corey Tyler NOXON
 布谷 知夫 中島 経夫 前畑 政善 用田 政晴 マーク J. グライガー

フィールドレポーター・はしかけ登録者（掲載承諾者のみ）

◇フィールドレポーター (登録者数 195 名(うちスタッフ 8 名))

土金 慧子 楠岡 泰 松田 道一 辻 いずみ 椛島 昭紘 小野 麻代 松本 勉
 矢野 典子 前田 雅子 中島いずみ 熊谷 明生 熊谷 明美 宇野 啓明 保科 秀行
 保科 雅子 保科 政秀 保科 明俊 山田美智子 奥村 恵子 武田 滋 中野 敬二
 矢野 修 矢野としこ 土生 陽子 山本 篤 小篠 伸二 上田 修三 中場 弘二
 鈴木 正範 松村 順子 吉居 晴美 藤本 昭義 平井 政一 山本皓一郎 和田 至博
 角井 俊明 加藤美由紀 福岡 敏雄 市原 龍 山川 栄樹 山川 侑夏 山川佳那子
 中井 大介 北村 美香 遠藤 吉三 吉本 由花 吉本 瀧侍 吉本 凜花 楠居 里奈
 寺田 誠 前田 博美 後藤 真吾 杉田 薫 宮本 直興 川北 浩史 濱道 秀
 藪内まゆ子 佐々木由巳子 佐々木遼太郎 佐々木亜弥子 寺澤 孝之 青木 環 青木 春乃
 佐々木榮一 立川 直樹 西之園保夫 堀田 修身 堀田 博美 畑中 清司 片山 慈敏
 井野 勝行 中井 民子 谷村 啓子 大橋 義孝 三田村緒佐武 三谷 軌文 福嶋 佳子
 福嶋 啓志 青山 喜博 片岡 庄一 手良村知央 手良村昭子 手良村知功 飯田 俊宏
 岡田宗一郎 岡田 創暉 津田 國史 村上 義信 村上 瞳 筈井 美智子 渡邊 共則
 渡邊 純大 佐野 和子 佐野 隼也 佐野 裕也 八尋 由佳 岡田 徹 穴蔵 雅彦
 北側 忠次 水戸 基博 水戸 涼乃 水戸 涼介 久国 正吉 矢原 功 堀 英輔
 阿部 一広 津田久美子 北川 眞造 松本 隆 坂本 大介 山崎 千晶 小林 隆夫
 西川 俊三 吉野 和夫 山元 祐人 小山 勝 岸田 教敬 大河原秀康 中尾 博行
 江間 瑞恵 杉江ミサ子 井上 修一 山口 瑞彦 今井 洋 柿ノ木未希 柿ノ木理志
 柿ノ木志希乃 柿ノ木唯乃 米田 大樹 向田 直人 佐藤良太郎 尾原 直行 間所 忠昌
 土田 正文 谷口 雅之 西岡 陸 三村 武士 十塚 正治 吉川 秀司 堀江 夏妃
 飯田 隆行 飯田 貞美 青木 重樹 本村 香澄 本村彦太郎 澤田 祐衣 菅原 和宏
 菅原 拓斗 梶元 智子 稲葉光太郎 稲葉 瑞穂 樋口 稔洋 樋口 幸陽 河原 豪
 河原 絵里 上田 洋行 上田 寿絵 上田 朋寛 赤野 洋史 後藤 真帆 成子 邦夫
 早乙女加奈子 河村 寿子 河村 優 三浦 真紀 高橋 伸夫 高橋 良斗 武富 鷹矢
 富田 雅美 坂本 颯太 平井 洋行 中川 信次 服部 朗 宮西 義彦 宮西 範子
 宮西 直希 宮西 優輝 酒向 貴子

◇はしかけ

(登録者数 393名)

楠岡 泰	藤田 成子	山本 阿子	吉成 暁	榎本 真司	湯口 真実	山本真里子
芦田 弘美	松田 道一	辻 いづみ	谷本 正浩	谷本 由美	北田 稔	小野 麻代
戸田 博通	戸田 歌子	中川 優	川田 裕元	川井 久美	川井 彩音	笹生 正則
松本 勉	若代 隆行	若代 智子	石上 三雄	根来 健	松里 香織	松里 凜
矢野 典子	前田 雅子	井上 晴絵	桑垣 瑞	熊谷 明生	熊谷 明美	宇野 啓明
酒井陽一郎	片山 康夫	山田美智子	奥村 恵子	武田 滋	川口 涼	小松 連
松川 郁子	中野 敬二	辻川 智代	中村 一馬	矢野 修	矢野としこ	土生 陽子
小篠 伸二	上田 修三	齊藤 文子	中場 弘二	村山 和夫	樽本 祥子	樽本 直
山野井邦彦	齊藤 眞琴	齊藤眞由美	鈴木 正範	吉居 晴美	一瀬 諭	石田 勉
猪飼 徹	安原 輝	井上 聖花	山本皓一郎	和田 至博	岡 隼斗	加藤美由紀
大沢 果那	柳原 潤	清田 輝夫	福岡 敏雄	西村 有巧	木村 誠二	木村 爽
佐瀬 章男	田中 一茂	市原 龍	石井 千津	山川 栄樹	山川 侑夏	山川佳那子
西川 美喜	中井 大介	北村 美香	遠藤 吉三	小川千奈美	小川 哲仙	平野 文子
吉本 由花	吉本 瀧侍	吉本 凜花	楠居 里奈	前田 博美	後藤 真吾	杉田 薫
吉井 隆	吉岡 伸子	富田久仁枝	宮本 直興	伊東 文彦	伊東 彬良	安井加奈恵
今井沙知子	今井虎ノ介	今井 花	池田 勝	川北 浩史	濱道 秀	石田 未基
村田 博之	藪内まゆ子	竹元 冴矢	近持 照美	佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐々木亜弥子
國分 政子	寺澤 孝之	神谷 悦子	竹谷 満弘	辻 真宏	辻 実沙記	梅澤 正夫
古川まや子	青木 環	青木 春乃	佐々木榮一	立川 直樹	西之園保夫	堀田 修身
堀田 博美	黒柳 信之	堀田 恵子	片山 慈敏	福永 和馬	水谷 智	山田 正樹
山田 恵美	山田 和毅	三田村緒佐武	杉山 國雄	三谷 軌文	川南 仁	福嶋 佳子
福嶋 啓志	青山 喜博	田中 治男	田中 雅也	片岡 庄一	手良村知央	手良村昭子
手良村知功	大堀 忠厚	肥田 嘉文	北野 大輔	島津 心暖	大橋 洋	寺尾 尚純
吉野千栄子	飯田 俊宏	津田美佐子	岡田宗一郎	岡田 創暉	津田 國史	村上 義信
村上 瞳	北村 明子	金山 正之	金山美佐子	北野 英子	佐野 和子	佐野 隼也
佐野 裕也	鈴木 直子	八尋 由佳	岡田 徹	柳原 徳子	山本由里子	穴蔵 雅彦
飯住 達也	水戸 基博	水戸 涼乃	水戸 涼介	山本 道子	大岡 紀彦	深田 元子
久国 正吉	立石 文代	森田 光治	矢原 功	阿部 一広	尾崎 友輔	津田久美子
北川 眞造	大喜のぞみ	田中 喜久	松本 隆	坂本 大介	小林 隆夫	神戸 道典
吉田恵太郎	中山 法子	西川 俊三	徳永 義利	徳永 成美	小西 慎一	小山 勝
岸田 教敬	大河原秀康	中尾 博行	江間 瑞恵	畠山 寿枝	吉野まゆみ	宮崎 猛
宮崎 真	宮崎 晴香	宮崎 哲	井上 修一	百木 義忠	山口 瑞彦	中島 財
今井 洋	遠藤 浩子	山本 藤樹	柿ノ木未希	柿ノ木理志	柿ノ木志希乃	柿ノ木唯乃
宇野 翔	米田 大樹	向田 直人	綺田万紀子	川村 絵美	川村 実愛	川村 郁人
川村 梓月	荒川 忠彦	尾原 直行	長 昭男	福野 憲二	三輪 祐子	関谷 和久
間所 忠昌	南 和美	谷口 雅之	高田 昌彦	西岡 陸	中西 寛子	中西 春陽
中西 優一	佐々木信幸	佐々木則子	佐々木満保	佐々木幹朗	佐々木結衣	武田 広志
澤田 知之	西村 義隆	三村 武士	服部 圭治	十塚 正治	渡辺圭一郎	吉川 秀司
堀江 夏妃	山中 裕子	木下多津江	飯田 隆行	飯田 貞美	吉田 達矢	吉田 範香
富 小由紀	中村 聡一	岩西紗江子	納屋内高史	大橋 正敏	澤田 祐衣	菅原 和宏
菅原 拓斗	稲葉光太郎	稲葉 瑞穂	高垣 重和	坪井 一代	坪井 修生	岡谷 崇宏
樋口 稔洋	樋口 幸陽	河原 豪	河原 絵里	内貴 弓子	内貴 乃生	内貴 史乃

内貴 律	徳本 智美	上田 洋行	上田 寿絵	上田 朋寛	赤野 洋史	後藤 真帆
小松原正志	成子 邦夫	西坂 一成	早乙女加奈子	大橋 美幸	北村 純平	飯村 尚之
北川 有子	北川 暖花	河村 寿子	河村 優	松田 征也	杉本 晴香	鈴木 崇大
三浦 真紀	安藤明日佳	安藤 瑚智	南條花菜子	安川 浩史	高橋 伸夫	高橋 良斗
長田 忠	武富 鷹矢	吉崎 早苗	富田 雅美	井ノ口昭雄	坂本 颯太	辻田 航
藤野 拓斗	小堀 大智	力石 深蘭	中川 信次	中川 歩	中川 柚葉	服部 朗
宮西 義彦	宮西 範子	宮西 直希	宮西 優輝	松田 明子	河原 滢	酒向 貴子

3 社会的支援と新しい経営

(1) 利用状況 (2021 年度入館者数)

1) 総入館者数

期 間： 2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

合 計： 278,961 人

開館日数： 271 日

一日平均： 1,029 人

月 平均： 23,247 人

入館者区分別内訳

区分	個人 (人)	団体 (人)	合計 (人)	構成比 (%)
未就学児	51,846	278	52,124	18.7
小学生・中学生	35,491	37,680	73,171	26.2
高校生・大学生	8,776	3,839	12,615	4.5
一般	133,154	7,897	141,051	50.6
合計	229,267	49,694	278,961	100.0

年 月	開館日数	有料入館 (人)				無料入館 (人)									総計 (人)	1日当り平均 (人)
		一般	高大学生	小中学生 (企画展示)	有料計	65歳以上	障害者	家族ふれあい サンデー	体験学習	こどもの日	学校行事	小中学生	その他	無料計		
2021.4	25	7,274	667	0	7,941	636	472	733	9	0	552	4,094	6,533	13,029	20,970	839
5	17	4,593	421	0	5,014	234	256	622	7	0	106	2,474	3,894	7,593	12,607	742
6	26	7,770	708	0	8,478	408	398	661	11	0	152	4,509	6,262	12,401	20,879	803
7	29	13,225	1,061	745	15,031	816	897	648	17	0	219	6,001	10,172	18,778	33,801	1,166
8	25	13,308	1,576	1,470	16,354	823	1,030	546	22	0	84	7,037	8,843	18,384	34,739	1,390
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	27	10,429	1,088	725	12,242	834	834	786	14	0	3,952	9,860	8,891	25,171	37,413	1,386
11	25	9,330	1,212	987	11,529	780	669	3,043	8	0	3,795	13,370	8,166	29,831	41,360	1,654
12	23	6,284	1,172	0	7,456	676	433	697	12	0	307	6,545	6,172	14,842	22,298	969
2022.1	21	5,600	572	0	6,172	368	294	423	2	0	55	2,441	5,229	8,812	14,984	714
2	24	6,065	987	0	7,052	324	288	523	6	0	12	1,997	5,858	9,008	16,060	669
3	29	8,750	2,131	0	10,881	699	453	523	8	0	12	3,897	7,377	12,969	23,850	822
計	271	92,628	11,595	3,927	108,150	6,598	6,024	9,205	116	0	9,246	62,225	77,397	170,811	278,961	1,029

2) 学校等入館者数

年 月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総 計	
		学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
2021. 4	全体	0	0	7	1,136	2	542	0	0	2	79	11	1,757
	県内	0	0	1	160	2	542	0	0	2	79	5	781
5	全体	24	1,321	0	0	0	0	0	0	0	0	24	1,321
	県内	24	1,321	0	0	0	0	0	0	0	0	24	1,321
6	全体	25	2,064	5	779	0	0	3	46	1	42	34	2,931
	県内	15	1,049	3	284	0	0	2	39	1	42	21	1,414
7	全体	6	316	9	1,106	5	376	0	0	2	95	22	1,893
	県内	0	0	1	211	2	95	0	0	1	23	4	329
8	全体	2	28	3	56	1	30	0	0	1	21	7	135
	県内	2	28	1	5	0	0	0	0	0	0	3	33
9	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	全体	96	6,516	13	1,385	1	286	9	211	3	120	122	8,518
	県内	54	3,583	3	339	0	0	3	30	0	0	60	3,952
11	全体	113	8,690	21	2,357	9	618	11	166	0	0	154	11,831
	県内	46	3,433	6	556	3	67	8	107	0	0	63	4,163
12	全体	54	4,226	11	775	7	671	7	98	3	59	82	5,829
	県内	27	1,676	5	368	1	118	5	53	0	0	38	2,215
2022. 1	全体	6	487	0	0	2	65	1	11	3	89	12	652
	県内	5	433	0	0	1	24	1	11	2	76	9	544
2	全体	4	245	0	0	0	0	0	0	3	86	7	331
	県内	3	199	0	0	0	0	0	0	1	51	4	250
3	全体	8	545	2	72	2	108	0	0	0	0	12	725
	県内	3	137	1	16	0	0	0	0	0	0	4	153
合計	全体	338	24,438	71	7,666	29	2,696	31	532	18	591	487	35,923
	県内	179	11,859	21	1,939	9	846	19	240	7	271	235	15,155

3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2021.4	6,452	5,033	9,485	20,970
5	4,722	3,631	4,254	12,607
6	6,384	5,956	8,539	20,879
7	9,856	8,343	15,602	33,801
8	7,136	3,963	23,640	34,739
9	0	0	0	0
10	9,560	8,085	19,768	37,413
11	12,311	7,419	21,630	41,360
12	6,922	4,480	10,896	22,298
20212.1	5,952	3,168	5,864	14,984
2	7,923	4,262	3,875	16,060
3	6,797	4,708	12,345	23,850
計	84,015	59,048	135,898	278,961
構成割合	30.1%	21.2%	48.7%	100.0%

(2) 広報PR活動

2021年度は、専門業者に広報業務を委託し、コロナ禍での広報PR活動を展開し、制限下でのメディアアプローチや、デジタル広告、SNSを通じた情報発信、有料広告の掲載（7件）、資料提供（38件）等を行った。その結果、琵琶湖博物館に関連した各種メディアでの取り扱い、テレビ・ラジオ62件、新聞261件、雑誌等73件、インターネット1,254件となった。また公式YouTubeチャンネルの刷新を図り、2月下旬「びわこのちからチャンネル」としてリニューアルした結果、3月末時点で20万回以上の再生回数を記録した。

今後は、第三次中長期基本計画に基づき、博物館の認知度を向上させるため、さらなる広報活動を展開していく必要がある。

1) 有料広告の掲載等

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数
7月1日	『湖国と文化』第176・夏号	B5判	本文中カラー 1/2頁	県内	3,000
9月～3月初旬	『京都観光コンシェルジュ vol.13 秋冬号』	A4判	本文カラー1 頁	京都	14,000
10月1日	『湖国と文化』第177・秋号	B5判	本文中カラー 1/2頁	県内	3,000
11月	東海 Walker 冬号 2022	A4判	目次スペース 下部 1/4 頁	中部	50,000
1月1日	『湖国と文化』第178・冬号	B5判	本文中カラー 1/2頁	県内	3,000
3月上旬	『るるぶ滋賀 びわ湖長浜彦根' 23』	AB判	1/3頁	全国	52,000
3月～	『京都観光コンシェルジュ vol.14 春夏号』	A4判	本文カラー1 頁	京都	14,000

2) 資料提供

	提供日	件名
1	4月28日	【琵琶湖博物館】臨時休館のお知らせ
2	5月7日	琵琶湖博物館に対するご寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します
3	6月4日	滋賀の古墳ブームを先取り!! 滋賀の古墳がわかるイチオシの一冊 琵琶湖博物館ブックレット⑬ 『琵琶湖と古墳～東アジアと日本列島からみる～』を出版しました!
4	6月4日	俳諧・俳句から紐解いた近江の風土を紹介する一冊 琵琶湖博物館ブックレット⑭ 『琵琶湖と俳諧民俗誌－芭蕉と蕪村にみる食と農の世界－』を出版しました!
5	7月7日	「びわこのちから」発見! フォトコンテスト作品募集
6	7月12日	第29回琵琶湖博物館企画展示「湖国の食事(くいじ)」開催のお知らせ
7	7月12日	第29回琵琶湖博物館企画展示「湖国の食事(くいじ)」関連シンポジウム・交流イベント開催のお知らせ
8	8月6日	琵琶湖博物館ディスカバリールームの閉室について
9	8月10日	琵琶湖博物館への御寄附にかかる知事感謝状の贈呈式開催
10	8月17日	彦根市周辺の今昔写真コレクション御寄贈にかかる知事感謝状の贈呈式開催
11	8月26日	【琵琶湖博物館】臨時休館のお知らせ
12	9月3日	琵琶湖の殻を持つアメーバ、ピワコツボカムリが103年ぶりに再記載され、証拠標本が寄贈されました

	提供日	件名
13	9月10日	【琵琶湖博物館】臨時休館延長のお知らせ
14	9月10日	琵琶湖博物館「令和3年度はしかけ登録講座【オンライン】」を開催します
15	9月29日	琵琶湖博物館は10月1日(金)から開館します
16	9月29日	琵琶湖博物館開館25周年記念シンポジウム(オンライン)
17	9月29日	無料展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を導入しました
18	9月29日	福井県年(ねん)縞(こう)博物館との連携事業を実施します
19	10月13日	「琵琶湖博物館を回ってMLGsを見つけよう! ~MLGsってなあに?~」を開催します
20	10月15日	約30年ぶりの記録!! 発見者は長浜市在住の小学生 滋賀県内でコガタノゲンゴロウが発見されました
21	10月15日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します
22	11月1日	「びわこのちから」発見! フォトコンテスト入選作品展開催
23	11月5日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和3年度第1回会議を開催します
24	12月8日	琵琶湖博物館が所蔵する重要文化財の画像等が東京大学のウェブサイトで公開されます
25	12月17日	琵琶湖博物館にサンタクロースがやってくる!
26	12月28日	新年、ディスカバリールームにて「おたからくじ」を実施します
27	1月4日	ギャラリー展示「琵琶湖の虹が映(ば)える理由(わけ)」を開催しています
28	1月12日	滋賀県立琵琶湖博物館 令和3年度新琵琶湖学セミナー
29	1月26日	ギャラリー展示「トンボ100大作戦~滋賀のトンボを救え!」を開催します
30	2月18日	もっと知りたい、びわ湖のこと びわ湖の「ヨシ」っていいね! 草津近鉄にて展示イベントを開催します
31	2月22日	琵琶湖博物館公式Youtubeチャンネルをリニューアルしました ~チャンネル名は「びわこのちからチャンネル」~
32	3月2日	琵琶湖博物館展示案内書「古代湖とともに生きる」の刊行・寄贈にかかる知事感謝状の贈呈式開催
33	3月4日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和3年度第2回会議を開催します
34	3月4日	水族施設の飼育水から絶滅危惧魚類の長いDNA配列の解析に成功
35	3月16日	琵琶湖博物館に対するご寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します
36	3月18日	ギャラリー展示「森へ行こう、森と生きよう。」を開催します
37	3月29日	琵琶湖博物館ブックレット⑮
38	3月30日	「びわこのちからチャンネル」リニューアルから約1か月が経ち大好評 再生回数20万回突破! ~琵琶湖の魅力伝える企画がぞくぞく 外来植物の危険性を伝える動画も29日公開!~

3) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
4/24	「おとな旅あるき旅」 =人気の住みたい街~滋賀・草津の魅力さがし=	館内展示室・樹冠トレイル他	テレビ大阪	金尾滋史 主任学芸員
4/28	BBC ニュース	GW びわ湖岸の駐車場を閉鎖に伴い 県立琵琶湖博物館も期間中閉館	びわ湖放送	中井克樹 専門学芸員
4/29	BBC ニュース	我慢のGW 湖岸の駐車場を閉鎖 県立琵琶湖博物館も29日から臨時休館	びわ湖放送	中井克樹 専門学芸員
5/10	おうみ発 630 ニュース	県立琵琶湖博物館は12日より開館	NHK 天津	中井克樹 専門学芸員

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
5 13	ニュース滋賀いろ	感謝状贈呈式 (株)千商	びわ湖放送	初宿文彦 課長補佐
5 22	「世界・ふしぎ発見！」 一水の都京都とミステリーレイ ク琵琶湖のふしぎー	琵琶湖のふしぎ A・B・水族展示室	TBS テレビ	里口保文 総括学芸員 初宿文彦 課長補佐
5 28	「おとな旅あるき旅」 =人気の住みたい街～滋賀・草 津の魅力さがし=	館内展示・樹冠トレイル他	びわ湖放送	金尾滋史 主任学芸員
6 3	BBC ニュース	フナ寿司江戸時代のレシピを再現	びわ湖放送	橋本道範 専門学芸員
6 15	news every	特定外来生物ナガエツルノゲイト ウ	日本テレビ	中井克樹 専門学芸員
6 25	めざまし 8	外来植物 参考事例で琵琶湖	フジテレビ	中井克樹 専門学芸員
6 28	「うまい！」 (テーマ：ウナギ)	水族展示室・トンネル水槽	NHK 総合	金尾滋史 主任学芸員
7 10	ニュース滋賀いろ	びわ湖の日 40 周年記念シンポジ ウム	びわ湖放送	福井ゆめ 主任主事
7 11	Mr. サンデー	びわ湖の日 40 周年記念シンポジ ウム ココリコ田中「琵琶湖で SDG s 語る	関西テレビ	福井ゆめ 主任主事
7 16	NHK-WORLD JAPAN	乃村工藝社新オフィス紹介で当館 第 3 期リニューアルの写真	NHK-BS1	初宿文彦 課長補佐
7 31	BBC ニュース	企画展示「湖国の食事」・シンポ ジウム	びわ湖放送	大久保実香 学芸員
8 7	しらしがテレビ 「しらしがインフォメーション	企画展示「湖国の食事」	びわ湖放送	大久保実香 学芸員
8 9	ファミリーレストランのめっちゃ うま	企画展示「湖国の食事」	KBS 京都ラジ オ	大久保実香 学芸員
8 24	極上！三ツ星キャンプ	写真提供：「コアユ」	日本テレビ	福井ゆめ 主任主事
8 27	NNN ストレイトニュース	臨時休館	読売テレビ	中井克樹 専門学芸員
8 27	FNN Live News days	臨時休館	フジテレビ	中井克樹 専門学芸員
8 27	ひるおび！	臨時休館	毎日放送	中井克樹 専門学芸員
8 27	キャスト	滋賀での緊急事態宣言特集の中で 琵琶湖博物館も休館	朝日放送	中井克樹 専門学芸員
8 27	おうみ！かわら版（滋賀）	企画展示「湖国の食事」	ZTV	金尾滋史 主任学芸員
9 15	いい福みつけ旅（前編）	展示紹介	奈良テレビ youtube 配信	中井克樹 専門学芸員
9 22	いい福みつけ旅（後編）	展示紹介	奈良テレビ youtube 配信	中井克樹 専門学芸員

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
9 24	おうみ発 630 ナゼシガコーナー	コアユについて	NHK 大津	川瀬成吾 学芸員
10 1	おうみ発 630 ニュース	10/1～開館 企画展示「湖国の食事」	NHK 大津	中井克樹 専門学芸員 大久保実香 学芸員
10 1	ニュース滋賀いろ	10/1～ 開館	びわ湖放送	中井克樹 専門学芸員
10 8	かんさい情報ネット ten.	タンカイザリガニ（駆除と試食） 現地ロケ・解説	読売テレビ	中井克樹 専門学芸員
10 13	おうみ発 630 ニュース	企画展示「湖国の食事」	NHK 大津	大久保実香 学芸員
10 13	おうみ 845 ニュース	企画展示「湖国の食事」	NHK 大津	大久保実香 学芸員
10 19	潜在能力テスト	写真提供：「ゾウリムシ」	フジテレビ	鈴木隆仁 主任学芸員
10 20	おうみ発 630 ニュース	30年ぶり発見「コガタノゲンゴ ロウ」展示	NHK 大津	金尾滋史 主任学芸員
10 21	おうみ 845 ニュース	30年ぶり発見「コガタノゲンゴ ロウ」展示	NHK 大津	金尾滋史 主任学芸員
10 22	“ONE MORNING” Letter for the next (SDGs 関連企画)	琵琶湖博物館と MLGs	FM 滋賀(全国 版) TOKYO-FM 全国 35 局ネット	中井克樹 専門学芸員
10 23	しらしがテレビ 「しらしがインフォメーション (お知らせ)」	企画展示開催中 (お知らせ)	びわ湖放送	初宿文彦 課長補佐
10 28	らじるらじる	企画展示「湖国の食事」	NHK ネットラ ジオ	大久保実香 学芸員
11 18	N スタ	琵琶湖の水位低下 写真提供： 「ビワココオナマズ」「ビワマ ス」	TBS テレビ	福井ゆめ 主任主事
11 19	おうみ発 630 ナゼシガコーナー	(視聴者からの質問に答えるコー ナー)ヌートリア/ヒレナガニシキ ゴイ	NHK 大津	中井克樹 専門学芸員
11 25	やさしいニュース	外来植物が水辺を襲う オオバナ ミズキンバエ	テレビ大阪	中井克樹 専門学芸員
12 11	キモイリ (情報番組) お出かけ情報コーナー	館内紹介	KBS 京都テレ ビ	福井ゆめ 主任主事
12 23	おうみ発 630 ニュース	サンタ水槽清掃	NHK 大津	福井ゆめ 主任主事
12 23	おうみ 845 ニュース	サンタ水槽清掃	NHK 大津	福井ゆめ 主任主事
12 23	BBC ニュース	サンタ水槽清掃	びわ湖放送	福井ゆめ 主任主事
12 25	ロザンのびわQ 第3回小学生ク イズ王選手権	クイズ素材の撮影	びわ湖放送	中井克樹 専門学芸員

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
12月26日 27日	KANSAI DEEPER (関西在住外国人によるトーク番組)	大阪万博を前に、近畿6府県に住む外国人が地域の魅力を紹介の中で博物館紹介	NHK-world (HPによるライブ放送)	中井克樹 専門学芸員
1月8日	BBC ニュース	ギャラリー展「琵琶湖の虹が映える理由」びわ湖の物理現象を学ぼう	びわ湖放送	戸田孝 専門学芸員
1月11日	Free Studio	草津出身の UVERworld 出演博物館のイメージ写真	毎日放送	中井克樹 専門学芸員
2月9日	BBC ニュース	琵琶湖博物館でトンボ展	びわ湖放送	八尋克郎 総括学芸員
2月9日	ラフ&フィッシュ	琵琶湖博物館の紹介	ひかり TV	中井克樹 専門学芸員
2月18日	勇さんのびわ湖カンパニー	伴ちゃん洋ちゃんのさすらい珍道中	びわ湖放送	中井克樹 専門学芸員
2月21日	勇さんのびわ湖カンパニー	伴ちゃん洋ちゃんのさすらい珍道中	びわ湖放送	中井克樹 専門学芸員
2月24日	おうみ発 630 ニュース	ギャラリー展「琵琶湖の虹が映(ば)える理由(わけ)」の紹介	NHK 大津	戸田孝 専門学芸員
3月1日	おうみ発 630 ニュース そらしがコーナー	おうちミュージアム「タンポポの種類を調べてみよう！」の紹介	NHK 大津	芦谷美奈子 主任学芸員
3月14日	ココイロ (滋賀草津市①)	琵琶湖博物館全体紹介	朝日放送	中井克樹 専門学芸員
2月28日	おうみ 845 ニュース	ギャラリー展「琵琶湖の虹が映(ば)える理由(わけ)」の紹介	NHK 大津	戸田孝 専門学芸員
3月1日	おはよう関西	ギャラリー展「琵琶湖の虹が映(ば)える理由(わけ)」の紹介	NHK 大津	戸田孝 専門学芸員
3月7日	BBC ニュース	川魚屋 フナのジョキ	びわ湖放送	金尾滋史 主任学芸員
3月16日	グッドサイン	琵琶湖博物館の施設・展示紹介(春の観光地として)	びわ湖放送	中井克樹 専門学芸員
3月18日	おうみ発 630 ナゼシガコーナー (総集編)	コアユについて	NHK 大津	川瀬成吾 学芸員
3月20日	BBC ニュース	「全国植樹祭」まで77日 ギャラリー展「もりへ行こう、森と生きよう。」の紹介	びわ湖放送	美濃部諭子 主任技師
3月	銀シャリ橋本の〇〇WORLD	琵琶湖特集、琵琶湖博物館の取材をもとに紹介	eo 光チャンネル	中井克樹 専門学芸員

4) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	10	琵琶湖博物館 オムロン・平安神宮と連携 イチモンジタナゴ保全へ	中日新聞
4	10	[湖岸より]<396>明治初期の村の地図をさぐる 島本多数学芸員	中日新聞
4	13	[びわ博こだわり展示の裏話]<80>かつての屋外展示主役「生態観察池」外来種問題の課題背後に 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
4	18	[琵琶湖の魚たち]スナヤツメ 8つの目が名前の由来 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
4	19	[ニュースの門@滋賀]外来種 食べて使って有効活用 琵琶湖博物館のレストラン「にほのうみ」でバス天井が人気 担当者のコメント	読売新聞
4	20	琵琶湖システムご紹介 ジオラマなど琵琶湖博物館で展示 担当者のコメント	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	22	[遊・You・友]ギャラリー展 知っていますか？日本農業遺産「琵琶湖システム」展示案内	朝日新聞
4	23	[ニュースの門@滋賀]外来種 「悪者」生んだ背景知って 中井克樹専門学芸員の話	読売新聞
4	23	[びわ博からフィールドへ]〈1〉琵琶湖へ出かけよう 自転車旅で多様性実感 芳賀裕樹総括学芸員	京都新聞
4	24	[湖岸より]〈397〉魚が遡上する田んぼの過去・現在・未来 金尾滋史主任学芸員	中日新聞
4	26	琵琶湖と古墳の関係性は 神戸学院大・用田政晴教授（琵琶湖博物館名誉学芸員・特別研究員）ブックレット「琵琶湖と古墳～東アジアと日本列島からみる」を出版	中日新聞
4	27	[びわ博こだわり展示の裏話]〈81〉さわれないからこそ展示にひと工夫を 新たな発見楽しんで 大槻達郎主任学芸員	毎日新聞
4	29	県、湖岸駐車場を全面閉鎖 11日まで64か所琵琶博も休館	読売新聞
4	29	草津・みずの森や琵琶博など休業	毎日新聞
4	29	琵琶湖岸の駐車場さようから閉鎖 琵琶湖博物館も閉鎖	産経新聞
4	29	琵琶湖岸駐車場一斉閉鎖 滋賀県コロナ対策 琵琶湖博物館も来館者の6割が県外として臨時休館	京都新聞
4	29	湖岸の駐車場、県も閉鎖 琵琶湖博物館も臨時閉鎖	中日新聞
4	29	湖岸の駐車場を閉鎖 県営64ヶ所来月11日まで 烏丸半島の市道を閉鎖	朝日新聞
4	30	連休初日湖岸閑散と 駐車場閉鎖図書館や恐竜展人気 琵琶湖博物館では烏丸半島の入口が封鎖	読売新聞
5	1	[湖岸より]〈398〉珍しい化石貝形虫 ロビン・スミス専門学芸員	中日新聞
5	11	[びわ博こだわり展示の裏話]〈82〉来館者と博物館コロナから守るため 二つの視点で展示に工夫 芦谷美奈子主任学芸員	毎日新聞
5	11	県独自の緊急宣言検討 湖岸閉鎖は当面継続 琵琶湖博物館は予約制で12日から再開	京都新聞
5	11	県独自の「宣言」を検討 対策会議湖岸駐車場閉鎖も延長 琵琶湖博物館は事前予約制で再開	毎日新聞
5	12	湖岸駐車場の閉鎖草津市なども継続 琵琶湖博物館の再開に合わせ水生植物公園みずの森も12日から開園	京都新聞
5	14	[びわ博からフィールドへ]〈2〉ヨシ原に入ってみよう 芦谷美奈子主任学芸員	京都新聞
5	15	[湖岸より]〈399〉琵琶湖岸砂浜にすむ昆虫 八尋克郎総括学芸員	中日新聞
5	18	完全脱プラのカフェ、でも 「売りにほしくない」狙いは？草津 琵琶湖博物館のすぐ近くの「CAFÉ REED」	朝日新聞
5	19	琵琶湖死体遺棄事件 清掃ボラがケース発見 戸田孝専門学芸員のコメント	中日新聞
5	23	[琵琶湖の魚たち]似てるけど違う魚だよ アブラハヤとタカハヤ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
5	23	[近江文化財かるた]〈82〉琵琶湖の水中遺跡 琵琶湖博物館ではそのほかにも県内の水中遺跡に関する展示がされています	京都新聞
5	24	琵琶湖スーツケース遺体発見1週間 戸田孝専門学芸員のコメント	京都新聞
5	25	[びわ博こだわり展示の裏話]〈83〉学芸員の趣味も展示の一部 マニア心燃えるこだわり 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
5	28	[びわ博からフィールドへ]〈3〉田んぼへ ～フナの子はミジンコの脅威 20倍のジオラマで表現 大塚泰介総括学芸員	京都新聞
5	29	[湖岸より]〈400〉DNAからみた日本のナマズの現状 田畑諒一学芸員	中日新聞
5	30	琵琶湖システム体感して 琵琶博ジオラマや漁具	読売新聞
6	4	[情報ちゅーぶ]琵琶湖博物館で琵琶湖システムを紹介	中日新聞 (三重)
6	8	[びわ博こだわり展示の裏話]〈84〉バイカル湖の不思議な水中景観 緑色、カイメンの正体は？ 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
6	10	真っ白！ギンリョウソウ 琵琶湖博物館の話	読売新聞
6	11	[びわ博からフィールドへ]〈4〉川へ～ピワマスを戻すプロジェクト この活動を琵琶湖博物館C展示室「川から森へ」コーナーの最後で紹介	京都新聞
6	12	[湖岸より]〈401〉琵琶湖の魚の研究-そのアケボノ 川瀬成吾学芸員	中日新聞
6	13	[よし笛]時代、地域の記憶を記録 北村美香特別研究員	京都新聞
6	15	水田は魚のゆりかご 常盤小 生物観察など体験学習 長田智生水族飼育員が解説	中日新聞
6	19	環境に優しい「すとりーている」琵琶湖博物館ミュージアムショップなどで販売中	毎日新聞
6	20	[琵琶湖の魚たち]琵琶湖の膳所にいる魚？ 川瀬成吾学芸員	産経新聞
6	22	[びわ博こだわり展示の裏話]〈85〉朽ちていくカタツムリの殻 薄皮はがれて真っ白に 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
6	22	知事と西川さん対談生配信 1日「びわ湖の日」40年イベント ココリコ田中さんシンポも 琵琶湖博物館ホールで開催	京都新聞
6	23	びわ湖の日40周年記念シンポ 来月11日ココリコ・田中さんら招き 琵琶湖博物館ホールで開催	朝日新聞
6	23	来月1日「びわ湖の日」40周年 各地で企画、行事 琵琶湖博物館では40周年記念シンポジウムを開催	中日新聞
6	25	[びわ博からフィールドへ]〈5〉生き物コレクション ～「トンボの宝庫」の今 琵琶湖博物館C展示室では滋賀県の生き物の多様性を紹介 滋賀トンボ調査グループ河瀬直幹氏	京都新聞
6	26	[湖岸より]〈402〉水草の花見のススメ 芦谷美奈子主任学芸員	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
6	26	[フロンティア]琵琶湖を知り発信する場に 地域に普段使いしてもらえる施設にしたい 湖国のキーパーソン高橋啓一館長	京都新聞
6	27	西川貴教さん×三日月知事 びわ湖の日対談生配信 11日は琵琶湖博物館ホールで開かれる記念シンポジウムでは「コリコ」の田中直樹さんと気象予報士の片平敦さんが基調講演	産経新聞
7	6	[びわ博こだわり展示の裏話]<86>ビデオで見る世界の湖の一日 現地の様子ありありと 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
7	7	特定外来水生植物ナガエツルノゲイトウ 高島の湖岸で駆除作業 中井克樹専門学芸員の話	京都新聞
7	7	琵琶湖全景や鯖街道、琵琶湖博物館などを題材にした鳥瞰図を葵画房がコラボしが21で展示	中日新聞
7	9	[びわ博からフィールドへ]<6>生き物コレクション ～オオセンチコガネの色彩変異 近畿地方には三つの色彩 八尋克郎総括学芸員	京都新聞
7	10	[湖岸より]<403>湖国で受け継がれる豊かな伝統食 大久保実香主任学芸員	中日新聞
7	11	[琵琶湖と生きる]水草使いガラス作品制作作家の神永さんの作品「琵琶湖彩」は琵琶湖博物館と黒壁スクエアで販売	中日新聞
7	13	「びわ湖の日」40周年記念シンポ「生物守る＝未来も」コリコ田中さんから講演 7月1日に琵琶湖博物館で開催	毎日新聞
7	13	自然環境理解深める 「びわ湖の日」40周年記念シンポ、琵琶湖博物館で開催	京都新聞
7	13	湖保全へ「博士」ら行動目標を掲げる びわ湖の日シンポ 琵琶湖博物館で開催	中日新聞
7	15	[遊・You・友]企画展関連シンポジウム「未来を醸す～湖国の食事文化～」開催案内	朝日新聞
7	18	[琵琶湖の魚たち]カラフルな夏といぶし銀の冬 オイカワ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
7	20	[びわ博こだわり展示の裏話]<87>琵琶湖の地層今昔物語 生い立ち美術展の趣で 里口保文総括学芸員	毎日新聞
7	23	[びわ博からフィールドへ]<7>森へ ～カワウと人とのさまざまな関わり 「糞」で竹生島の森が衰退 亀田佳代子上席総括学芸員	京都新聞
7	24	[湖岸より]<404>湖魚料理を支える水産 米田一紀主任技師	中日新聞
7	26	[キラリ近江びと]生態の研究に夢中 琵琶湖博物館に毎日通う「滋賀のお魚博士」黒川琉伊さん	中日新聞
7	31	[湖岸より]<405>いまとは違った江戸時代のふなずし 橋本道範専門学芸員	中日新聞
8	1	琵琶湖博物館企画展「湖国の食事」多様な食文化工夫を知って 大塚泰介総括学芸員の話 伝統食の意義継承などかたるシンポ「未来を醸す」	中日新聞
8	1	琵琶湖汽船と琵琶湖博物館コラボ ARやクイズで湖魚学ぼう	中日新聞
8	1	[美術館・博物館]琵琶湖博物館の紹介	中日新聞(びわこ新聞)
8	3	[びわ博こだわり展示の裏話]<88>森をつくる工場の風景 壁面の「はげ山」細部まで 島本多敬学芸員	毎日新聞
8	4	草津・守山市が湖岸駐車場閉鎖 琵琶湖博物館や水生植物公園みずの森がある烏丸半島ないの市道もコーンを設置し路上駐車防止	京都新聞
8	5	滋賀県中学生水の作文コンクール ヨシから見た琵琶湖の環境 コクヨと琵琶湖博物館が製品の共同開発・環境こうけんへの市場の創造	京都新聞
8	5	夏休み限定ミシガン AR水槽など新企画 琵琶湖汽船が琵琶湖博物館と連携 遊覧船「ミシガン」を運航	京都新聞
8	6	草津・高島市も湖岸駐車場閉鎖 琵琶湖博物館周辺の市道もコーンを設置し路上駐車防止	読売新聞
8	6	湖国のトンボたくさん 伊吹薬草の里でパネル展示 琵琶湖博物館で開催していた展示会を知ったセンターのスタッフが生物多様性びわ湖ネットワークに依頼	中日新聞
8	6	びわ湖の日40周年 企画展示「湖国の食事(くいじ)」の紹介	日本経済新聞
8	9	県内13市「まん延防止」スタート 観光地や施設人出減らず 琵琶湖博物館では大きなキャンセルなどはなく展示を楽しむ姿が見られた	京都新聞
8	10	全国植樹祭22年6月5日開催 琵琶湖博物館など3カ所をサテライト会場とし式典の模様を中継	毎日新聞
8	13	[びわ博からフィールドへ]<8>研究スタジアム ～展示物の背景を知る 現地調査の様子見て 榊永一宏総括学芸員	京都新聞
8	13	[コロナ禍の夏 私の息抜き]④息子と昆虫採集 琵琶湖博物館で働く滋賀むしの会の武田滋さんの話	京都新聞
8	14	[湖岸より]<406>田んぼがやせて泣いている 大塚泰介総括学芸員	中日新聞
8	17	[びわ博こだわり展示の裏話]<89>企画展示「湖国の食事」 台所こそ文化継承の現場 大久保実香主任学芸員	毎日新聞
8	22	[琵琶湖の魚たち]小さな侵略者 カダヤシ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
8	23	湖国の食×祭礼知って 草津の琵琶湖博物館で情報ワイド「まつり」の川島朱実さんが展示 大久保実香主任学芸員のコメント	京都新聞
8	23	各地の料理サンプル展示、食材解説・調理法も「滋賀の食事文化研究会」が設立30周年を記念し、琵琶湖博物館で企画展を共催	京都新聞
8	23	全国植樹祭来年6月開催 県が日程発表カウントダウン開始、ボードを琵琶湖博物館など4箇所を設置	産経新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	26	[美術館・博物館]企画展示「湖国の食事(くいじ)」案内	毎日新聞
8	27	酒類提供店に休業要請 県内全域外出機会の半減求める 琵琶湖博物館など多くの県立施設が期間中の休館を決定	読売新聞
8	27	「宣言」受け 県立学校修学旅行延期 県立施設では琵琶湖博物館は休館	毎日新聞
8	27	[新型コロナ禍と闘う]県全域で酒提供停止要請 きょうから緊急宣言 知事「外出の半減に協力を」琵琶湖博物館や県立美術館など主な県立施設を休館	中日新聞
8	27	県全域で酒提供店休業 今日から緊急事態 追加対策として琵琶湖博物館など公共の集客施設を休館	京都新聞
8	27	[びわ博からフィールドへ]〈9〉みんなで作るフィールド情報～地域を知る 榊永一宏総括学芸員	京都新聞
8	28	学校の対応分かれる 緊急事態宣言で県立施設が閉鎖	読売新聞
8	28	休業、困惑と不安緊急 緊急事態発令 予約制の導入などの工夫をしてきた琵琶湖博物館も9月12日まで休館	産経新聞
8	28	[新型コロナ禍と闘う]学校行事延期、施設休館も緊急事態宣言発令 主な県立施設では休館または開館時間短縮	中日新聞
8	28	[知る防ぐ新型コロナ緊急事態宣言]休業・観光地は閑散 緊急宣言初日の三重、滋賀	中日新聞
8	28	[湖岸より]〈407〉森を枯らす水鳥と森との「共存」 亀田佳代子上席総括学芸員	中日新聞
8	30	琵琶湖と共生 彦根の風景7万点 写真愛好家の大橋さん県に寄贈 県は琵琶湖博物館での研究や展示に活用する方針	中日新聞
8	30	[新型コロナ暮らしの情報]▼主な休場施設 琵琶湖博物館など	京都新聞
8	31	[びわ博こだわり展示の裏話]〈90〉入ってすぐ！びっくり大きな外来種カメ 危ないヤツラじっくり観察 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
9	2	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]カワウ〈1〉生息数数十年で大きく変化 亀田佳代子上席総括学芸員 <写真資料提供：『近江八幡市の伊崎半島で撮影されたカワウ』>	朝日新聞
9	2	琵琶湖で発見「ピワコツボカムリ」103年越し新種登録県水産試験場が保存していた標本を国立科学博物館と琵琶湖博物館に収蔵し正式標本に	毎日新聞
9	5	琵琶湖と生き物太古の姿に驚き 守山で講演 高橋啓一館長が講師	読売新聞
9	5	[よし笛]記憶を紡ぐ一枚 北村美香特別研究員	京都新聞
9	10	[びわ博からフィールドへ]〈10〉私たちの暮らし 水を大切に使うカワヤ 大久保実香主任学芸員	京都新聞
9	11	[湖岸より]〈408〉アオコの不思議な運動 芳賀裕樹総括学芸員	中日新聞
9	11	[新型コロナ禍と闘う]昨年の県内観光客32.6%減 休館した時期もあった県立琵琶湖博物館も客数が大幅減	中日新聞
9	14	[びわ博こだわり展示の裏話]〈91〉日野・信楽院の雲龍図モデルに 架空の生物されど定型妹尾裕介主任学芸員	毎日新聞
9	14	20年県内観光客数3割減 25年ぶり4000万人下回る 県内の観光地ベスト30に毎年ランクインしていた琵琶湖博物館は入らなかった	毎日新聞
9	16	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]カワウ〈2〉環境保全 捕獲の歴史 亀田佳代子上席総括学芸員 <写真資料提供：『近江八幡市の伊崎半島で撮影されたカワウ』>	朝日新聞
9	16	幻の原生生物新種登録 ピワコツボカムリ発表から103年の時を経て	産経新聞
9	24	[びわ博からフィールドへ]〈11〉下流域の魚たち水槽 魚と漁風景 季節で変化 田畑諒一学芸員	京都新聞
9	25	[湖岸より]〈409〉アリに守られる花 大槻達郎主任学芸員	中日新聞
9	26	[琵琶湖の魚たち]新種発表と同時に絶滅危惧種？ヨドゼラ 川瀬成吾学芸員	産経新聞
9	27	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]カワウ〈3〉糞として陸上にモノを供給 亀田佳代子上席総括学芸員 <写真資料提供：『近江八幡市の伊崎半島で撮影されたカワウ』>	朝日新聞
9	27	高島琵琶湖岸 アユ死骸 大量に漂着 産卵終え力尽く「におい気になる」 金尾滋史主任学芸員の話	京都新聞
9	28	[びわ博こだわり展示の裏話]〈92〉目指せフナマスター スケッチで違い明確 食事文化支える「湖魚」 川瀬成吾学芸員	毎日新聞
9	29	ピワコツボカムリ国際登録1918年に琵琶湖で発見単細胞生物 関係者「固有種の地位確立できた」 標本は国立科学博物館と琵琶湖博物館に寄贈	京都新聞
10	1	珍種へビシロマダラ、発見 彦根・荒神山麓 金尾滋史主任学芸員の話	京都新聞
10	4	湖底に積もる年縞「不思議」琵琶湖博物館	読売新聞
10	4	県内行楽地・施設でリフレッシュ 稲刈りに汗流す 琵琶博で農業体験会	京都新聞
10	5	[美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「湖国の食事(くいじ)」)	朝日新聞(夕刊)
10	6	博物館法「登録館」16%だけ 全日本博物館学会会長 布谷知夫名誉学芸員の話	読売新聞
10	8	[びわ博からフィールドへ]〈12〉川魚屋「魚滋」 湖の魚食文化体感して 金尾滋史主任学芸員	京都新聞
10	9	[湖岸より]〈410〉水辺をフル活用 弥生時代の玉づくり 妹尾裕介主任学芸員	中日新聞
10	12	[びわ博こだわり展示の裏話]〈93〉展示ケース1個分の世界に なるべく解きほぐし紹介 島本多敬学芸員	毎日新聞
10	14	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]カワウ〈4〉人との関わり 多様な視点を 亀田佳代子上席総括学芸員	朝日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
10	15	TOYOTA SOCIAL FES!! Presents ～琵琶湖環境学習プロジェクト～ クイズに取り組み琵琶湖の自然を学ぼう！クイズ正解者に抽選で琵琶湖博物館の招待券やグッズをプレゼント 共催：滋賀県立琵琶湖博物館	京都新聞
10	22	[びわ博からフィールドへ]〈13〉古代湖の世界へ 珍しい生態の生き物紹介 松岡由子主任学芸員	京都新聞
10	22	TOYOTA SOCIAL FES!! 2021 滋賀県：琵琶湖環境学習プロジェクト クイズに取り組み琵琶湖の自然を学ぼう！ 共催：滋賀県立琵琶湖博物館	京都新聞
10	23	コガタノゲンゴロウ長浜にいた！32年ぶり県内で確認 小学生天守君が発見 琵琶湖博物館で標本展示 金尾滋史主任学芸員の話	中日新聞
10	23	[湖岸より]〈411〉微小生物の生存戦略 鈴木隆仁主任学芸員	中日新聞
10	28	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]南湖の沈水植物〈1〉水質改善で8割覆うほどに 芳賀裕樹総括学芸員	朝日新聞
10	29	絶滅危惧昆虫 30年ぶり発見 長浜の小学生「見つけた時はドキドキ」琵琶湖博物館で展示 金尾滋史主任学芸員の話	京都新聞
10	30	[湖岸より]〈412〉トウヒが生育する氷期の森 山川千代美上席総括学芸員	中日新聞
11	3	循環復活、多様な生物すみ環境に 滋賀県「魚のゆりかご水田プロジェクト」 「農と自然の研究所」などが10年に発行した「田んぼの生きもの全種リスト」を増補更新する形で琵琶湖博物館が、田んぼとその周辺環境で見られる生き物をリストアップ、データベースを公開	西日本新聞
11	7	[琵琶湖の魚たち]ニゴイとコウライニゴイとつてもそっくり 田畑諒一学芸員	産経新聞
11	7	多様な生き物守ろう 琵琶博 MLGs 親子ら学ぶ	読売新聞
11	8	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]南湖の沈水植物〈2〉増えすぎると厄介者にも 芳賀裕樹総括学芸員	朝日新聞
11	8	湖の環境保全 高校生提言 守山・彦根東メキシコとウェブ会議 琵琶湖博物館近くの主催団体「国際湖沼環境委員会（ILEC）」事務局で開催	読売新聞
11	9	[びわ博こだわり展示の裏話]〈94〉構成を逆の順番に 県の食文化身近に感じて 米田一紀主任技師	毎日新聞
11	11	琵琶湖の保全 親子で学ぶ 草津でMLGs イベント「琵琶湖博物館を回ってMLGsを見つけよう！」	中日新聞
11	11	気候変動 水質の悪化懸念 県と米シガン州共同発表 世界湖沼会議オンラインで開始 琵琶湖博物館の研究者らが参加	中日新聞
11	12	[びわ博からフィールドへ]〈14〉微小生物採れたてを展示 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
11	13	[湖岸より]〈413〉マングローブ林は固有種の宝庫 榎永一宏総括学芸員	中日新聞
11	13	琵琶湖環境学習プロジェクト来月5日開催 共催：滋賀県立琵琶湖博物館	京都新聞（京都）
11	18	琵琶湖渇水の危機 好天14年ぶり低水位 米田一紀主任技師のコメント	読売新聞（夕刊） （高岡/札幌/東京）
11	18	琵琶湖水位じわり低下 マイナス65センチ14年ぶり水準 米田一紀主任技師の話	読売新聞（夕刊） （大阪）
11	18	琵琶湖水位低下深刻 雨降らず14年ぶり水準 米田一紀主任技師の話	読売新聞（夕刊） （福岡）
11	19	[Event & Stage]「びわこのちから」発見！フォトコンテスト入選作品巡回展の案内	読売新聞
11	22	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]南湖の沈水植物〈3〉湖岸農家支えた自給肥料 芳賀裕樹総括学芸員	朝日新聞
11	23	[交遊抄]びつたりの感性 琵琶湖博物館で水環境を研究していたころ度々訪ねた東近江地方で活躍している北川陽子村長との交遊 嘉田由紀子参議院議員元琵琶湖博物館総括学芸員	日本経済新聞（東京、札幌、大阪、福岡、名古屋）
11	23	[びわ博こだわり展示の裏話]〈95〉約30年ぶりコガタノゲンゴロウ 質問きっかけに大発見 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
11	25	[まちかど]「びわこのちから」発見！フォトコンテスト入選作品展示案内	京都新聞
11	26	[びわ博からフィールドへ]〈15〉森ゾーン 湖岸に広がる森と縄文人 妹尾裕介主任学芸員	京都新聞
11	27	[湖岸より]〈414〉水と人とのつながり 楊平主任学芸員	中日新聞
11	27	[ふるさとのたからもの]再注目へ 国お墨付きを アケボノゾウの里（多賀町四手） 高橋啓一館長の話	中日新聞
11	28	[よし笛]色あせない思い出 北村美香特別研究員	京都新聞
12	2	湖岸エリア気軽に観光 守山周辺に定額タクシー 近隣の琵琶湖博物館への移動にも利用できる	京都新聞
12	5	[琵琶湖の魚たち]音を出すナマズギギ 米田一紀主任技師	産経新聞
12	5	[わたシガ名探偵！]琵琶湖の水位低下 どうしたら！？節水や環境 注視が必要 湖岸の動植物への影響について、中井克樹専門学芸員の話	中日新聞
12	6	琵琶湖の水鳥クイズで学ぶ「トヨタソーシャルフェス 琵琶湖環境学習プロジェクト」 琵琶湖博物館 亀田佳代子上席総括学芸員の話	京都新聞
12	6	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]南湖の沈水植物〈4〉過剰繁茂水位の低下と関係？ 芳賀裕樹総括学芸員	朝日新聞
12	7	[びわ博こだわり展示の裏話]〈96〉季節で変わる「下流域の魚たち」水槽 ピワマス王様の貫禄 川瀬成吾学芸員	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
12	8	タクシーでお得に周遊 期間限定 乗降場所 82 カ所琵琶湖博物館など市外施設 2 カ所も含まれる	毎日新聞
12	8	77 年に淡水赤潮大発生した琵琶湖 水質改善も漁獲量減続く 〈写真資料提供：『琵琶湖の固有種ホンモロコの群れ』〉	佐賀新聞
12	10	[びわ博からフィールドへ]〈16〉里ゾーン 自治組織の結束を展示 橋本道範専門学芸員	京都新聞
12	11	[湖岸より]〈415〉琵琶湖の森を育む雪と日本海 林竜馬主任学芸員	中日新聞
12	14	重文「東寺文書」閲覧容易に 琵琶湖博物館と東大史料編纂所 画像ウェブ公開活用に期待	中日新聞
12	19	天然記念物答申に喜び アケボノゾウ化石、多賀で式典 高橋啓一館長のコメント	読売新聞
12	19	[いきもので知る近江の文化財]〈16〉アケボノゾウ化石 多賀標本 琵琶湖博物館では祖先のツダンスキーゾウと並んで展示	京都新聞
12	20	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]琵琶湖の森 100 年史〈1〉湖底の泥に「タイムカプセル」 林竜馬主任学芸員	朝日新聞
12	21	アケボノゾウ大きな誇り 化石標本が天然記念物へ 町立博物館で祝賀式典 高橋啓一館長が祝辞	毎日新聞
12	21	[びわ博こだわり展示の裏話]〈97〉古文書をそのまま伝える 1 点 1 点厳重に管理 橋本道範専門学芸員	毎日新聞
12	24	サンタさんサプライズ 琵琶湖博物館 X マスに	朝日新聞
12	24	水中のサンタにギョギョ 琵琶湖博物館	読売新聞
12	24	水槽からメリークリスマス！	産経新聞
12	24	きれいな水槽 サンタの贈り物 琵琶湖博物館 福井ゆめ主任主事のコメント	中日新聞
12	24	水槽にサンタ 2 年ぶり登場 琵琶湖博物館 担当者のコメント	京都新聞
12	24	[びわ博からフィールドへ]〈17〉湖ゾーン 描かれた名所を歩く 島本多敬学芸員	京都新聞
12	25	[湖岸より]〈416〉大きな目に隠された謎 松岡由子主任学芸員	中日新聞
1	6	家族らくじ引き 館内でお宝探し 県立琵琶湖博物館	読売新聞
1	7	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]琵琶湖の森 100 年史〈2〉人間の影響 花粉化石語る 林竜馬主任学芸員	朝日新聞
1	8	バスで琵琶湖博物館など 4 施設へ→帰りは無料 近江鉄道が催し	朝日新聞
1	11	[美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内（「琵琶湖の虹が映(ば)える理由(わけ)」)	朝日新聞(夕刊)
1	12	メダカ水槽ごとに多様な藻 有効な防除方法検討の手がかりに 琵琶湖博物館・大塚さんと大阪の企業調査	中日新聞
1	12	環境保全「びわ湖の日」40 年 湖の水質は改善したが… 〈写真資料提供：『セタシジミ』『固有種ホンモロコの群れ』〉	信濃毎日新聞(夕刊)
1	13	県試験研究機関 成果を発表 来月 2 日オンライン開催 スウェーデンに眠る琵琶湖産魚類標本(琵琶湖博物館)他	毎日新聞
1	13	東寺文書HPで読める 琵琶湖博物館所蔵重文 全文活字化研究活用に期待 橋本道範専門学芸員の話	読売新聞
1	14	[びわ博からフィールドへ]〈18〉大地の変化 琵琶湖湖底の下の凸凹 里口保文総括学芸員	京都新聞
1	15	琵琶湖の課題解説 22 日から、博物館セミナー	読売新聞
1	15	[湖岸より]〈417〉農山村地域と琵琶湖博物館 中川信次主任主査	中日新聞
1	16	琵琶湖の「なぜ」物理で迫る 虹や環流 草津の博物館解説展示 戸田孝専門学芸員のコメント	読売新聞
1	16	[琵琶湖の魚たち]アユモドキ 湖国での再発見あるか？ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
1	17	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]琵琶湖の森 100 年史〈3〉絵図や文献記す近世の山並み 林竜馬主任学芸員	朝日新聞
1	19	芭蕉と近江関わり紹介 「湖国と文化」冬号発行 琵琶湖博物館名誉館長篠原徹さんの寄稿「芭蕉のふたつの旅」	京都新聞
1	20	[遊・You・友]ギャラリー展示「琵琶湖の虹が映(ば)える理由(わけ)」開催案内	朝日新聞
1	22	予測モデル県独自開発 感染拡大傾向など高精度に モデルは県琵琶湖環境科学センター、県立琵琶湖博物館、県衛生科学センター、県感染症対策課が共同で開発	毎日新聞
1	23	[琵琶湖と生きる]顕微鏡でプランクトン研究 40 年超 一瀬さん 琵琶湖博物館などに行けば誰でも琵琶湖ツボカマリの標本が見られ幻ではなくなった	中日新聞
1	24	重文「東寺文書」ウェブで公開 中世史の基本史料 アクセス簡単に 琵琶湖博物館所蔵の 107 点 橋本道範専門学芸員の話	朝日新聞
1	25	[びわ博こだわり展示の裏話]〈98〉「琵琶湖の虹が映(ば)える理由」立体模型で物理に興味を 戸田孝専門学芸員	毎日新聞
1	25	新型コロナ 病床逼迫度合いを予測 県が数値モデル開発 県琵琶湖環境科学センター、県立琵琶湖博物館、県感染症対策課が共同で研究をはじめ原型を開発	産経新聞
1	28	[びわ博からフィールドへ]〈19〉大地の営み 山歩きで感じる地球の力 高橋啓一館長	京都新聞
1	29	[湖岸より]〈418〉流れ着く軽石が示すこと 里口保文総括学芸員	中日新聞
1	29	琵琶湖の虹、謎解き 発生メカニズムなど説明 草津の琵琶湖博物館で企画展	京都新聞
1	30	マンホールのふた滋賀らしく 琵琶湖流域下水道 50 周年記念井上さんら 4 人優秀賞 琵琶湖博物館で見たピワコオオナマズなどのイラストをデザイン	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
1	31	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]琵琶湖の森 100年史<4>真景図の一本杉 今も力強く 林竜馬主任学芸員	朝日新聞
1	31	江戸時代のふなずし 生ハムのようなだった?古文書から琵琶博で再現実験 真冬に、玄米で、塩切りせず 中心になって再現を進めている橋本道範専門学芸員の話	朝日新聞
2	7	湖国は極楽 トンボを救え 琵琶湖博物館で企画展も 県内7企業連携 環境保全へ大作戦 八尋克郎総括学芸員の話	毎日新聞
2	7	琵琶湖の水質変化研究手法を応用 入院者や病床数予測モデル 県琵琶湖環境科学研究センター、県立琵琶湖博物館、県感染症対策課などの職員のグループが開発	中日新聞
2	8	企業のトンボ保全紹介 琵琶博、県内生息種の写真展示	京都新聞
2	9	東寺文書HPで読める 滋賀琵琶湖博物館蔵重文 全文活字化研究活用に期待 橋本道範専門学芸員の話	読売新聞(京都)
2	10	トンボ守れ!企業の活動 琵琶湖博物館パネル展 「自然の豊かさ感じて」	読売新聞
2	10	[遊・You・友]ギャラリー展示「トンボ100大作戦ー滋賀のトンボを救え!ー」開催案内	朝日新聞
2	10	琵琶湖のプランクトン博士 高浜出身一瀬さん固有種認定へ研究40年超 琵琶湖博物館に標本	日刊県民福井(福井)
2	11	[びわ博からフィールドへ]<20>気候と森の変化 植物化石40万年の変動記録 林竜馬主任学芸員	京都新聞
2	11	[Event & Stage]県獣医師会一般公開講演「琵琶湖博物館にバイカルアザラシがやって来た!」獣医師の松岡由子主任学芸員が講演	読売新聞
2	12	[湖岸より]<419>外来魚との三十余年 中井克樹専門学芸員	中日新聞
2	13	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]絵図からみた明治初期の村の治水<1>流れる水路流末まで詳細に 島本多敬学芸員	朝日新聞
2	13	[琵琶湖の魚たち]琵琶湖から減りつつあるモツゴ 川瀬成吾学芸員	産経新聞
2	15	[びわ博こだわり展示の裏話]<99>日本最大のミジンコ「ノロ」 意外と繊細なモンスター 鈴木隆仁主任学芸員	毎日新聞
2	22	[美術館・博物館]ギャラリー展示「琵琶湖の虹が映(ば)える理由(わけ)」開催案内	朝日新聞(夕刊)
2	23	トンボ100種類生息確認目指せ 琵琶湖博物館環境保護へ調査展示	中日新聞
2	24	小物や環境にヨシ 草津の百貨店保全活動PR催し 琵琶湖博物館が企画	読売新聞
2	25	[Event & Stage]もっと知りたい、びわ湖のこと びわ湖の「ヨシ」っていいね!環境学習センターがヨシを素材にした製品や保全活動の取り組みを紹介	読売新聞
2	25	[びわ博からフィールドへ]<21>地域の人びとによる展示 化石や鉱物多様な標本 里口保文総括学芸員	京都新聞
2	25	[湖岸より]<420>深い学びをつなぐ体験学習 由良嘉基主査	中日新聞
2	27	[よし笛]色あせない思い出 北村美香特別研究員	京都新聞
2	28	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]絵図からみた明治初期の村の治水<2>「石積み」造営土砂との闘い 島本多敬学芸員	朝日新聞
3	1	[びわ博こだわり展示の裏話]<100>琵琶湖冬の季節イベント 自然の芸術「しづき氷」 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
3	1	京都新聞春の紙面紹介 好評連載「びわ博からフィールドへ」はリニューアルし、湖国の魅力発信	京都新聞(京都)
3	3	遮光シート外来植物防げ 草津で県など 枯死させる実験開始 中井克樹専門学芸員のコメント	読売新聞
3	3	[遊・You・友]びわ湖の「ヨシ」っていいね!開催案内	朝日新聞
3	4	生態系や自然学ぼう NPO法人「自然と緑」が受講生募集 琵琶湖博物館などで実習	毎日新聞(大阪)
3	9	写真ふんだん新展示案内書 琵琶湖博物館リニューアル受け発行 高橋啓一館長のコメント	中日新聞
3	9	県、琵琶湖博物館の新たな展示案内書の制作費など助成でニッセイ財団に感謝状	中日新聞
3	10	京都新聞春の紙面紹介 好評連載「びわ博からフィールドへ」はリニューアルし、湖国の魅力発信	京都新聞(京都)
3	11	[びわ博からフィールドへ]<22>おとなのディスカバリー 好奇心刺激、出会いの場 榎永一宏総括学芸員	京都新聞
3	12	[湖岸より]<421>「科学館」とは何か 戸田孝専門学芸員	中日新聞
3	12	[振り返れば未来]<94>命の根っこに田で対面 農民作家山下惣一氏 「田んぼの生きもの調査」を引き継いだ琵琶湖博物館の話	西日本新聞(福岡)
3	13	[琵琶湖の魚たち]琵琶湖に連れてこられたヌマチチブ 田畑諒一学芸員	産経新聞
3	15	[びわ博こだわり展示の裏話]<101>オオクチバスの「変な」産卵場所 枯れ樹好みの理由は? 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
3	15	生態系や自然学ぼう NPO、受講生募集 びわ博などで	毎日新聞
3	17	[ひと往来]アザラシの謎探りたい 松岡由子主任学芸員	京都新聞
3	19	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]絵図からみた明治初期の村の治水<3>洪水から土地を守る石垣と杭 島本多敬学芸員	朝日新聞
3	21	湖国の森と人の関わり紹介 草津、パネルや木製品展示 琵琶湖博物館でギャラリー展「森へ行こう、森と生きよう。」が開催	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
3	22	[キーボード]琵琶湖友好のアザラシ 田畑諒一学芸員のコメント	読売新聞(夕刊)
3	23	第一工業製薬に寄付受け感謝状 琵琶博	京都新聞
3	24	ハッタミミズ情報求む 湖国各地に生息かつて熱冷ましなどに利用 <写真資料提供: 『捕獲されたハッタミミズ』、資料提供: 『ハッタミミズ分布図』>	京都新聞
3	25	[びわ博からフィールドへ]<23>屋外展示 “古代” の森で出会いや発見 琵琶湖博物館はしかけ「森人」代表 福岡敏雄	京都新聞
3	25	希少種傷つけず遺伝情報 イタセンバラ飼育水から解説 琵琶湖博物館など <写真資料提供: 『イタセンバラ』>	読売新聞(夕刊)
3	26	[湖岸より]<422>歴史学としての民俗学 加藤秀雄学芸員	中日新聞
3	28	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより]絵図からみた明治初期の村の治水<4>川と付き合う要所 石提誇張 島本多敬学芸員	朝日新聞

5) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	湖南 琵琶湖と森を楽しむ空中散歩 琵琶湖博物館の紹介	滋賀・びわ湖ニューツーリズム
4	令和2年度新館紹介(リニューアル館含む) 滋賀県立琵琶湖博物館	博物館研究 vol. 56 No. 5 (No. 636号)
4	[琵琶湖センス・オブ・ワンダー]湖と人が織りなす歴史と今(1) 鳥を通してつながる世界と琵琶湖 亀田佳代子 学芸員	湖国と文化 175号 2021年春号
4	週末お出かけ大作戦 びわ湖で遊ぼう 驚きがいろいろ湖を学ぶ 3期6年にわたるリニューアルがついに完成 琵琶湖博物館の紹介	まっぷる 滋賀・びわ湖(長浜・彦根・大津)'21
4	令和3年度前期市民講座一覧(8/21 鶴飼のウミウ野生のカワウ 講師亀田佳代子 学芸員)	長良川うかいミュージアムチラシ
5	第72回全国植樹祭サテライト会場 琵琶湖博物館他2カ所	滋賀プラス1(県広報誌)5・6月号 vol. 191
5	[特集 これからの博物館制度を考える]博物館学と博物館法 布谷知夫三重総合博物館特別顧問・琵琶湖博物館名誉学芸員 「豊かな生きものを育む水田」講座(初級)「ちっちゃな子どもの自然遊び6月」「須原魚のゆりかご水田オンライン観察会」の紹介	博物館研究 vol. 56 No. 6 (No. 637号)
5	オオサンショウウオも「文化財」(No. 162) 琵琶湖博物館で飼育	広報くさつ 5月号 No. 1260
5	「水生植物公園みずの森」と「琵琶湖博物館」の共通券販売	MYセンター通信 2021.5月号 No. 3
5	20年10月 RENEWAL 水中散歩が楽しめる巨大なトンネル水槽 新しくなった湖畔の博物館 琵琶湖博物館の紹介	関西ウォーカー 2021.6月号
5	ナマズの不思議に迫る <写真資料提供: 『イワトコナマス』>	つり人 2021.7月号 No. 901
5	鳥丸エリア 湖と人間の未来を考える 琵琶湖博物館の紹介	びわこくさつ(びわ湖・草津観光ガイドマップ)2021
5	ミュージアムで滋賀ことはじめ 琵琶湖博物館の紹介	(月刊)SAVVY 2021.7月号
6	企画展示「湖国の食事(くいじ)」/ 企画展開連シンポジウム「未来を醸す〜湖国の食事文化〜」「わく知恵さがし・楽しく学びあい講座(8月)」「企画展開連交流イベント「滋賀の食をめぐる大冒険!」」「田んぼ体験(7・9月)」「下物ピオトープ観察会」「マイナス80度から復活した微小生物」「湖探検 琵琶湖に入って生き物をさがそう」の紹介	れいかる(湖国文化情報)7・8月号 vol. 122
6	昨年リニューアル 琵琶湖のすべてを感じられるミュージアムで新しい発見を! 琵琶湖博物館の紹介	JAF MATE 第59巻第5号
6	びわ湖の底を歩いているみたい。琵琶湖博物館の紹介	じゃらん家族旅行(関西・東海・中国・四国版)2021
6	夏遊びKEYWORD 水族館 生き物の世界を体験! 琵琶湖博物館の紹介	関西ウォーカー(6/2)
6	ゾウの化石や氷期体験で古代の琵琶湖を知る 琵琶湖博物館の紹介	AERA with Kids 21夏号
6	琵琶湖を五感で体験できる盛り沢山の博物館 琵琶湖博物館の紹介	おでかけmoa 7月号
6	2020年グランドオープン!“びわこのちから”に触れる博物館 琵琶湖博物館の紹介	滋賀たび 2021summer
6	2021年度体験プログラム「季節の植物でアロマウォーターを作ろう!」「企画展示「湖国の食事(くいじ)」「ちっちゃな子どもの自然遊び7月」「田んぼ体験(7月)」「企画展開連シンポジウム「未来を醸す〜湖国の食事文化〜」「滋賀の食をめぐる大冒険!」「下物ピオトープ観察会」「マイナス80度から復活した微小生物」の紹介	しがこども体験学校
6	全国の博物館も呼んでいる?世界で唯一淡水にすむアザラシに会える琵琶湖博物館	翼の王国(ANAグループ機内情報誌)
6	よりどり滋賀巡り 琵琶湖博物館の紹介	SHIGA`s GUIDE 2021.7
6	なぜ自分は学ぶか考えて 福高の土曜講座 考古学者から講義を受ける 講師に妹尾裕介学芸員	両丹日日新聞(6/23)

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
6	滋賀県立琵琶湖博物館に行こう！	湖南フリモ（草津・守山・栗東・野洲） 2021.7 vol.34
6	滋賀県立琵琶湖博物館に行こう！	甲賀フリモ（湖南市・甲賀市）2021.7 vol.28
6	「びわ湖の日」40周年記念シンポジウム（会場：琵琶湖博物館ホール）	40周年記念シンポジウムチラシ
6	[企画展関連シンポジウム「未来を醸す～湖国の食事文化～」、企画展示「湖国の食事（くいじ）」の案内 / 琵琶湖博物館ブックレット14 「琵琶湖と俳諧民俗誌－芭蕉と蕪村にみる食と農の世界－」の紹介	Duet 2021夏 vol.139
6	7月1日はびわ湖の日 滋賀のええもん楽しむ！観光スポット情報	びわ湖の日滋賀とびわ湖を味わう、楽しむ （生活協同組合コープしがのチラシ
7	7月1日びわ湖の日40周年 「びわ湖の日」40周年記念シンポジウム（会場：琵琶湖博物館ホール）企画展示「湖国の食事（くいじ）」紹介	滋賀プラス1（県広報誌）7・8月号 vol.192
7	琵琶湖博物館のイベント紹介 企画展示「湖国の食事（くいじ）」「滋賀の食をめぐる大冒険！」「下物ビオトープ観察会」「マイナス80度から復活した微小生物」「湖探検 琵琶湖に入って生き物をさがそう」	広報烏丸 第52号
7	コイとノゴイは別の種類 <写真資料提供：『ノゴイ』>	加藤先生のいきものふしぎ発見
7	なつかしの20世紀 富江家紹介	電車&ウォーク 2021.7月
7	琵琶湖博物館ブックレット 新作2作紹介 『琵琶湖と古墳～東アジアと日本列島からみる～』用田政晴名誉学芸員・神戸学院大学教授、『琵琶湖と俳諧民俗誌－芭蕉と蕪村にみる食と農の世界－』篠原徹名誉館長	滋賀報知新聞（7/8）
7	琵琶湖を次の世代に引き継ぐために 琵琶湖博物館で「びわ湖の日」40周年記念シンポ開催	滋賀報知新聞（7/15）
7	2020年秋に全面リニューアル完成！ 琵琶湖博物館の紹介	まっふる 京阪神・名古屋発 家族でおでかけ（夏休み号）
7	[琵琶湖センス・オブ・ワンダー]湖と人が織りなす歴史と今(2) 琵琶湖であるために必要なこと 里口保文総括学芸員 / 「滋賀の食事文化研究会」の30年学び合って、知恵を未来へ 琵琶湖博物館で企画展「湖国の食事」開催	湖国と文化 176号 2021年夏号
8	企画展示「湖国の食事（くいじ）」「湖探検 琵琶湖に入って生き物をさがそう」「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」「ちっちゃな子どもの自然遊び 9月」の紹介	博物館研究 vol.56 No.9 (No.640号)
8	企画展示「湖国の食事（くいじ）」/ 企画展関連講座「江戸時代の料理書、『合類日用料理抄』を読んでみよう」「はしかけ登録講座」「わくわく知恵さがし・楽しく学びあい 講座」「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」「プランクトンでピンゴ」「ヨシ灯りをつくろう！」の紹介	れいかる（湖国文化情報）9・10月号 vol.123
8	滋賀県立琵琶湖博物館 湖と人間のより良い共存関係、新しい関係を目指して 金尾滋史主任学芸員	WILDLIFE Forum（野生生物井戸端会議） vol.26
8	国内最大級の淡水水族展示で古代湖・琵琶湖の魅力を知る 琵琶湖博物館の紹介	casa brutus
9	企画展示「湖国の食事（くいじ）」「わくわく知恵さがし・楽しく学びあい 講座」「ちっちゃな子どもの自然遊び 10月」の紹介	博物館研究 vol.56 No.10 (No.641号)
9	琵琶湖博物館入館ペアチケットプレゼント	ピースマム滋賀 vol.55 Autumn
9	滋賀県立琵琶湖博物館をたんけん 琵琶湖の王さま、ピワコオオナマズに会いにいこう 金尾滋史主任学芸員、バイカルアザラシ 松岡由子学芸員	関西みんなの動物園と水族館
9	[9月10月の特別展] 企画展示「湖国の食事（くいじ）」の紹介	全科協 NEWS vol.51 No.5 (No.300号)
10	企画展示「湖国の食事（くいじ）」「ちっちゃな子どもの自然遊び 11月」の紹介	博物館研究 vol.56 No.11 (No.642号)
10	企画展示「湖国の食事（くいじ）」 2021年子どもエコクラブ絵日記、壁新聞展示（仮） ギャラリー展示 ようこそ「琵琶湖科学館」へ（仮）/ 「わくわく探検隊 植物の化石を掘り出そう！」「わくわく探検隊 綿にふれてみよう！」「ちっちゃな子どもの自然遊び11・12月」「田んぼ体験11・12月」「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」の紹介	れいかる（湖国文化情報）11・12月号 vol.124
10	[琵琶湖センス・オブ・ワンダー]湖と人が織りなす歴史と今(3) メタセコイア彩る太古の水辺 山川千代美上席総括学芸員	湖国と文化 177号 2021年秋号
10	[関西ナビ TOPICS] 半身半骨の巨大ゾウがお出迎え琵琶湖博物館	あんふあん（関西版）2021.11
10	関西文化の日 府県別入館無料施設リスト	関西文化の日（2021.11.13～14）チラシ
11	企画展示「湖国の食事（くいじ）」滋賀で受け継がれた知恵と技	滋賀民報（11/7）
11	県内で30年ぶり、コガタノゲンゴロウ 長浜市の小学生が発見	滋賀民報（11/14）
11	知ってる？「MLGs」展示で「琵琶湖版SDGs」を身近に子供向けイベントも琵琶湖博物館で11月に実施	リビング滋賀 1788号(11/27)
11	ちょっとおでかけ、もりやまへ	もりやまっぷ（簡易版）

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
11	琵琶湖博物館入館者数ランキング 152 (20年度順位)、186 (19年度順位)	レジャーランド&レクパーク総覧 2022
11	戦国武将・明智光秀が琵琶湖畔に築いた坂本城の石垣 中井克樹専門学芸員が解説	週刊文集
12	ギャラリー展示「琵琶湖の虹が映える理由」「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え!」、わくわく探検隊「昔の地図からびわ湖を知ろう」「わくわく探検隊 船 de アート!」「お魚モビルを作ろう!」「田んぼ体験2月」「ちっちゃな子どもの自然遊び1・2・3月」「はしかけ登録講座」「新琵琶湖学セミナー」の紹介	れいかる (湖国文化情報) 1・2・3月号 vol. 125
1	新琵琶湖学セミナー「琵琶湖の三大問題-深呼吸・水草・外来種は今どうなっている?」紹介	滋賀プラス1 (県広報誌) 1・2月号 vol. 195
1	琵琶湖博物館の第3期リニューアルを対象にした評価事例 里口保文総括学芸員、佐々木亨北海道大学大学院文学研究院教授	博物館研究 vol. 57 No. 2 (No. 645号)
1	[琵琶湖センス・オブ・ワンダー]湖と人が織りなす歴史と今 (4) 湖底に眠る琵琶湖の記憶 林竜馬主任学芸員 芭蕉のふたつの旅 近江の句、定住者の視線 篠原徹琵琶湖博物館名誉館長	湖国と文化 177号 2021年秋号
1	琵琶湖博物館開館25周年記念 新琵琶湖学セミナーオンラインで開催 案内	(月刊) コロンブス 2月号増刊
2	[近江の先覚]女性管理職の道を拓いた芥川美栄子先生 県立琵琶湖博物館建設準備委員会委員となり創設に寄与 <資料提供:『琵琶湖博物館開館までのあゆみ(記念誌)』> <写真提供:『開館記念式典』>	近江教育 (第686号)
2	青春18きっぷで行く、大人旅!大人も子どもも夢中に!お楽しみ満載の「琵琶湖博物館」へ 博物館・「にほのうみ」・「おいでや」の案内	co-opステーション3 (通巻401号)
2	「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え!」展 琵琶湖博物館で開催	滋賀報知新聞 (2/10)
2	滋賀の自然を楽しく学べる! ギャラリー展示「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え!」「琵琶湖の虹が映える理由-湖の「なぜ」がわかる物理学-」「森へ行こう、森と生きよう」の紹介	パブリッシュ vol. 278
2	「はしかけ登録講座」の紹介	博物館研究 vol. 57 No. 3 (No. 646号)
3	イベント告知 全国植樹祭プレイベント@琵琶湖博物館	滋賀プラス1 (県広報誌) 3・4月号 vol. 196
3	ギャラリー展示「森へ行こう、森と生きよう」、「ごはん・お米とわたし」 図画・作文コンクール 図画作品展示、「ちっちゃな子どもの自然遊び4・5・6月」「はしかけ登録講座」「里山体験教室」「田んぼ体験5月」の紹介	れいかる (湖国文化情報) 4・5・6月号 vol. 126
3	話題満載の琵琶湖をドライブ 太古や湖中など琵琶湖を体感できる琵琶湖博物館など滋賀コースを紹介	関西ウォーカー2022 春
3	ミュージアムがリニューアルラッシュ! パワーアップした展示室に注目の県立琵琶湖博物館と家族みんなで楽しめるしせつに! 県立美術館の紹介	るるぶ滋賀びわ湖長浜彦根' 23
3	気候変動問題2回目 考えてみませんか私たちの地球のこと 琵琶湖が出すサイン 戸田孝専門学芸員の話	しが健康友の会だより No. 182

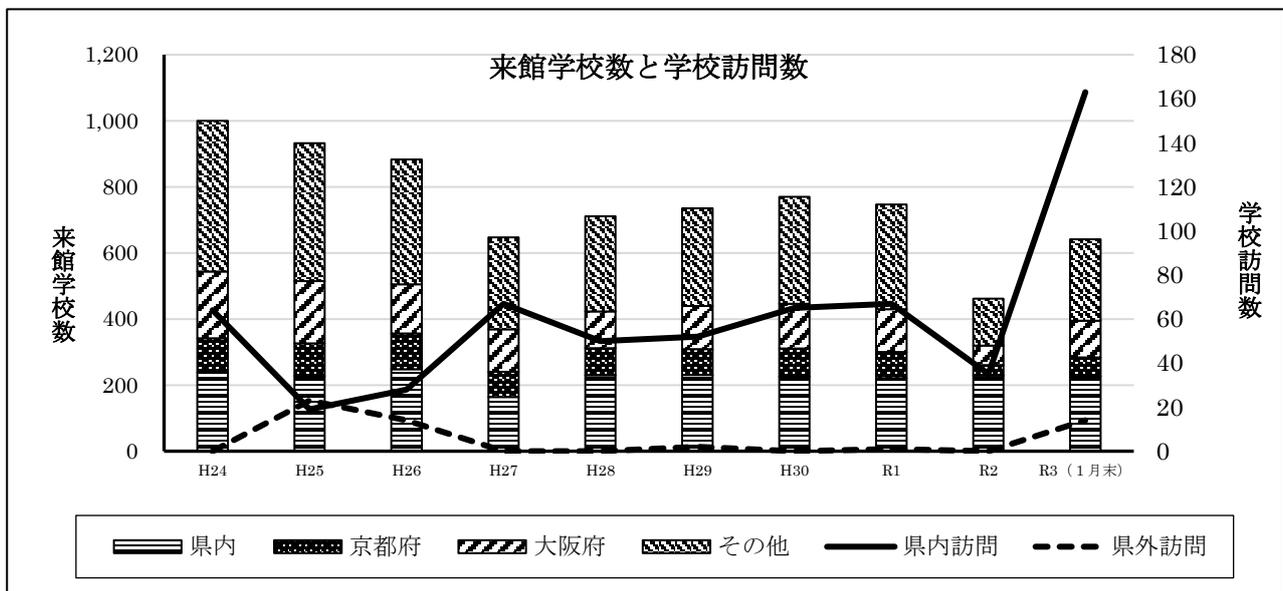
6) 学校・団体等への訪問活動

団体(一般・学校等)への広報活動

学校団体等	対象者	対象人数	
県内	一般団体	県老人クラブ総会 (コロナ感染防止で中止) 文書配布	21
		県地域女性団体連合会 役員会	23
		県子ども会連合会総会 (コロナ感染防止で中止) 文書配布	18
	各市町校長会	米原市、甲賀市、長浜市 彦根市、蒲生郡	128
		野洲市、大津市 (小・中) 高島市 (中)、愛知・犬上郡、湖南市、守山市	111
		近江八幡市、高島市 (小) 草津市、栗東市	61
		東近江市	24
一般教員	大津市小中初任者研修会	55	
県外	福井県	新任教頭研修会オンライン (zoom)、新任校長研修会オンライン (zoom)	125
	京都府	城久支部校長会、宇治支部校長会、相楽・綴喜支部校長会は感染防止のため中止	33
		京都市小学校校長会支部長会 (コロナ感染防止のため書面のみ)	16
	大阪府	大阪市幹事校長会、大阪府小学校理事校長会	104
		堺市小学校理事校長会、堺市小学校全員校長会オンライン (zoom)	121
		箕面市小中教頭会 (コロナ感染防止のため書面のみ)	20
計		860	

学校訪問広報活動

	校種	市町	学校数	市町	学校数	市町	学校数	学校数	学校数	
県内	小学校	大津市	31	彦根市	11	長浜市	22	近江八幡市	8	
		草津市	9	守山市	0	栗東市	3	甲賀市	17	
		野洲市	1	湖南市	2	高島市	9	東近江市	7	
		米原市	7	日野町	4	竜王町	1	愛荘町	0	
		豊郷町	2	甲良町	1	多賀町	2	滋大附小	1	
								計	138	
中学校	米原市, 彦根市, 野洲市, 守山市, 東近江市								6	
高校・大学・養護学校	高校 2 大学 1 養護学校 1								4	
県外	京都府	小学校 (宇治市, 城陽市, 木津川市, 長岡京市, 宇治田原町, 京都市)								21
	大阪府	小学校 (大阪市, 堺市, 箕面市)								3
								計	172	



(3) 予算

2021年度歳入 (円)

科目	決算額
使用料及び手数料	107,487,037
財産収入	487,370
諸収入	17,777,736
合計	125,752,143

2021年度歳出 (円)

事業名	事業内容	決算額
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費、広報費	286,993,131
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	120,460,116
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物 展示交流空間再構築事業	107,475,123
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開 催、フィールドレポーター	9,880,279
環境学習推進費	環境学習センターの運営	6,250,709
合計		531,059,358

(4) 寄付など

91件 18,042千円

琵琶湖博物館応援寄付	7件	6,962千円
水槽サポーター	42件	2,825千円
樹冠トレイルサポーター	8件	800千円
メンバーシップ	33件	7,400千円
キャンパスメンバーズ	1件	55千円

4 存在基盤の確立

(1) 琵琶湖博物館協議会

第1回

開催日時 2021年11月10日(水) 13:10～15:10

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

- 議 題 ① 令和3年度の琵琶湖博物館活動について
 ② 新琵琶湖博物館創造基本計画
 令和2年度評価および5年間の総括について
 ③ 第三次中長期基本計画について

第2回

開催日時 2022年3月12日(土) (参加・オンライン併用開催)

- 議 題 ① 令和3年度の琵琶湖博物館活動について
 ② 第三次中長期基本計画について

第13期委員

(任期：2020年9月1日～2022年8月31日)

氏名	区分	現職 (令和4年3月現在)
山崎 賢	学校教育	草津市立老上小学校長 (～11/1)
廣瀬 智彦	学校教育	草津市立常盤小学校校長 (11/2～)
古川 昌弘	学校教育	大津市立田上中学校校長
中野 栄美子	社会教育	NPO 法人カーボンシンク代表理事
鹿田 由香	家庭教育	滋賀子育てネットワーク代表
荒井 紀子	環境保全	ホテルの学校代表
村上 由美子	文化財保護	京都大学 総合博物館研究部資料基礎調査系准教授 (考古学)
山西 良平	学識者	西宮市貝類館顧問
土井 通弘	学識者	就実大学人文科学部名誉教授
池田 千晶	学識者	中日新聞大津支局長 (～11/1)
手島 一宏	学識者	日本放送協会大津放送局長 (11/2～)
中坊 徹次	学識者	京都大学名誉教授
中川 毅	学識者	立命館大学 総合科学技術研究機構古気候学研究センター長 (教授)
岡田 佳美	その他	(株)コクヨ工業滋賀開発グループ グループリーダー 課長
田淵 千恵子	その他	手話通訳士
遠藤 正一	その他	公募委員
龍見 瑞季	その他	公募委員

(2) 企画・計画

1) 琵琶湖博物館第三次中長期計画

琵琶湖博物館中長期基本計画（平成17年度～平成27年度、2005年度～2015年度）、新琵琶湖博物館創造基本計画・行動計画（平成28年度～令和2年度、2016年度～2020年度）を引き継ぎ、つぎの10年間の琵琶湖博物館の方針を定める琵琶湖博物館第三次中長期基本計画を令和3年に策定した。

この計画では「出あい、学びあい、琵琶湖を世界へ発信する博物館へ」をモットーに10年後の社会において琵琶湖博物館が果たすべき役割を設定し、その実現に向けて次の6つの重点目標を掲げた。

- 事業目標1 琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介
- 事業目標2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備
- 事業目標3 みんなで学びあう博物館へ
- 事業目標4 もっと使いやすい博物館へ
- 事業目標5 より多くの人が利用する博物館へ
- 事業目標6 博物館の活動を安定して継続する

各事業目標の下には2ないし3つの重点事業を設けた。令和3年度は各重点事業について10年後の達成状況と5年目までの工程表を作成した。この工程表に基づいて事業を進め、年度ごとに自己評価と外部評価を行いながら進行を管理する。また、5年目をめどに計画の方向性や効果を検証し、必要に応じて修正しながら、ゴールを目指していく。

次ページに第三次中長期基本計画概要版を図で示す。

琵琶湖博物館の使命

存在意義/果たすべき役割

琵琶湖博物館は、人々が湖とともに生きることに考えるための情報や機会を提供します。琵琶湖博物館はみなさんとともに、琵琶湖とその周囲の自然や湖とともにある暮らしの多様性や成り立ちについて探求し、発見したことを広く共有し、ともに学びあう場を創ります。また、貴重な資料を将来にわたって保管・継承し、多くの人々に使えるようにすることで、みなさんの活動を世代を越えて応援・継承します。

基本理念

活動の指針/どんな博物館を目指すか

- テーマをもった博物館
「湖と人間」というテーマにそって未知の世界を研究し、成長・発展する博物館
- フィールドへの誘いとなる博物館
魅力ある地域への入口として、フィールドへの誘いの場となる博物館
- 交流の場としての博物館
多くの人びとによる幅広い利活用と交流を大切にしている博物館

琵琶湖博物館の使命から想定される10年後の社会の姿

- ① 多くの人々が琵琶湖とともに生きることに価値を感じることができ、その幸せが将来にわたって継承されていく社会。
- ② 誰もが日常の中で、湖との暮らしのより良いあり方を探求・実践でき、その成果を多くの人と共有する機会を持っています。
- ③ また、さまざまな人々が出会い、学びあうことで新たな発見や活動の持続が可能になっています。

使命を果たすための計画的な発展（これまでの経緯）

琵琶湖博物館中長期基本計画（平成17年度～平成26年度）

「地域だれでも・どこでも博物館」

地域の人々とともに研究や資料収集・交流活動を行い、地域で活動する人々たちを応援できる博物館となる



新琵琶湖博物館創造基本計画（平成27年度～令和2年度）

（第二次中長期基本計画）

「博物館の『木』から地域の『森』へ」

展示交流空間のリニューアルにより、より多くの人が使いやすい博物館を目指すとともに、さまざまな主体との連携をを広げ、より多くの人と共に「湖と人間」について考える博物館となる



琵琶湖博物館第三次中長期基本計画

期間：令和3年度～令和12年度

「出あい・学びあい、琵琶湖を世界へ発信する博物館へ」

国内外の多くの人々に琵琶湖やその周囲の暮らしの価値・魅力を発信するとともに、持続的な共存を目指す人々の活動を日常的に支える博物館となります。

計画の構造：10年後の社会に貢献するために6つの事業目標を設定し、各事業目標の達成に必要な事業を重点事業として設定しました。
 計画の運営：重点事業の進捗と事業目標の達成度で評価を行いながら事業を進め、5年目の中間段階で見直しを行います。

事業目標

事業目標 1 琵琶湖の魅力深く掘り下げ、世界に紹介

琵琶湖やその周りの暮らしの魅力を地元の人々や国内外の研究者とともに発見し、その魅力を国内外に広く発信します。

事業目標 2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

貴重な標本・資料を将来にわたって人々が利用できるよう、適切な整理・保管を進めるとともに、ICTを活用した利用方法の開発により、博物館の知的資源を「だれでも・いつでも・いつでも」使えるように整備します。

事業目標 3 みんなで学びあう博物館へ

交流事業を知識や経験を交換し合う「学びあいの場」と位置づけ、さまざまな人々や組織と連携して充実を図るとともに、参加する人の相互の「出会い」が新たな活動につながる環境を創ります

事業目標 4 もっと使いやすい博物館へ

琵琶湖を知る「入口」としての展示を、より使いやすい、常に成長する展示として発展させます。

事業目標 5 より多くの人が利用する博物館へ

ICTを活用し「世界」を見据えた広報を展開して、より多くの人の利用を実現します。また、双方向の広報によって常に博物館の社会的評価を情報収集し、博物館の魅力向上に役立てます。

事業目標 6 博物館の活動を安定して継続する

老朽化した施設の改修や、災害に強い体制の確立を進めるとともに、活動基盤の安定のために、さまざまな支援を受ける仕組みづくりを進めます。

重点事業

- ・世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進
- ・研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力の人々に伝える
- ・研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

- ・標本・資料の管理体制の強化
- ・標本・資料の整理の推進と公開による利用促進
- ・ICTを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出

- ・幅広いニーズに応える交流事業の充実
- ・出合いの場の創出
- ・「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援

- ・誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長
- ・「観る」展示から、「観る+使う」展示への成長
- ・社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

- ・ICTを活用した琵琶湖の魅力とその入口としての琵琶湖博物館の紹介
- ・双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映
- ・来館しやすい環境の整備

- ・老朽化した施設の改修と災害への備え
- ・安定した活動基盤を確保する仕組みづくり

2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

2021年度は、コロナ禍のため、前年度同様、先の読めない中での広報ではあったが、2021年5月放送の人気番組『世界ふしぎ発見!』での博物館紹介をはじめ、メディア関係者、旅行雑誌社等からの取材や映像・写真資料の提供の機会がリニューアル効果により格段に増えたことなどにより、効果的な広報PRを実施し、認知度向上に努めることができた。

上半期は、新型コロナウイルス感染対策に伴う2021年4月29日から5月11日および8月27日から9月30日までの2度にわたる臨時休館対応のため、臨時休館対応・再開情報や企画展示情報などを含め、18件の資料提供を行うなどその都度、必要なタイミングで広報対応を行ってきた。

下半期は、感染状況に留意しながら博物館活動に関わる資料提供を20件行うなど、可能な限り情報発信に努めた。

ホームページによる継続的な情報発信、広報担当職員による県内外小中学校訪問などを行うと共に、旅行関係者や観光関係者との連携をはじめ、旅行誌やグルメショッピング情報誌・フリーペーパーを使った広告、インターネット・SNSの広告やWebメディアへの記事掲載等を行い、広域的な広報活動や情報拡散にも力を注いだ。また、年間を通じて、新聞各紙の寄稿枠を活用した広報の他、県内季刊誌『湖国と文化』において、美しい風景写真とのセットによる寄稿および広告掲載などにより、年間を通じて切れ目のない広報や話題づくりを展開した。

また、コロナ禍での対策として、当館のPRに相応しいYouTuberを誘致するなど、webによる情報発信を強化するとともに、公式YouTubeチャンネルの刷新を図り、2月下旬「びわこのちからチャンネル」としてリニューアルし、学芸員が登場する動画4本を含む動画や館内紹介の360度動画などを発信した結果、3月末時点で20万回以上の再生回数を記録した。

Ⅲ 2021 年度をふり返って

1 研究部

2020 年度にこれまでの研究成果の発信として実施した展示リニューアルを終え、研究部では、第三次中長期基本計画に基づき、2021 年度は次の展示更新も見据えた新たな研究のスタート年として、研究の推進に努めた。

館内からの総合研究、共同研究に加え、外部資金による研究も含め、2021 年度も引き続き外部研究者も関わる複数の研究プロジェクトを実施した。特に総合研究は、琵琶湖における約 150 年間の環境変遷情報を収集、整理して、個々の関係を検討することで、湖と人の関わり方の未来を考える情報セットを提供する目的で実施している。各分野の成果は上がってきているが、全体的な方向性についての議論とまとめが不十分であるため、今後詰めていく必要がある。また、次期総合研究についても次年度には議論を始める必要がある。

研究発信では、新たな取り組みとして、独自に出版している研究調査報告の J-Stage への掲載を実現した。その他、研究・資料関連のウェブサイトページが、リサーチアーカイブズとして別サイトのような構造になっていたものを、メインウェブサイトにとまとめる方向でデザインを一新した。また、研究紹介ページも追加された。このように、インターネットを使った研究発信の基盤づくりはできてきたが、今後は具体的な研究内容の発信が必要である。一般向けの発信としては、新聞や雑誌の連載が増え、ほぼ全ての新聞に連載を掲載することになった。広く研究成果や展示内容等を発信できるのが利点であるが、原稿執筆に追われて内容が薄くなってきており、今後整理していく必要が出てきている。新琵琶湖学セミナーについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初めて完全オンラインで開催した。滋賀県外からも多数の参加があり、オンラインのメリットは認められたが、一方でネット環境のない方は参加を断念されるということもあった。

研究交流は、2021 年度も感染症拡大の影響を受け、可能な範囲での交流のみを実施することとなった。県内試験研究機関連絡会議の発表会も、オンラインでの開催となった。ただし、県の研究機関を超えて組織された新型コロナウイルス感染症対策班 情報・疫学統計チームは、研究成果の一部を論文として発表することができた。

研究環境の整備としては、2021 年度は特筆すべき取り組みがあった。必要備品については、今後の更新の必要性を示した備品更新計画を更新し、優先順位の高い大型備品の予算確保を実現した。また、研究棟の空調設備が老朽化し故障が相次いでいるため、精密機器等による分析に支障をきたしている生態進化実験室の空調設備を追加し、研究環境の改善を図った。さらには、研究時間確保のため統一的な研究・事業専念時間設定の試行を開始した。年度末のアンケート調査により課題と効果が抽出されており、今後はそれをもとにした研究・事業専念時間設定の改善が必要である。

2 事業部

(1) 展示

新型コロナウイルス感染症対策のため、前年度から引き続き、入館人数を制限しながらの展示公開となった。また、4月29日～5月11日と、8月28日～9月30日までの2回にわたり臨時休館になった。展示室での感染症対策は現在も継続しており、特に飛沫感染のリスクを十分に下げられるための対策を徹底している。例年、質問コーナー担当が行っているフロアトークも、前年度に引き続いて中止した。一方、ものを介した接触感染のリスクは従来考えられていたよりも小さいことがわかってきたので、ハンズオン展示の大部分を再開した。

2020年10月にリニューアルオープンしたA展示室では「地域の人びとによる展示」、同じくB展示では「学芸員のこだわり展示」のコーナーをそれぞれ設けることにより、定期的に新しい情報を発信できるよう工夫している。C展示室や水族展示室では、小さな展示更新を複数実施し、あるいは準備した。水族展示室、ディスカバリールーム、おとなのディスカバリーでは、主として季節に合わせた展示更新を行った。さらに現在、すでに導入されている「ポケット学芸員」の活用による音声ガイドの増強と多言語化、QRコードなどを活用した展示とインターネットコンテンツとの連携などを構想し、一部を試行している。

第29回企画展示「湖国の食事（くいじ）」は、「滋賀の食事文化研究会」との共同主催により行われた。土地の自然の恵みを食事として享受する知恵や技能、それを可能にしてきた自然環境や文化的背景を紹介するとともに、その継承を来館者とともに考えることを目的とした。また、4件のギャラリー展示および7件のトピック展示が行われた。ギャラリー展示のうち3件およびトピック展示のうち4件は、琵琶湖博物館以外の主催あるいは共同主催であり、展示を通じた地域の様々な団体との連携が進んだ。

(2) 資料の整備・活用

2021年度は、資料の収蔵庫環境の改善に向けた活動を進めてきた。原因が不明であった民俗収蔵庫(1)の雨漏りの漏水場所が特定され、改修することが出来た。燻蒸庫の制御盤が老朽化して危険なため、修理に向けて2022年度予算に計上した。各収蔵庫の棚の過不足調査を行い、棚や収蔵庫の増設計画をたてる資料を作成した。収蔵庫内の天井の蛍光灯が安定器不良により消灯しているため、LED化に向けた調査も行なった。収蔵庫内の温湿度を管理するため、2019年度からデータロガーを増設しており、2021年度は（地学・動物収蔵庫）、クラウドサーバー上でリアルタイムに監視するためのシステムを導入した。また、収蔵庫空間におけるカビ防御のため、前年に引き続き、扇風機や除湿器の設置や外気の遮断など空気環境の改善も行った。新型コロナウイルス感染症の流行により、万一感染者が出た場合の収蔵庫空間での過剰な消毒作業などを避けるため、休館期間中は試料の閲覧を制限し、各収蔵庫への入庫に際しては手洗いの徹底、扉に設置した入退室記録簿の記入を徹底するようにした。これまでに収集し、当館に収蔵されている資料は146万点を超え、そのうち登録資料は68万点を超えることとなったが、収蔵資料の半数以上がまだ登録されていないことから、今後の利用を考えた資料の整理および登録を着実に進めていく必要がある。公益財団法人日本動物園水族館協会より、初めて繁殖に成功した種について認定される制度において、当館が繁殖させたツチフキ（コイ科）*Abbottina rivularis*が認定された。当館の保護増殖センターによる活動が評価されたものである。

(3) 交流・サービス活動

博物館周辺や県内各地で、計12件の観察会等および3種類の講座（はしかけ登録講座、琵琶湖地域の水田生物研究会、新琵琶湖学セミナー）、里山体験教室（計3回）、田んぼ体験（計5回）を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、観察会等19件は中止となった。地域との交流活動・地域連携事業は、館内で17件・参加者426名、館外ではオンライン講義を含めて39件・参加者2,021名の活動実績となった。学校行事で来館した入館学校数は487校、入館児童生徒数は35,923人で、前年度より116校、9,379人増加した。学校団体向けの体験学習を実施した学校数は53校、受講者数は4,111人であった。

フィールドレポーターは昨年度からの継続として5月まで「えっ!?こんなところにもヌートリア」調査を実施した。フィールドレポーターの登録者数は184名であった。「はしかけ」制度の登録者は年度末時点で393名であった。

3 総務部

(1) 来館者の状況

2020年度から引き続き、完全予約制による入館者の制限、開館時間の短縮、展示の一部公開休止など感染対策を継続しての開館となった。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、ゴールデンウィーク（令和3年4月29日～令和3年5月11日）と、令和3年8月27日～令和3年9月30日の間の2回にわたり臨時休館した。

一方で企画展示「湖国の食事（くいじ）」を開催するとともに、発券システムのキャッシュレス化、チケットレス化対応を県内での県立施設で初めて導入し、令和4年2月1日から稼働を開始して感染症対策と来館者の利便性の向上に取り組んだ。

最終的に2021年度の来館者数は278,961人と目標の59万人を大幅に下回ったが、対前年度比では25千人の増となった。

(2) 企業・団体との連携

CSRやSDGs等の環境保全の取り組みが大きな社会的役割を果たすようになり、これまで博物館においても企業・団体等を重視すべきパートナーと位置づけ、「リニューアルサポーター」や「メンバーシップ」、「水槽サポーター」「樹冠トレイルサポーター」「キャンパスメンバー」等の各制度を運用してきた。コロナ禍においては、積極的な働きかけを行うことができず、やむを得ず、制約の多い中、限られた形での企業連携活動となったが、更新の働きかけを行い、91件18,042千円という一定の成果を得た。（リニューアル後は「リニューアルサポーター」を「琵琶湖博物館応援寄附」と名称を変更した。）また、コロナ禍の合間を縫って、対象者への感謝状の贈呈を行った。

(3) 広報戦略

2021年度は、コロナ禍により不十分であったリニューアルオープンや開館25周年を前面に打ち出し、様々なメディアを通じて、広報PR活動を展開した。

広報戦略としては、専門的な知識や豊富な実践経験を持つ民間業者に継続的に委託することができたことから、リニューアルで一新した広報コンセプト「びわこのちからの博物館。」を軸として、訴求したいターゲットに伝えたい情報を、適切な手法で届けていくという方針のもと、様々なメディアへのアプローチをはじめとする情報発信を行った結果、コロナ禍の状況下において、集中した形で、わかりやすく効果的な広報PR活動を継続的に展開することができた。

(4) 施設整備

長寿命化事業による本館および別館の壁面タイルと屋上防水の部分修繕を行い、民俗収蔵庫の漏水が改善した。一方で、未修繕箇所（別館）での漏水は継続しており、次年度の修繕対応に課題を残している。感染症対策として便座のシャワートイレ化、手洗いの自動水洗化対応を行うとともに、故障したトイレ洗浄用雑用水・トイレ汚水のポンプ類を交換するなど、長引くコロナ禍の中で感染防止対策を講じつつ施設の維持に努めた。別館の宿泊棟の車椅子昇降機も修繕し、施設のバリアフリー対応の維持に努めた。

琵琶湖博物館 年報

第 26 号 2021 年度（令和 3 年度）

令和 4 年（2022 年）6 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 番地

電話 077-568-4811